

平成 25 年度川崎市男女共同参画センター協働事業

川崎市民の地域コミュニティ参画に おける課題調査事業 報告書

特定非営利活動法人 地域彩生フォーラム

川崎市男女共同参画センター

2014年2月

目次

はじめに	1
第1章 シニアの現状	2
本章のまとめ	2
第1節 シニアの状況	3
第2節 今後の高齢化率の推移予測	5
第3節 シニア世代の構成	6
第4節 シニアのライフスタイル	9
第5節 シニアの社会的孤立による問題と解決の必要性	11
第2章 調査	13
本章のまとめ	13
第1節 調査概要	14
第2節 回答者属性	15
第3節 シニアの状況	17
第4節 地域活動について	28
第3章 シニアの社会参画について	33
本章のまとめ	33
第1節 概要	35
第2節 シニアの区分	35
第3節 シニアの社会参画に当たってのターゲット	42
第4節 「受動型」に関する示唆	43
第5節 「今後参加型」に関する課題	45
第6節 「今後参加型」に関する対策	54
参考資料	59
第1回アンケート結果	60
第2回アンケート結果	69
第3回アンケート結果	77
第4回アンケート結果	82
第5回アンケート結果	89
第6回アンケート結果	96

はじめに

現在、団塊の世代の大量リタイアのあった「2012年問題」から2年が経過し、リタイアしたシニア世代の地域参加や社会参加などが問題となっている。特に、男性においては、仕事から離れ、新たなセカンドライフを模索したり、新たな人間関係の構築や地域コミュニティへの参加を求めている人たちが増加している。

そこで当法人では、平成25年度川崎市男女共同参画センター協働事業において、川崎市男女共同参画センターと協働で、平成25年8月から平成26年1月にかけて、計6回の連続講座を実施し、その際に、シニアの意識や地域活動に対する考えなどについてアンケート調査を実施した。また、アンケートのみならず、毎回の講座では、グループワークを実施し、ファシリテーターとしてスタッフがワークに参加したり、座談会なども実施し、シニアの方々の生の声・意識なども積極的に聞いてきた。

そしてこれらのアンケート結果やシニアの声を踏まえ、シニアの地域活動などへの参加について、川崎市男女共同参画センターのサポート・アドバイスのもと、課題の抽出を目的に、調査を行ったものである。

新たなセカンドライフや地域コミュニティへの参加を求めるシニア世代が増える中、地域の市民団体であったり、シニア自らも含め、本書で抽出した課題に対して、新たな取り組みを実施することで、シニアがより豊かな人生を送れるような社会実現のための一助となることを期待したい。

第1章 シニアの現状

本章のまとめ

- 高齢者は増加しており、平成24年には3,079万人、総人口の24.1%に達している。川崎市においても、高齢化率は低いとはいえ、17.6%と、6人に1人は高齢者という状況。
- 一人暮らしの高齢者の増加が顕著で、特に、一人暮らしの男性については、コミュニケーション頻度が少ない傾向がある（会話の頻度の少なさについて、一人暮らし男性は28.8%、一人暮らし女性は22.0%）。
更に、困ったときに頼れる人がいない一人暮らし男性は20.0%（一人暮らし女性は8.5%）
- 高齢者のライフスタイルについて、59.2%が何らかのグループ活動に参加。逆に言うと、グループ活動に参加していない高齢者が40%強存在している。
ただ、約7割の高齢者が、何らかのグループ活動に参加したいという意向をもっている。
- 高齢者の社会的孤立が進展し、高齢者の消費者被害や高齢者による犯罪が増加し、孤立死という問題も発生している。

第1節 シニアの状況

日本国内総人口に占める 65 歳以上の高齢者の割合（高齢化率）が上昇している。平成 24 年時点で総人口 1 億 2,750 万人に対し、高齢者は 3,079 万人であり、24.1%に達している。また、内閣府の「高齢社会白書」によると、平成 24 年は前年までに比較して、65 歳～74 歳人口が大幅に増加している。これは昭和 22 年～24 年の第一次ベビーブームに誕生した、いわゆる「団塊の世代」が 65 歳になり始めたことが背景にある。

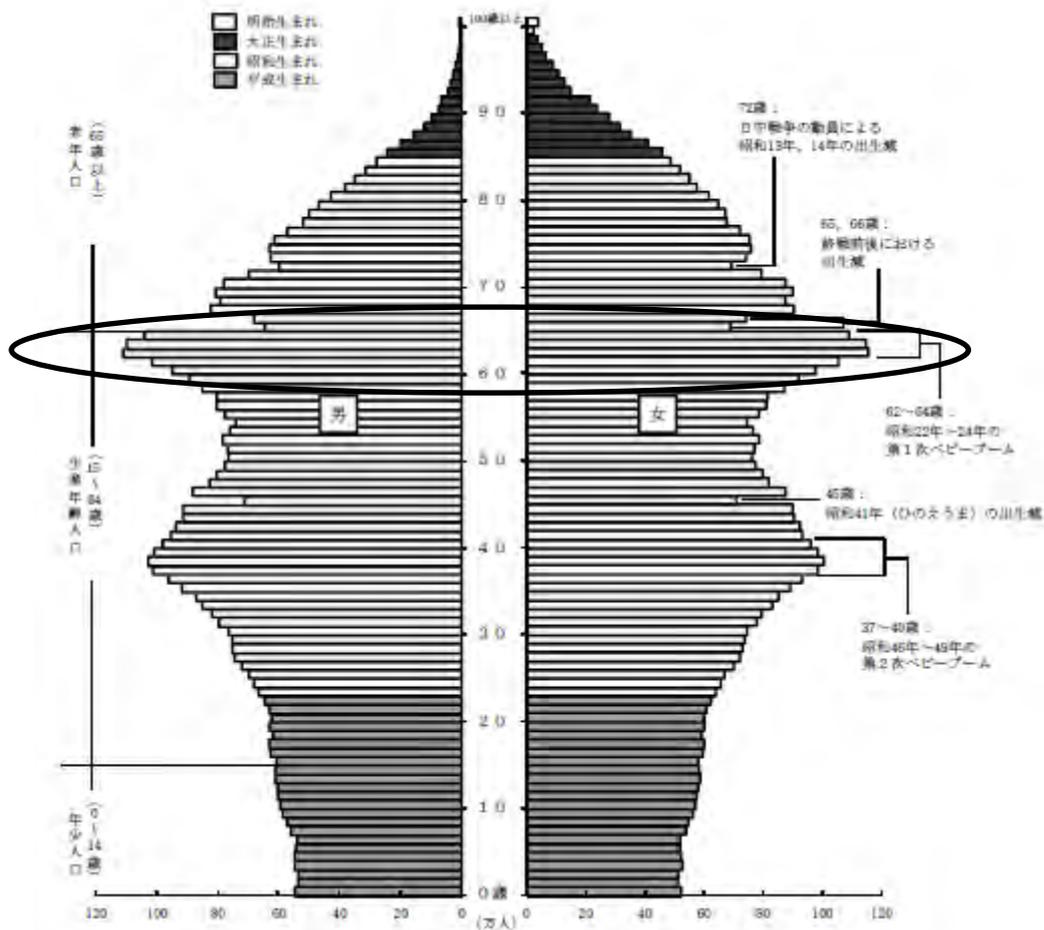
図表 1-1 高齢化の現状

		単位: 万人(人口)、%(構成比)					
		平成24年10月1日			平成23年10月1日		
		総数	男	女	総数	男	女
人口 (万人)	総人口	12,752	6,203 (性比)94.7	6,549	12,780	6,218 (性比)94.8	6,562
	高齢者人口(65歳以上)	3,079	1,318 (性比)74.8	1,762	2,975	1,268 (性比)74.3	1,707
	65～74歳人口(前期高齢者)	1,560	738 (性比)89.7	823	1,504	709 (性比)89.2	795
	75歳以上人口(後期高齢者)	1,519	580 (性比)61.8	939	1,471	559 (性比)61.3	912
	生産年齢人口(15～64歳)	8,018	4,038 (性比)101.5	3,980	8,134	4,095 (性比)101.4	4,039
	年少人口(0～14歳)	1,655	847 (性比)105.0	807	1,671	855 (性比)104.9	815
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	高齢者人口(高齢化率)	24.1	21.2	26.9	23.3	20.4	26.0
	65～74歳人口	12.2	11.9	12.6	11.8	11.4	12.1
	75歳以上人口	11.9	9.4	14.3	11.5	9.0	13.9
	生産年齢人口	62.9	65.1	60.8	63.6	65.9	61.6
	年少人口	13.0	13.7	12.3	13.1	13.8	12.4
資料: 総務省「人口推計」(各年10月1日現在)							
(注)「性比」は、女性人口100人に対する男性人口							

(出典) 内閣府「平成 25 年版 高齢社会白書」

団塊の世代の高齢者化は始まったばかりである。日本国内の年代別人口分布を見ると、若年人口の減少も相まって、今後も高齢化率の上昇は継続していくと推察される。

図表 1-2 日本国内の年代別人口分布



(出典：総務省統計局ホームページ <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2011np/>)

このような全国的な傾向の中、高齢者人口の増加は川崎市においても例外ではない。川崎市における高齢化率は17.6%と、全国平均に比較して低い水準となっているが、地域社会の6人に1人はシニアという状況である。

図表 1-3 川崎市の高齢化率

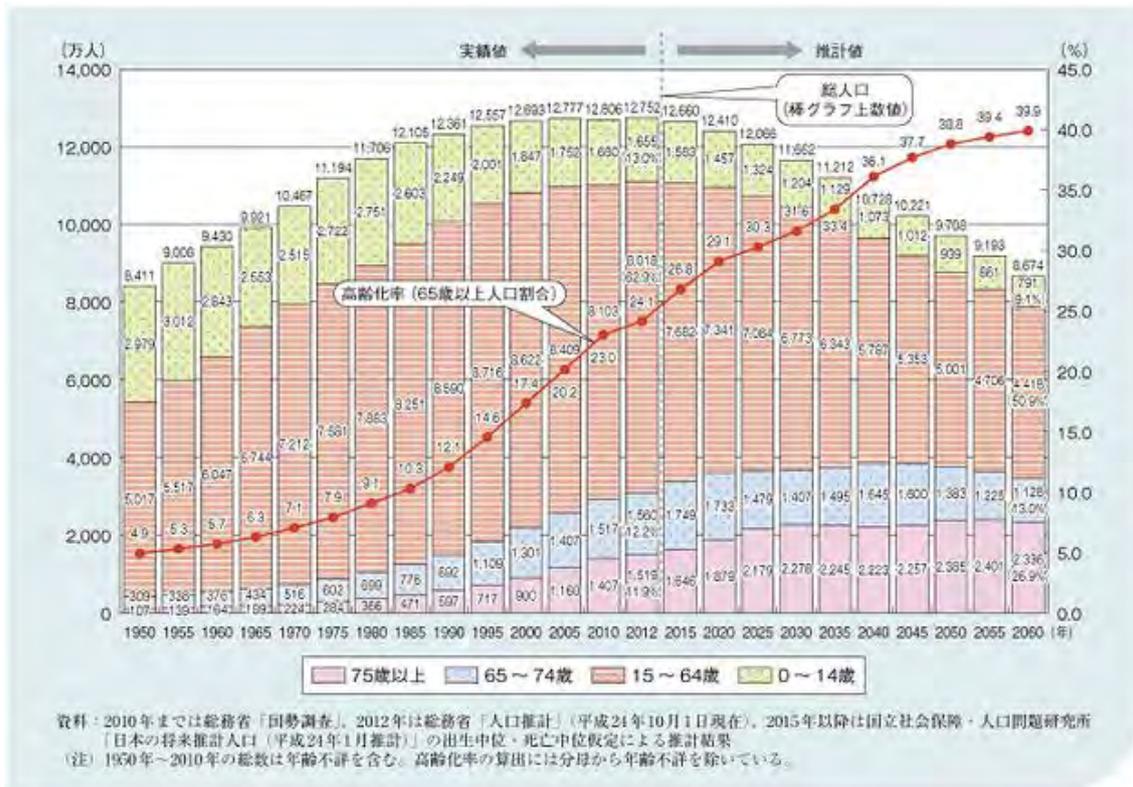
老年人口	総人口	高齢化率
253,687	1,440,124	17.6%

(出典)「神奈川県年齢別人口統計調査」より集計

第2節 今後の高齢化率の推移予測

前述の通り、高齢化率は今後も上昇していくことが予測されている。2025年には総人口の30%を超える予測であり、社会の3人に1人は高齢者になると言われている。

図表 1-4 高齢化の推移と将来推計

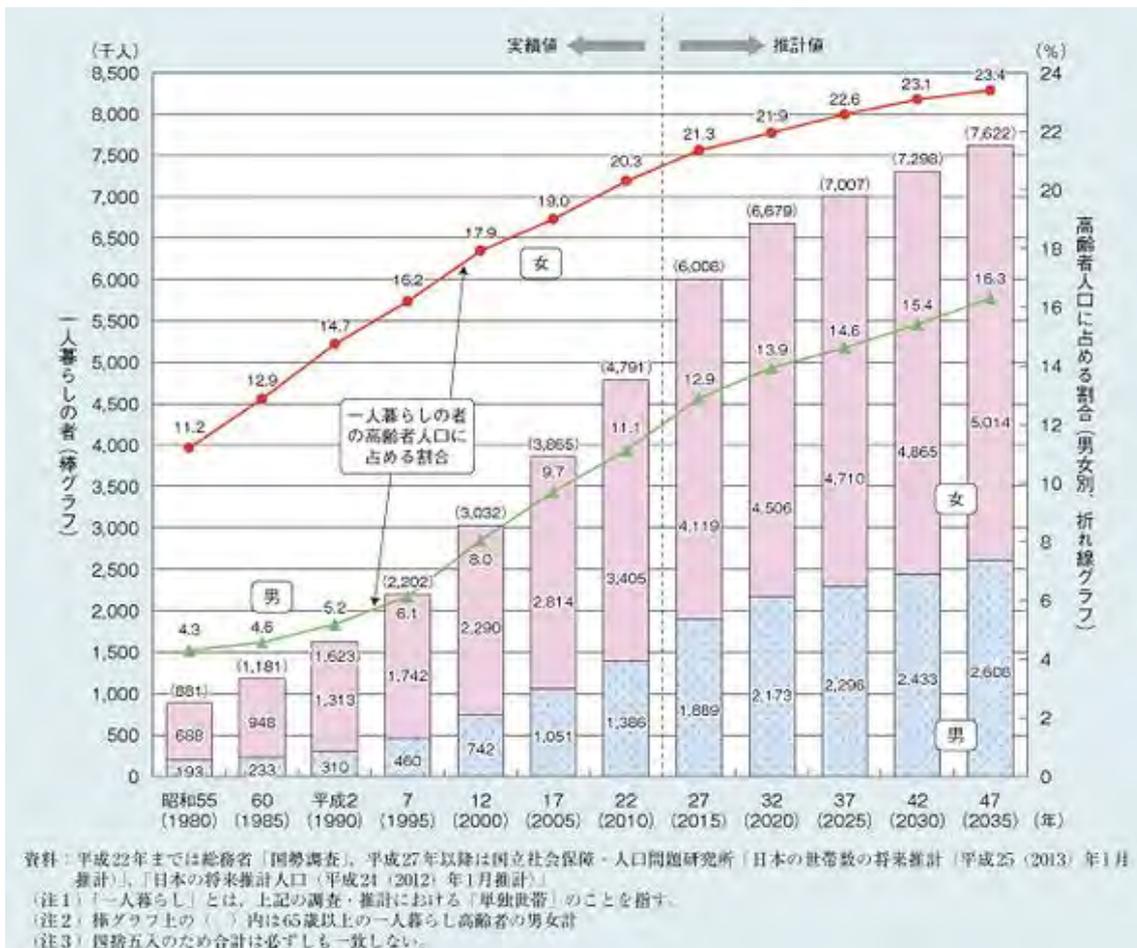


(出典) 内閣府「平成25年版 高齢社会白書」

第3節 シニア世代の構成

内閣府の「高齢社会白書」によると、シニア世代の増加とともに、一人暮らしの高齢者の増加傾向が顕著である。従来、配偶者を亡くしても子や、子の家族と同居することが一般的であったが、核家族化の進行により、配偶者を亡くしたシニアが一人暮らしとなっている。

図表 1-5 一人暮らし高齢者の動向



(出典) 内閣府「平成25年版 高齢社会白書」

次に、一人暮らし世帯のシニアのコミュニケーション状況を確認した。一人暮らし世帯の男性のうち28.8%は、周囲とのコミュニケーション頻度が少ない傾向にある。この割合は、高齢者全体の8.3%や一人暮らし世帯の女性の22.0%であることに比較して高い割合である。

図表 1-6 会話の頻度（電話やEメールを含む）



(出典) 内閣府「平成25年版 高齢社会白書」

また、一人暮らし世帯の男性のうち20%は困ったときに頼れる人がいないと回答しており、同様に一人暮らし世帯の女性の8.5%と比較して高い割合となっている。

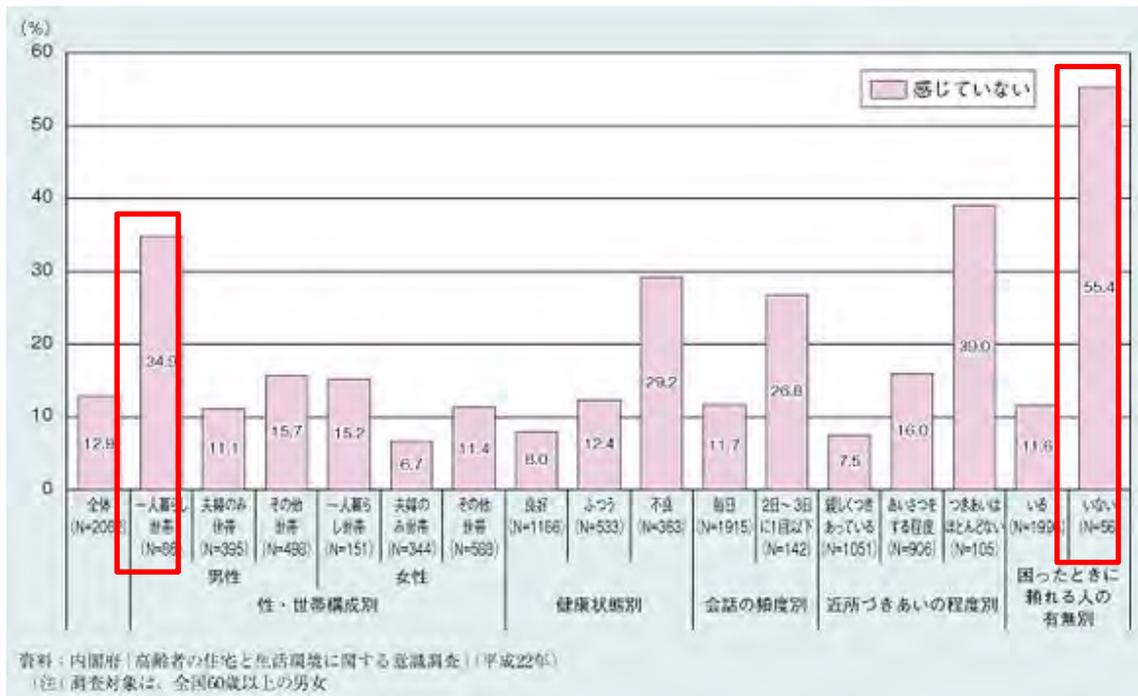
図表 1-7 困ったときに頼れる人がいない人の割合



(出典) 内閣府「平成25年版 高齢社会白書」

このような調査結果から、高齢者の一人暮らしの増加と、特に一人暮らしの男性においてはコミュニケーション機会が減少しており、頼れる人がいない人が増えていることがわかる。平成23年の調査では、一人暮らしの男性／頼れる人がいない人において、生きがいを感じていない割合が高いことも確認されている。増加していくシニア世代がいきいきとした社会生活を送るためには、一人暮らしの高齢男性を社会から孤立させず、生きがいを感じてもらうことがとりわけ重要である。

図表 1-8 生きがいを感じていない人の割合



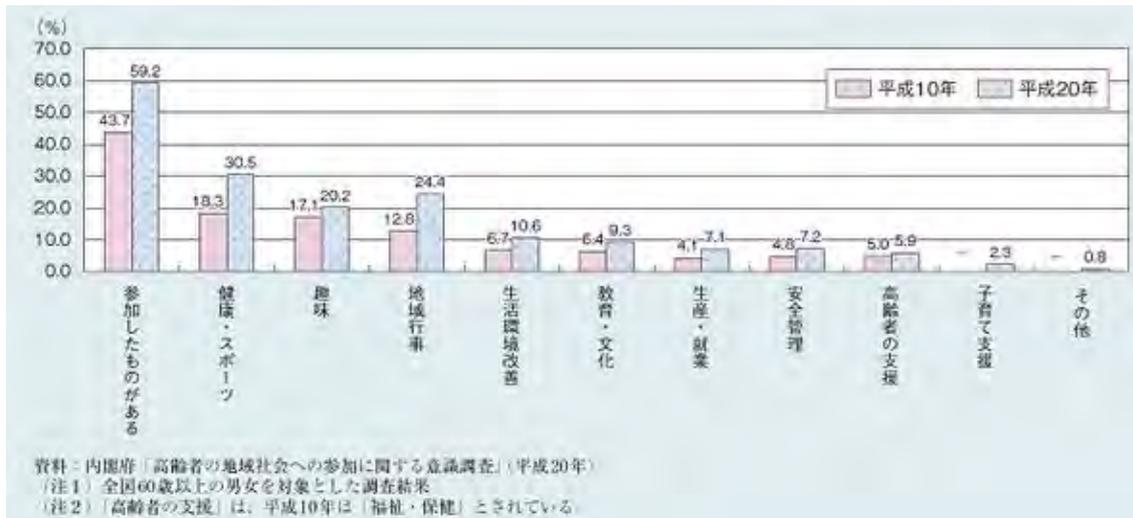
(出典) 内閣府「平成23年版 高齢社会白書」

第4節 シニアのライフスタイル

増加しているシニアはどのような暮らしを営んでいるのだろうか。

平成20年の調査では、高齢者のうち59.2%がスポーツ、趣味、地域行事等何らかのグループ活動に参加していることがわかる。一方で、何らかのグループ活動に参加していない高齢者も40%強存在することになる。

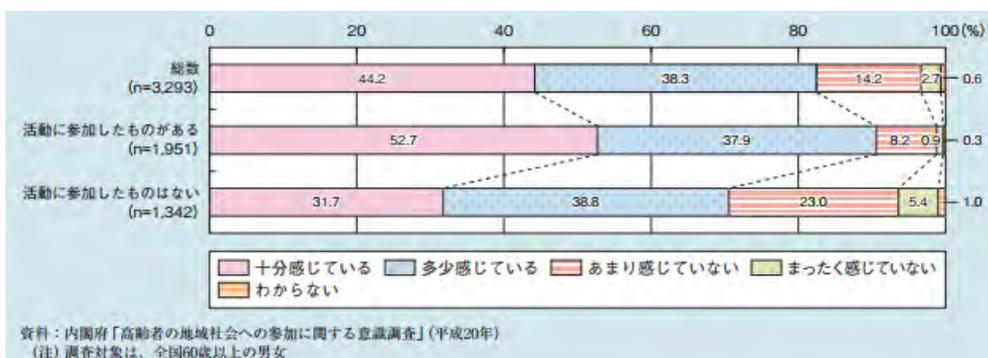
図表 1-9 高齢者のグループ活動への参加状況



(出典) 内閣府「平成25年版 高齢社会白書」

グループ活動に参加したことがある人と、参加したことがない人とで、生きがいの実感に関する調査を行ったところ、グループ活動に参加したことがある人は参加したことがない人に比べ、生きがいを感じている人の割合が多かった。

図表 1-10 グループ活動への参加状況別生きがいの有無

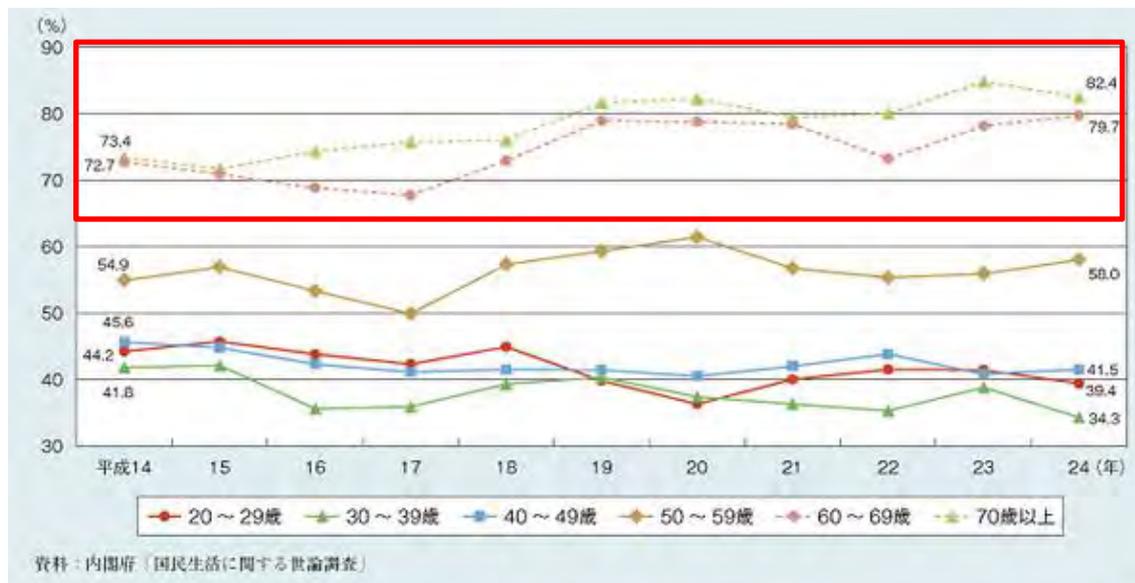


(出典) 内閣府「平成23年版 高齢社会白書」

独立行政法人 高齢・障害・求職者支援機構が行った、高齢者がどのようなときに生きがいを感じるか、という調査においても、「趣味やスポーツに熱中しているとき」が最も高い回答率を得ている。「ボランティアや地域活動をしているとき」「勉強や教養などに身を入れているとき」という回答も少なくなく、グループ活動に参加している高齢者は生きがいを実感していることがわかる。

世代別に「毎日の生活を充実させて楽しむ」ことに力を入れたい人の割合を調査したところ、60歳以上の高齢者において、それ以下の世代に比較して非常に高い割合を示している。

図表 1-1-1 生活を充実させて楽しむことを重視する人の割合



(出典) 内閣府「平成 25 年版 高齢社会白書」

以上の調査より、シニア世代は毎日を楽しく過ごしたいと考えており、実際にグループ活動に積極的に参加しているシニアは、参加していないシニアより生きがいを感じていることがわかる。また、以下の調査が示すように、高齢者の70%はなんらかのグループ活動に参加したい意向を持っている。また、参加意向があるが参加できない高齢者に対して、その障壁を取り除くことも、今後の地域社会における課題ともいえよう。

図表 1-12 高齢者のグループ活動への参加意向



（出典）内閣府「平成25年版 高齢社会白書」

第5節 シニアの社会的孤立による問題と解決の必要性

これまで見てきたように、増加するシニアの社会的孤立が進展しており、それを背景に、具体的には以下のような問題が増加している。

（1）シニア世代の消費者被害

悪質業者が言葉巧みにシニアの不安を煽り財産の搾取を行う被害が増加している。このような悪質業者による勧誘があった場合も身近に相談できる相手があり、地域社会のネットワークでの情報共有により被害の発生を防止することが重要である。

（2）シニア世代による犯罪

高齢者による犯罪は平成19年ごろから横ばい傾向にあるが、平成13年との比較では2倍以上となっている。犯罪を繰り返すシニアには社会的孤立の傾向も見られており、逆に言えばシニアの社会的孤立を防ぐことで、安全・安心な地域社会の実現につながるとも言える。

図表 1-13 高齢者による犯罪



(出典) 内閣府「平成25年版 高齢社会白書」

(3) 孤立死

一人暮らしのシニアが自宅での突発的傷病により死亡する「孤立死(孤独死)」が増加している。これらの中には、突発的傷病発生の際に適切な処置を受けられれば死亡を免れた事例も少なくない。また、孤立死の発生後、親族と連絡がとれない、疎遠になっており後処理を拒否されるといった問題も発生している。

今後、団塊の世代のリタイアと高齢化により、これらの問題はより一層重要な問題となってくる。このような問題の発生を防ぐためにも、リタイア後のシニアの地域社会への参画を促進し、生きがいを感じる豊かな老後生活を送れるよう、支援する取り組みが必要である。行政/民間/地域社会の協力による迅速な対応が今、求められているのである。

第2章 調査

本章のまとめ

- 6回の連続講座を実施するにあたって、アンケート調査を実施。
- 回答者属性としては、おおよそ女性が4割、男性が6割で、平均年齢はおおよそ67歳。
- 現在の生活については、7割以上が満足と回答。生活資金については、年金・貯蓄が中心。
- ストレスについては、感じると感じないが半々の結果。
- 地域の情報入手方法については、「行政の広報」が最も高く、次に「新聞・雑誌」、そして「インターネット」。また、通信手段としても、半数以上がネットやメールをよく利用しており、ITの利用度は高い。
- 人間関係については、リタイア人が多いため、(家族を覗き) 地域の方々やサークル・団体仲間の割合が高い。
- 熱心に行っていること・行いたいことについては、7割以上が趣味・スポーツを行っている。また、約6割が行ってはいないが、地域活動を行いたいと考えている。
- 高齢者の関心のある講座テーマについては、心をテーマにしたものはやや関心度が低い。
- 地域活動について、約6割が今後行っていきたいと回答。ただ、行いたくない人も1~2割存在している。
ただ、地域活動を行っている人と今後行いたい人では、参加頻度や対価について、ギャップも見られる。

第1節 調査概要

本調査は、平成25年8月30日から平成26年1月9日の間に、6回の連続講座を実施し、その際に、シニアの意識や地域活動参画などについてのアンケートをとり、まとめたものである。

各回の開催日・テーマ・参加人数は、次のとおりである。



図表 2-1 講座開催日時など

	開催日	テーマ	参加人数
第1回講座	平成25年8月30日	基調講演 (合わせて講座説明会も実施)	19人
第2回講座	平成25年9月12日	ライフプラン(老後のお金)	23人
第3回講座	平成25年10月10日	心の整理術	16人
第4回講座	平成25年11月14日	モノの整理術	15人
第5回講座	平成25年12月12日	相続・遺言(法律知識)	17人
第6回講座	平成26年1月9日	自分史づくり	14人

※場所は、いずれも「すくらむ21」

また、各回の講座においては、グループワークを実施し、スタッフがファシリテーターとしてワークに参加し、受講者同士が話し合う場も用意した。

この他、講座の後に、座談会の開催や個別相談の場も設けた。

そこで、本調査においては、アンケートによる定量的結果のみならず、このような場で得られた声なども、反映させている。

(ただし、個別具体的な話もあるため、アンケートの自由回答欄なども含め、調整を加えている。)

なお以下では、アンケート結果などの一部を抜粋し、調査を進めている。アンケート票を含め、すべてのアンケート結果については、参考資料を参照とされたい。

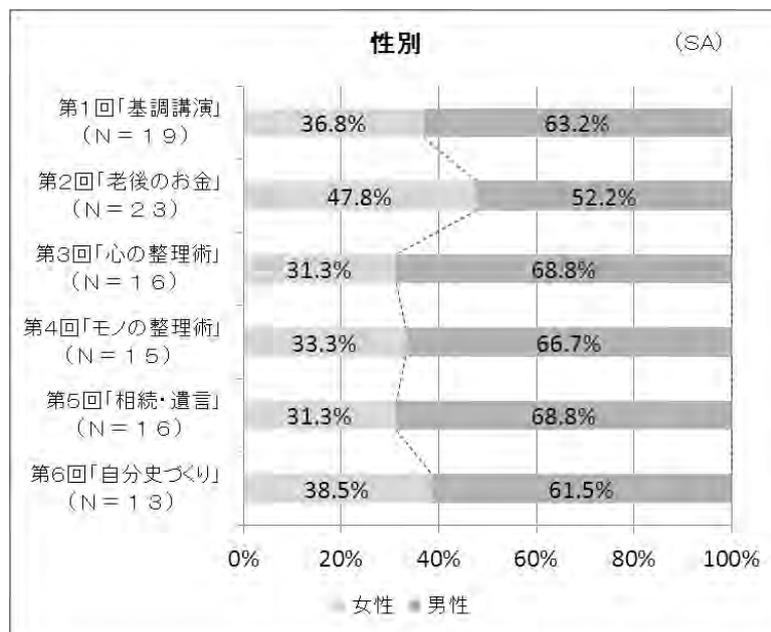
第2節 回答者属性

各回のアンケートに関する回答者属性としては、次のとおりである。

①性別

性別に関しては、第2回目の講座に関しては女性比率が若干高かったが、おおよそ6~7割が男性となっている。

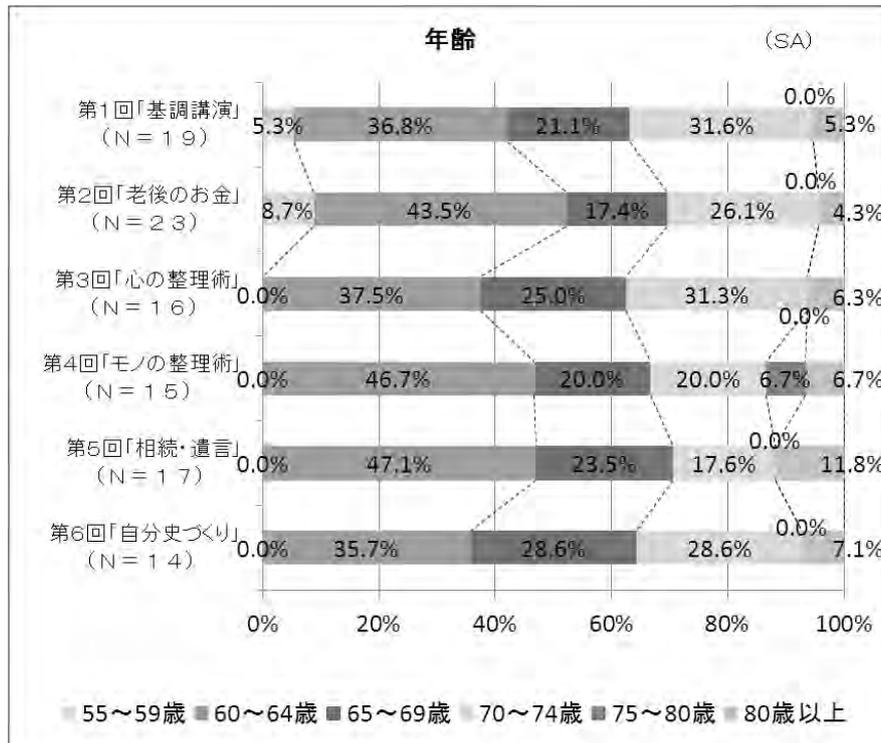
図表 2-2 回答者の性別



②年齢

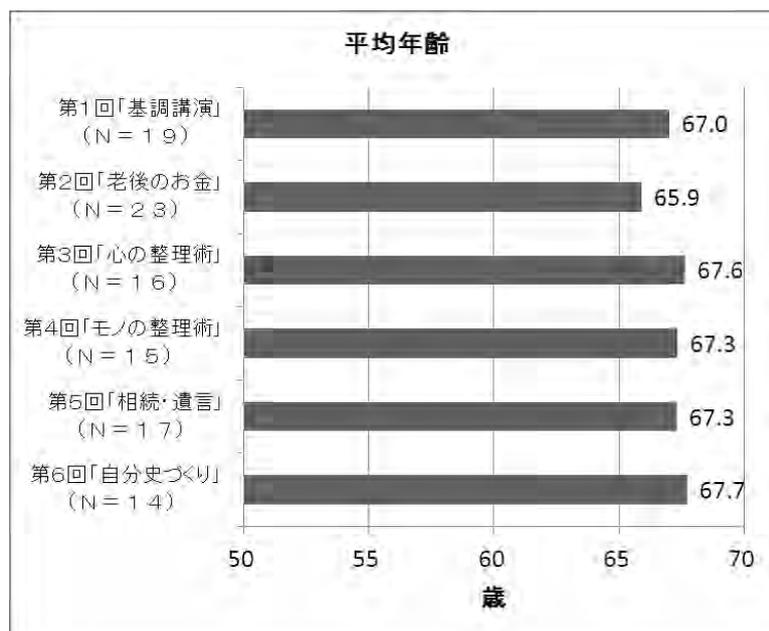
年齢については、いずれの回も最も高いのが60歳~64歳となっており、約3~4割を占めている。次に回によって異なるが、65歳~69歳と70歳~74歳の人たちも、それぞれ2~3割おり、多くなっている。

図表 2-3 回答者の年齢



また、それぞれの年代で中位点（例えば、55～59歳ならば57歳として計算し、80歳以上は82歳として計算したもの）をもって、平均年齢を計算すると、第2回目は若干、年齢は下がるが、他の回は平均67歳台となった。

図表 2-4 回答者の平均年齢



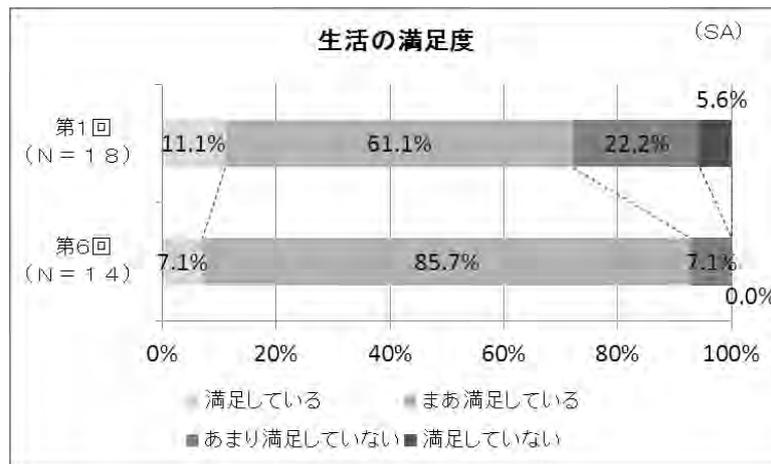
第3節 シニアの状況

①現在の生活の満足度

現在の生活について、満足しているかを最初と最後の講座において調査した。

いずれの場合も、「満足している」「まあ満足している」の合計がそれぞれの回で約7割・約9割と非常に高くなっている。

図表 2-5 現在の生活の満足度



そして、その理由については、次の通り、健康であり、家族や友人などがいることに満足を感じていることが多い。

【満足な人の意見】(第1回・第6回)(抜粋)

- ・自分を含め、家族全員が健康で仲良く暮らしており、厚生年金・企業年金等で収入がある。趣味もあり、仲間ができて楽しい。孫の面倒を見ることができる。
- ・今現在、健康である。
- ・具体的には健康である。心理的には子供や孫とともに楽しく暮らしているのと、年齢的に適したやりがいのある仕事もある。健康を維持するための先生が近くにおいて、年齢に適した運動の指導が受けていられる。
- ・妻との会話は多いほうで、温かさがあり、そして程よい刺激もある家族生活を過ごしている。最近では町内会の行事の手伝いも積極的に参加し、町内の方々との付き合い始めている。
- ・会社勤めとは違う新しい多忙が刺激となっている。
- ・孫ができた

逆に、不満足な人の意見としては、家族とうまくいっていない場合や、何をやっていいか分からないなど、シニアの新たな生活が構築できていないといったものであった。

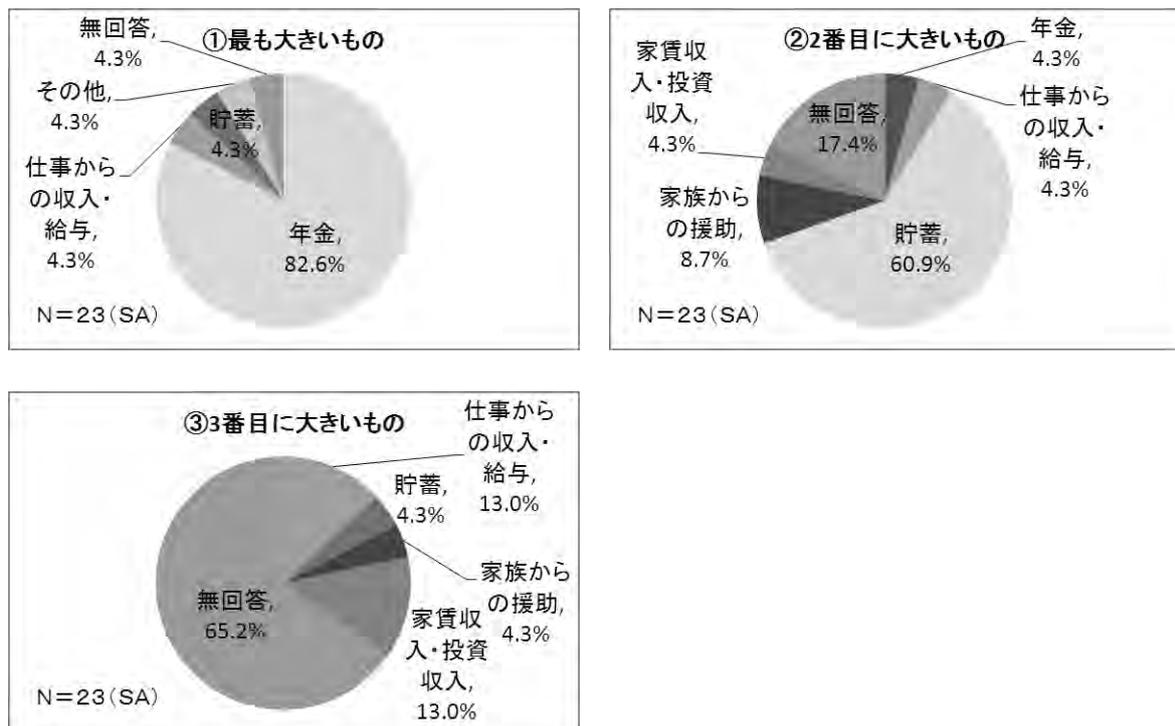
【不満足な人の意見】（第1回・第6回）（抜粋）

- ・夫と気持ちや目標が合わず、行動・趣味もばらついている。
- ・まだ、生活パターンが一定していない。
- ・何をやってよいか分からない。
- ・子どもと同居しているが、家事には協力してくれない。何事にも自立させることを考えさせている。

②生活資金について

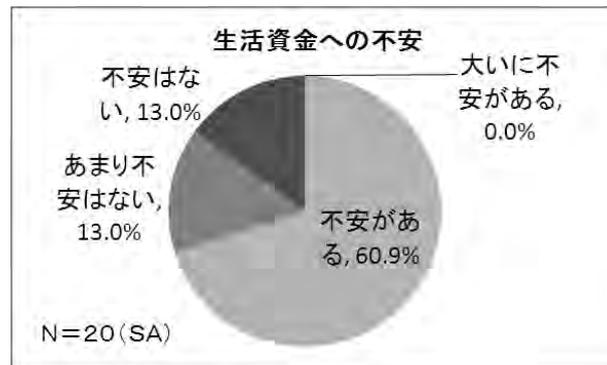
リタイアした人が多いため、最も頼っているのが「年金」、次に「貯蓄」となっている。

図表 2-6 生活資金で頼っているもの



そこで、生活資金への不安を調べたところ、約6割が不安を感じている結果となった。

図表 2-7 生活資金への不安



具体的に不安の原因を聞いたところ、「年金制度」「貯蓄を取り崩していること」「病気をしたとき不安」などといった回答となっており、目下具体的に不安を感じているというよりは、漠然と不安を感じているようである。

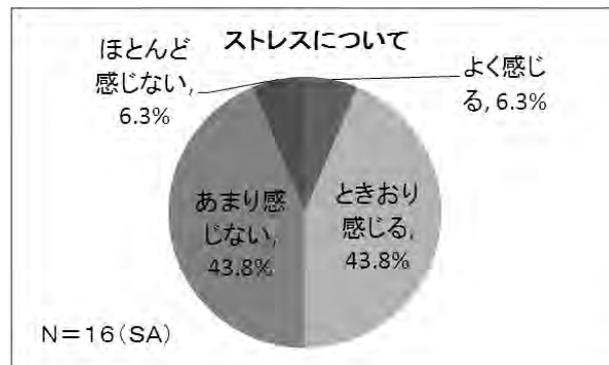
【不安の原因】(抜粋)

- ・年金がこれからも受け取れるかどうか。
- ・長生きしたら足りるか。
- ・企業年金がなくなる予定なので不安。
- ・貯金額の目減り。
- ・貯金を取り崩して生活していること。
- ・健康や介護といった点で不安
- ・インフレが起きたとき。
- ・年金生活になるので、病気等でお金が必要になったときや貯蓄が減ることが心配
- ・資産が減る一方なので就職したい
- ・病気・介護で援助が欲しいときの経済的なことや、人的・社会保障で不安がある
- ・資金が減っていくこと (いつまでもつか、病気したらどうなる)

③ストレスについて

ストレスを感じることがあるかを聞いたところ、感じている人と感じない人が半々の結果となった。

図表 2-8 ストレスの有無



具体的なストレスの原因については、次のように人それぞれであるが、家族や近隣の人などとのやりとりなどで、若干、ストレスを感じていることが多かった。

【ストレスの原因】

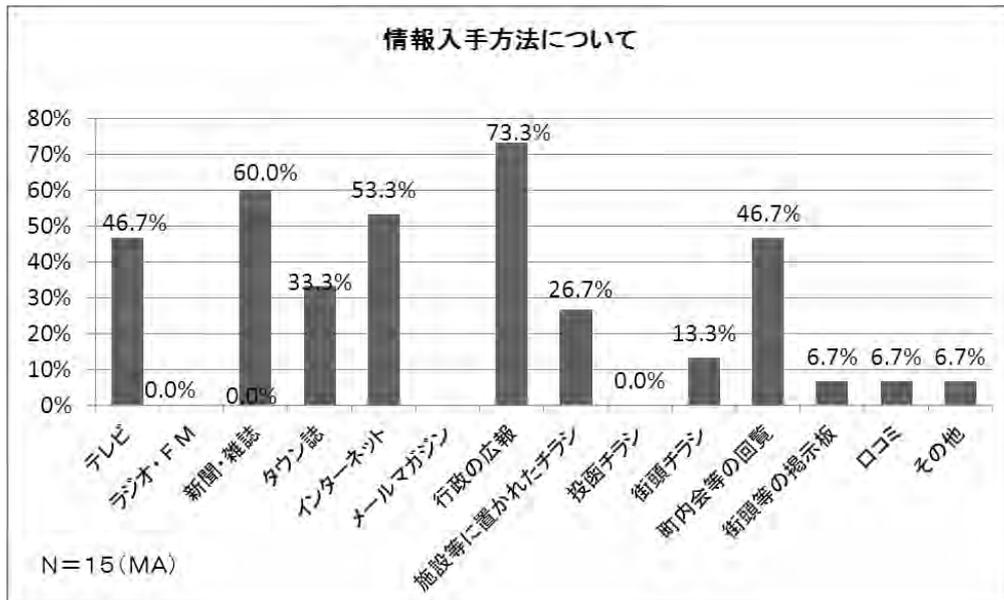
- ・先日より仕事を始めた、まだ仕事の内容になれず、ストレスだいぶ溜まってきた
- ・自分の考え方と反するとき
- ・プライバシーに入り込んで話をする近隣の人との会話
- ・妻と意見が、考えがちがったとき
- ・こんななにも生産に関わらない生活をしていてよいのかと思うとき
- ・介護している親が理解できないとき
- ・介護保険の問題や年金問題など、老後の生活に関連したニュースを見たとき

④地域の情報入手方法について

地域の情報入手方法について聞いたところ、マスメディアが高い割合であると予想していたが、最も高いのが「行政の広報」となった。そして次に「新聞・雑誌」、「インターネット」となった。

また、「テレビ」や「町内会等の回覧」なども5割弱の回答があり、比較的高い。

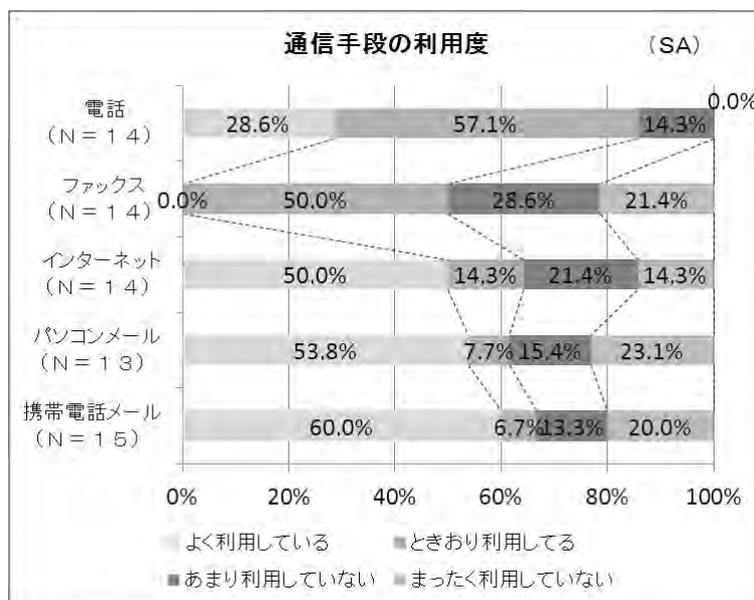
図表 2-9 情報入手方法



⑤通信手段について

通信手段について聞いたところ、シニアと言えば、IT の利用が少ないことが予想されたが、インターネットやパソコンメールについては約 5 割が、携帯電話メールについては約 6 割がよく利用しており、比較的インターネットや電子メールを利用していることが伺える。同時に、電話については、よく利用しているが 3 割弱である。年代が低いほど、電話よりもメールなどを利用することが多いと思うが、シニアにおいても、電話よりもメールなどで他の人と連絡をとるような人が多いという可能性を有していると言えよう。

図表 2-10 通信手段の利用度

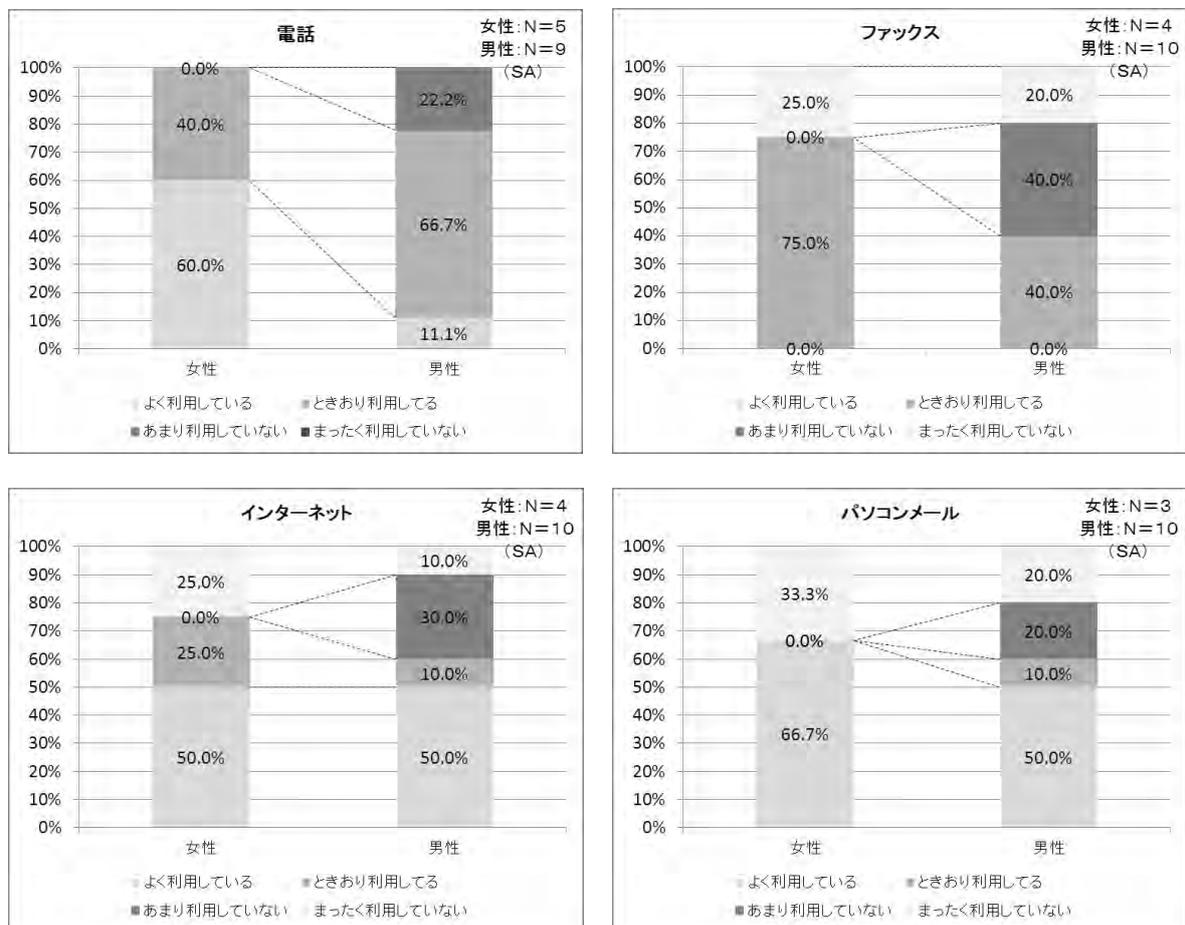


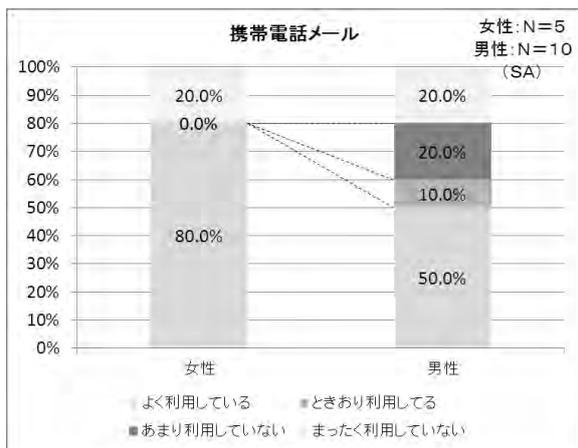
反面、インターネット・パソコンメール・携帯電話メールについて、約1・2割の人が全く利用しないと回答している。この点で、ITの利用度については、(利用している人が多いとはいえ)2極化しているともいえよう。

なお、通信手段について、男女ごとに見たのが、下の図である。

サンプル数が少ないため、判断しにくい部分はあるが、女性では電話と携帯電話メールを「よく利用している」という割合が高くなっている。

図表 2-11 通信手段の利用度 (男女別)





⑦人間関係について

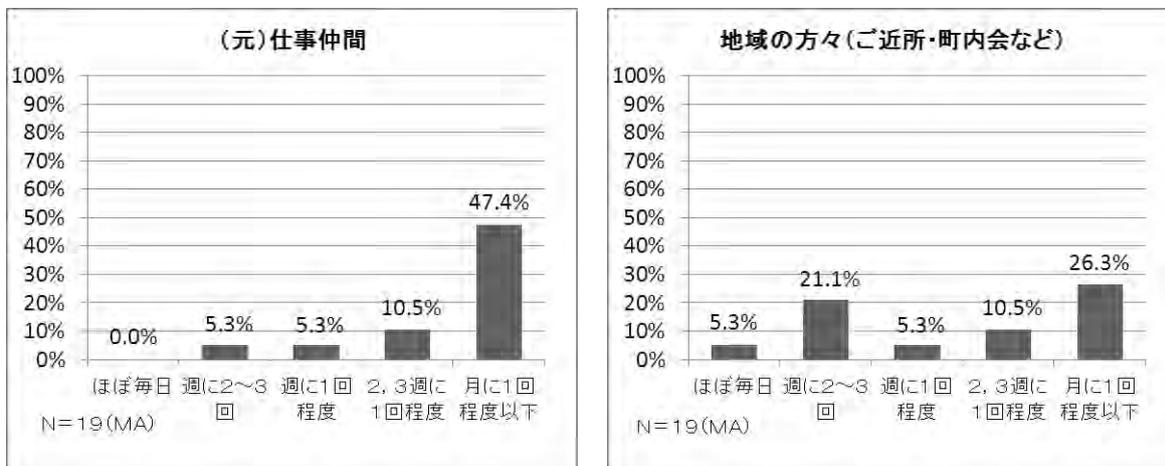
現在の人間関係について調べるため、どのような人とどの程度の頻度で会っているのかを調べたのが、次のものである。

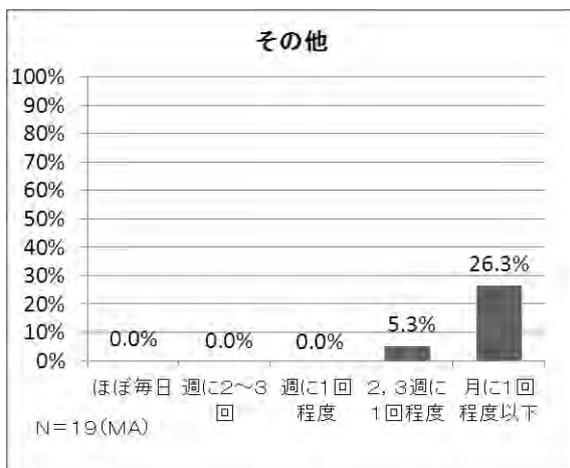
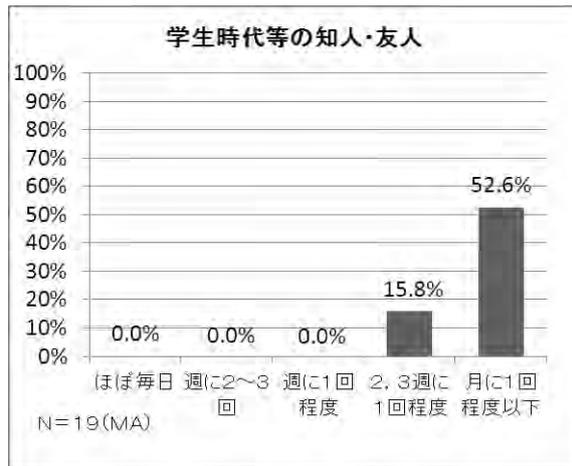
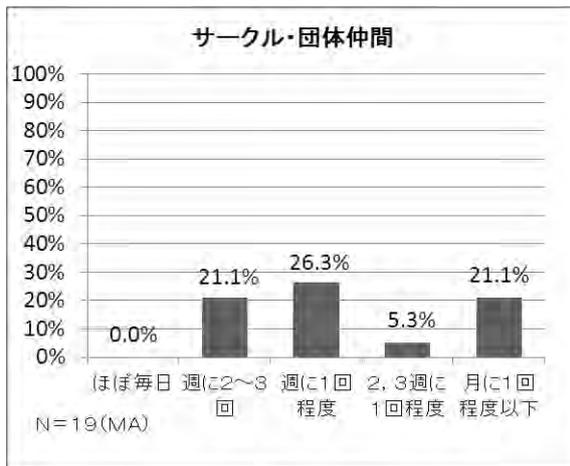
リタイアした人が多いため、(元) 仕事仲間などの人との接触している人は少なく、地域の方々やサークル・団体仲間の割合が高くなっている。

特にここで注目すべきは、1つは地域の方々について、高い割合を示しているが、「週に2～3回」と「月に1回程度以下」である。つまり、地域の方々と比較的頻繁に会っている人と、ほとんど接点のないような人たちがいるということを示していると思われる。

もう1つが、サークル・団体仲間についても、「週に2～3回」や「週に1回程度」が2割を超えているが、同様に「月に1回程度以下」も2割を超えている。すなわち、サークル・団体などの活動に積極的に参加している人とそうではない人たちがいるということだろう。

図表 2-12 他者との接触頻度（家族を除く）



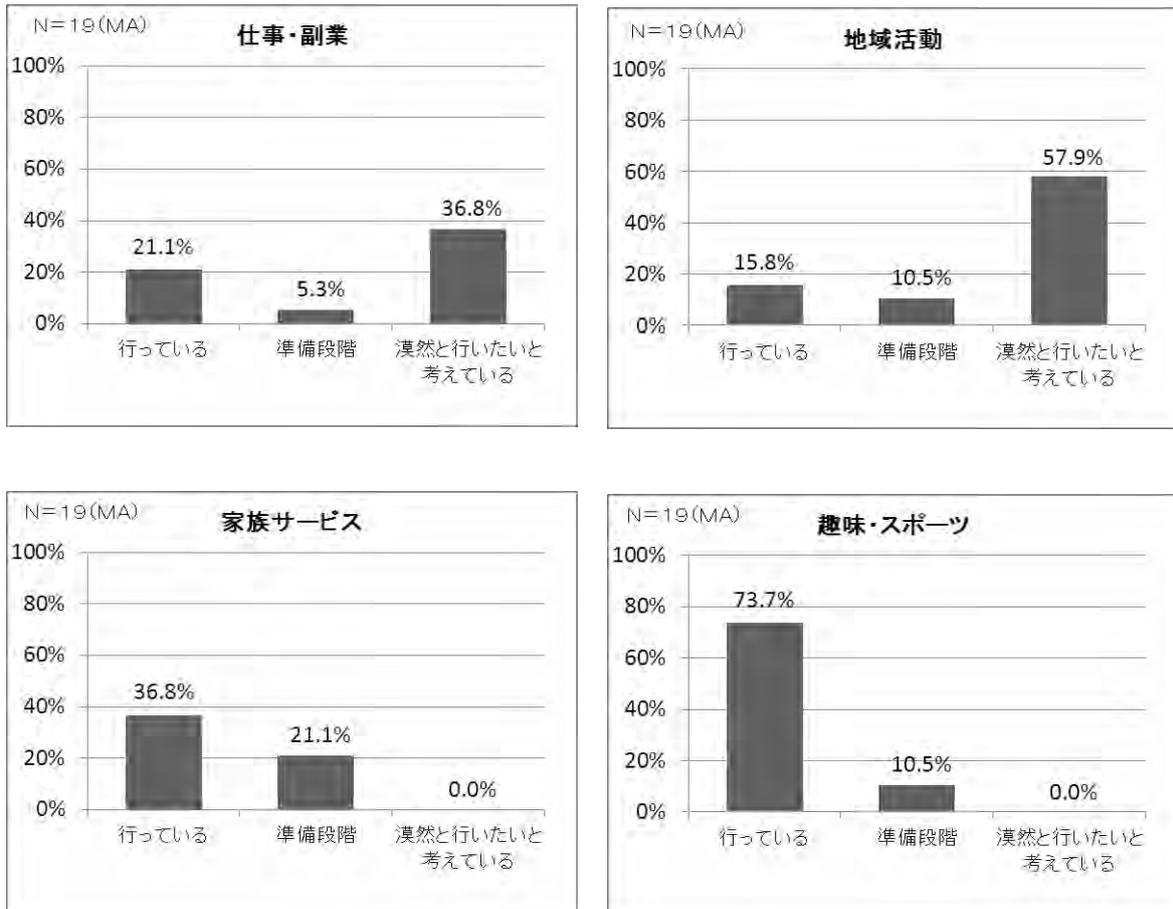


⑧熱心に行いたいこと

熱心に行いたいことや実際に行っていることを聞いたのが、次の図である。

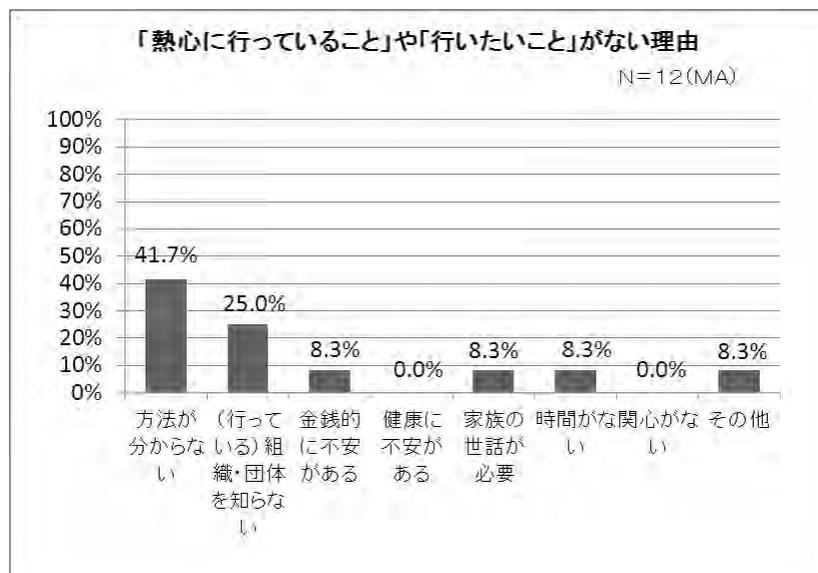
特徴的なことは、「趣味・スポーツ」について、7割以上の人が行っており、好きな趣味などで、リタイア後、楽しんでいることが伺える。また逆に、「地域活動」については、行っている人は少ないが、約6割の人が行いたいと考えていると回答している。中には、講座中の意見で「趣味を楽しんでいるが、社会に役立つこともやっていきたい」という人もいた。「社会のため」とまではいかないが、いずれにせよ、趣味などは楽しんでいるが、新たなつながりや活動を求めている人が多いということが言えよう。

図表 2-13 熱心に行いたいこと



逆に、熱心に行っていることや行いたいことがない理由について聞くと、「方法が分からない」「組織・団体を知らない」などという回答が高かった。

図表 2-14 熱心に行っていることや行いたいことがない理由



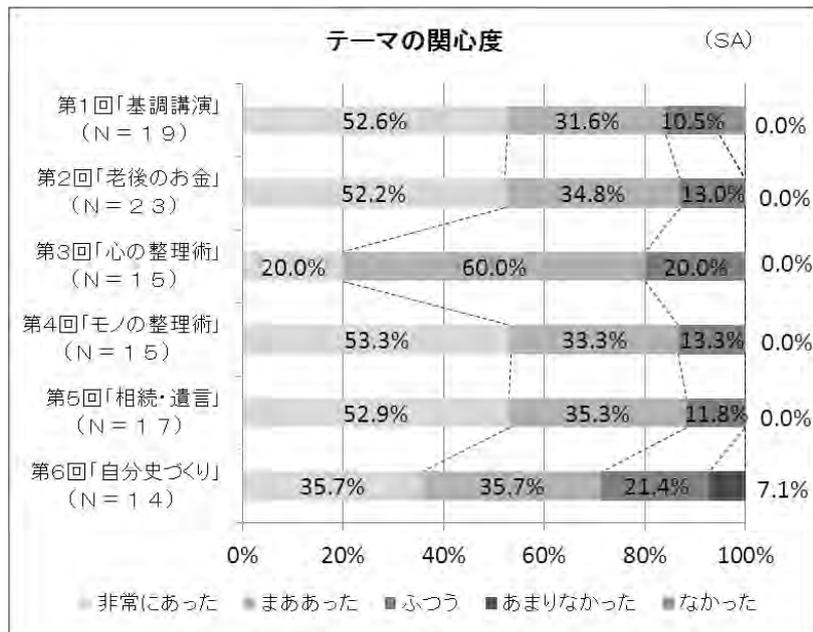
⑨シニアの関心のあるテーマ

今回の講座の一つの特徴としては、老後のお金の話や心・モノの整理など、多様なテーマを連続講座とした点にある。

そこで、「本日の講座テーマについて、どの程度興味がありましたか。」という質問で、それぞれの講座のテーマについて、事前にどれだけ興味をもっていたかという関心度を質問した。

下の通り、「非常にあった」「まああった」の回答を合せると、いずれにおいても約8割近い回答となっていた。ただ、「非常に関心のあった」という部分で、「心の整理術」「自分史づくり」は低い回答となっており、心をテーマとしたものについては、やや関心度が低い結果となった。

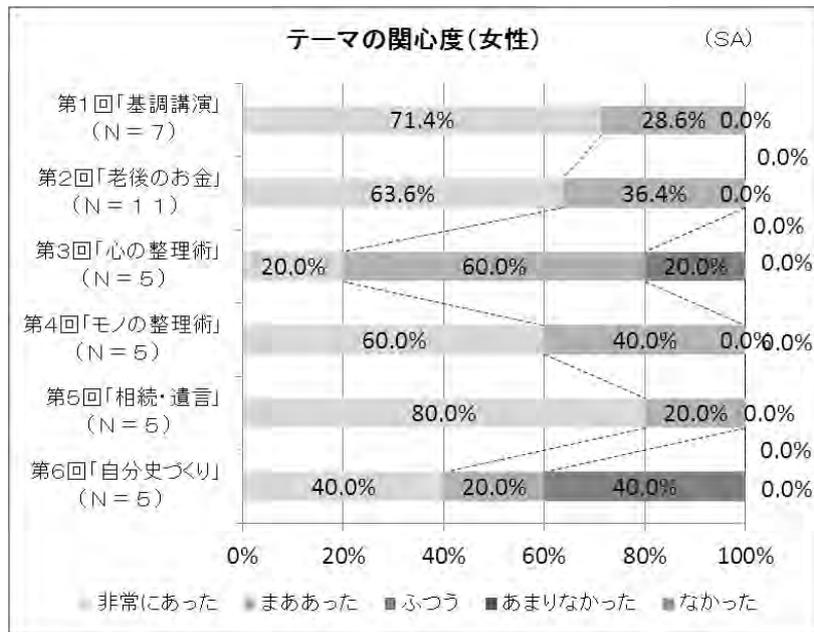
図表 2-15 講義テーマの関心度 (全体)



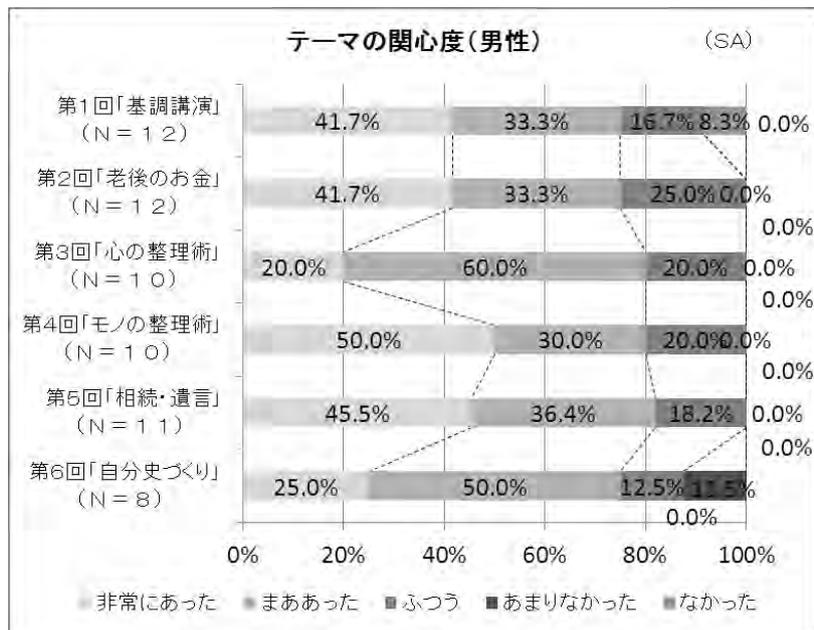
更にこれを、男女別に見てみると、女性では全般的に関心度は高くなっているが、特に男性に比べ、「基調講演」と「相続・遺言」の割合が高くなっていた。

逆に男性では、「非常にあった」「まああった」を含めると、「自分史づくり」が比較的関心度が高い結果となっている。

図表 2-16 講義テーマの関心度（女性）



図表 2-17 講義テーマの関心度（男性）



なお、最終回の第6回のアンケートで、自由回答で、実施しているものについて聞いたところ、個々人で異なり回答としてはばらけた形になったが、モノの整理について、若干、実践しているという声が高かった。

【実施していること】

- ・物の整理をするようになった。
- ・6つの視点からのセミナーで、それぞれ一歩前が出る気力ができました
- ・自分史
- ・遺言状を今年作成したいと思います。
- ・「老後のお金の話」、老後の生活費、生きがい、高まるリスク
- ・整理の点が参考になり、早速やり始めた。

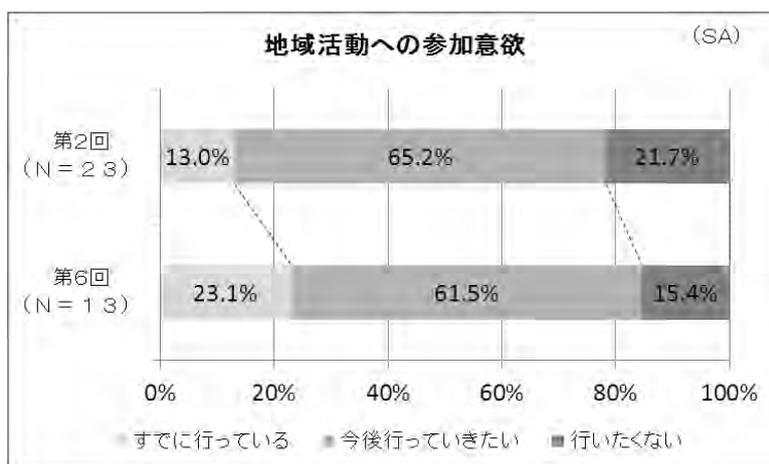
第4節 地域活動について

①参加意欲

地域活動への参加意欲について聞いたのが、次の図である。第2回目と第6回目の講座で2回質問を実施した。

第6回での回答のほうで、「すでに行っている」人の割合が高く、「行いたくない」人の割合が低くなっているが、いずれの回でも、約6割が「今後行っていきたい」と回答している。

図表 2-18 地域活動への参加意欲



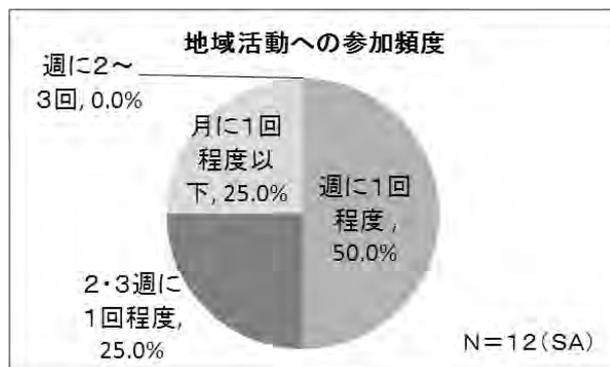
②参加頻度・対価

地域活動に参加している人や今後行っていきたい人について、その参加頻度や求める対価について、聞いたのが次の図である。

参加頻度については、「週に1回程度」が半数となっており、逆に「月に1回程度以下」

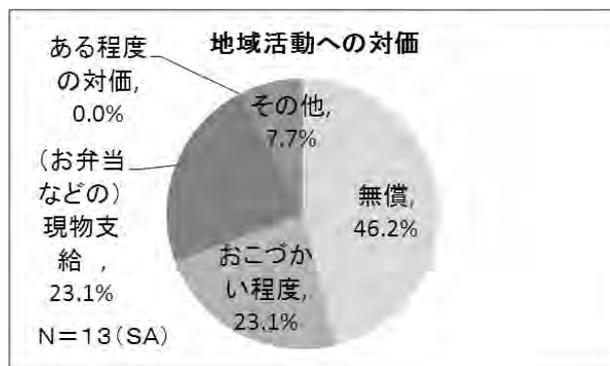
と「2・3週に1回程度」がそれぞれ25%となっている。この点で、頻繁に地域活動を行っている（行いたい）人と、ある程度間隔をおいて、地域活動を行っている（行いたい）人に2分されていると言えよう。

図表 2-19 地域活動への参加頻度



地域活動への対価については、最も高いのが無償で5割弱となっている。次に、「おこづかい程度」「現物支給」が続く結果となった。

図表 2-20 地域活動への対価



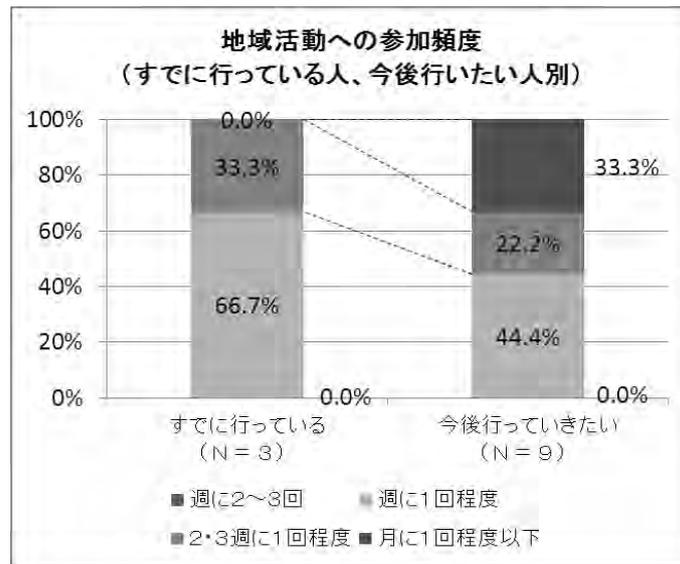
ただ、それぞれについて、すでに行っている人と今後行いたい人で比較すると、ギャップがあることが分かる。

頻度については、いずれも「週に1回程度」が高いが、すでに行っている人では約7割であるのに対して、今後行っていきたい人では約4割に留まっている。

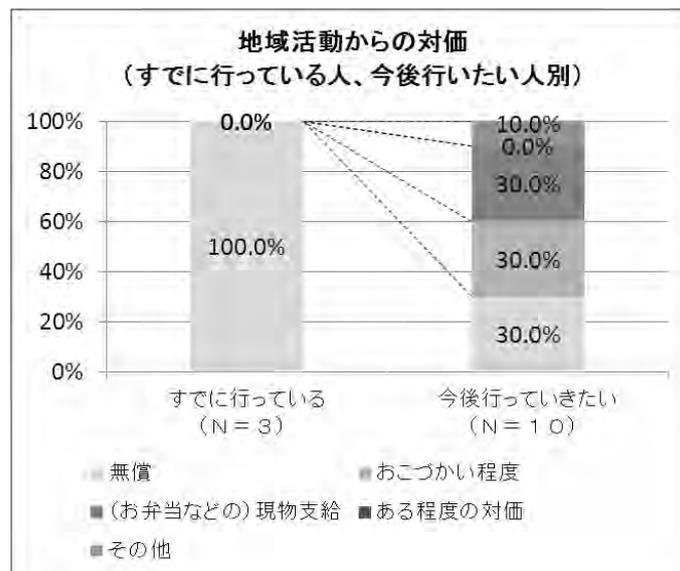
対価についても、すでに行っている人ではすべて「無償」となったのに対して、今後行いたい人では、「無償」「おこづかい程度」「現物支給」がそれぞれ3割となった。

この点ですすでに行っている人と今後行いたい人ではギャップがあるといえよう。

図表 2-2-1 地域活動への参加頻度（すでに行っている人、今後行いたい人別）



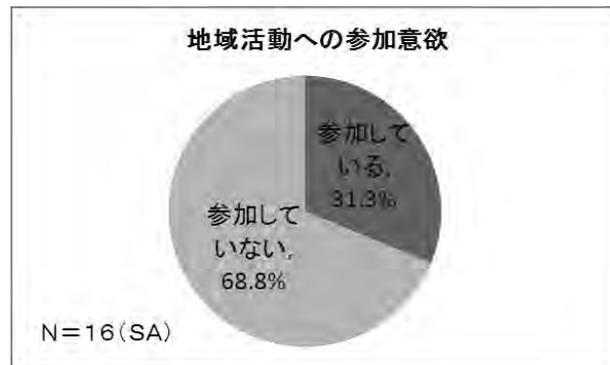
図表 2-2-2 地域活動からの対価（すでに行っている人、今後行いたい人別）



③参加のきっかけ

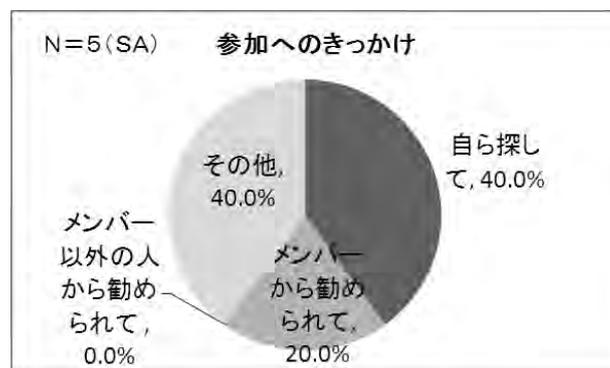
実際に地域活動やサークル・団体活動などに参加しているかどうかを聞いたのが、次の図である。約3割が参加していると回答している。

図表 2-23 地域活動への参加意欲



更に、実際に参加している人に対して、そのきっかけを聞いたのが、次の図である。(回答数が少ないが) 最も高いのが「自ら探して」となっている。他の人から勧められて参加したケースが多いと思われたが、意外な結果であった。理由としては、本講座に参加するような人は、活動的な人が多いため、このような活動に参加するにあたって、自分で探していったというパターンが多いのかもしれない。

図表 2-24 地域活動参加へのきっかけ



④行っている・行っていきたい地域活動

実際に行っている地域活動や今後行っていきたい地域活動を聞いたところ、次のように自治会活動、趣味、ボランティアなどに大別される。

【行っている・行っていきたい地域活動】

【すでに行っている人】

- ・自治会活動
- ・NPO 法人
- ・里山づくり、特養のボランティア、地元を知る活動の手伝い

【今後行っていきたい人】

- ・傾聴活動
- ・町内会で各種ボランティア活動を行っていきたい
- ・シニアとの茶話会や体操指導、子育て支援
- ・町会活動に参加、福祉のお手伝い
- ・見まわり活動
- ・地域の歴史秘話
- ・地域福祉向上のための仕事
- ・将棋や写真撮影

第3章 シニアの社会参画について

本章のまとめ

- シニアは、社会とどれだけ接触しようとしているかという「外部への積極性」と、地域活動にどれだけ参加しようとしているかという「参加意欲」の2軸で考えると、「実践型」「今後参加型」「拒否型」「受動型」「孤高型」に区分される。

実践型	実践型とは、積極的に外部と接触しようとしており、地域活動についても実際に参加している人たちである。
今後参加型	今後参加型とは、比較的外部と接触をしようとしているが、地域活動については実際に行っておらず、今後地域活動を行っていききたいという人たちである。
拒否型	拒否型とは、比較的外部と接触はしているが、地域活動には参加したくないという人たちである。
受動型	受動型とは、積極的に外部と接触しようとしてはいないが、地域活動への参加についてはあまり拒否感を持っていない人たちである。
孤高型	孤高型とは、あまり外部に積極的に関わろうとせず、地域活動にも参加をしたくないと思っている人たちである。

※本調査対象の中心は、「実践型」「今後参加型」「拒否型」

- この中で、地域活動への参加の可能性が高く、そのボリュームも多いのが、「今後参加型」と「受動型」と考えられる。この点で、この2つのタイプについて、まずは社会参加を促すことが重要。
- 受動型については、地域住民や友人等による誘いや、広報やネットなどを通じて、外部への積極性を高めるように、普及啓発活動が重要だと思われる。

- 今後参加型については、次のような課題・対策が考えられる。

何をしたらいいか分からない	何かしたいが、何をすればいいか分からないという課題を有している。
地域活動へのイメージギャップ	実際に地域活動を行っている人と今後行いたい人では、地域活動に対して、イメージのギャップを有しているという課題がある。
方法・情報を知らない	地域活動についての方法や情報を知らないという課題を有している。
心理的敷居の高さ	行政では相談窓口などを設けているが、敷居を感じ、一歩踏み出せないという課題がある。
今一歩踏み出せない	日々の生活に流されたりして、今一歩踏み出せないという課題を有している。
人間関係が継続できない	積極的に様々なセミナーなどに参加し、新たな人間関係を形成しようとしているが、継続できていないという課題がある。
自信がない	やりたいことなどは決まっているが、自分に自信がなく、地域活動には参加できていないという課題がある。

- 今後参加型に対する対策としては、「意識向上」と「場の提供」という方向性が考えられる。

意識向上に当たっては、今回の連続講座のような、社会参画を主題に添えたグループワークを実施する講座・セミナーを開催することが考えられる。

場の提供では、地域活動などを実施している人により具体的な話を聞ける場を提供したり、個別相談会などが考えられる。

第1節 概要

本章では、前章での調査結果を踏まえて、シニアの社会参画について、課題を抽出したいと思う。

ただ、シニアと言っても、必ずしもすべてが社会参画を求めているわけではない。例えば、社会的にはシニアの孤立化などは問題視されるかもしれないが、自ら望んで一人で生活しているような人もいる。また逆に、すでに地域活動などに積極的に参加し、アクティブに活動されているシニアも多い。

すなわち、一口にシニアと言っても、社会参画については、様々なパターンがあるのである。そこで、以下ではまず、地域活動などへの参加意識という観点で、シニアを区分し、それぞれに応じた課題の抽出を行いたいと思う。

第2節 シニアの区分

上記で述べたように、社会参画についてシニアそれぞれで意識は異なっている。

特に、シニアの地域活動への参加について、課題を抽出するには、一定の区分を設定し、対応することが必要である。

このとき、外部への積極性と地域活動への参加意欲という2つの軸で、次のような分類で、シニアを区分することができると思われる。

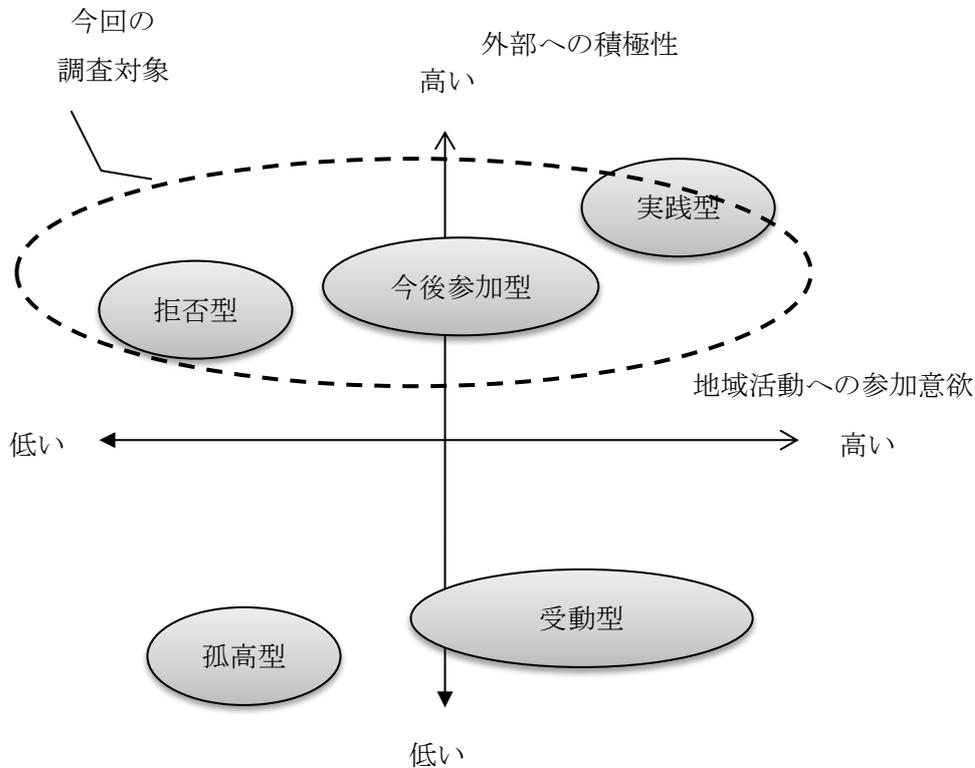
まず、外部への積極性とは、積極的に地域活動などに参加したり、地域活動とはいえなが、新たな出会いや学びを求めて、セミナー・講座などに積極的に参加しているか否かである。今回、講座を実施し、アンケート調査を実施したが、主として、外部への積極性は高い人たちだと考えられる。

次に、地域活動への参加意欲とは、地域活動について、参加したいと考えているか、参加したくないと思っているかといった軸である。

そして、このような軸で考えたとき、主として、拒否型・今後参加型・実践型・孤高型・受動型のパターンに、シニアは区分できると思われる。

なお、連続講座に積極的に参加しているようなシニアに対してアンケートを実施しているため、今回の調査対象は、外部への積極性が高い拒否型・今後参加型・実践型が中心になるとと思われる。

図表 3-1 シニア区分のイメージ



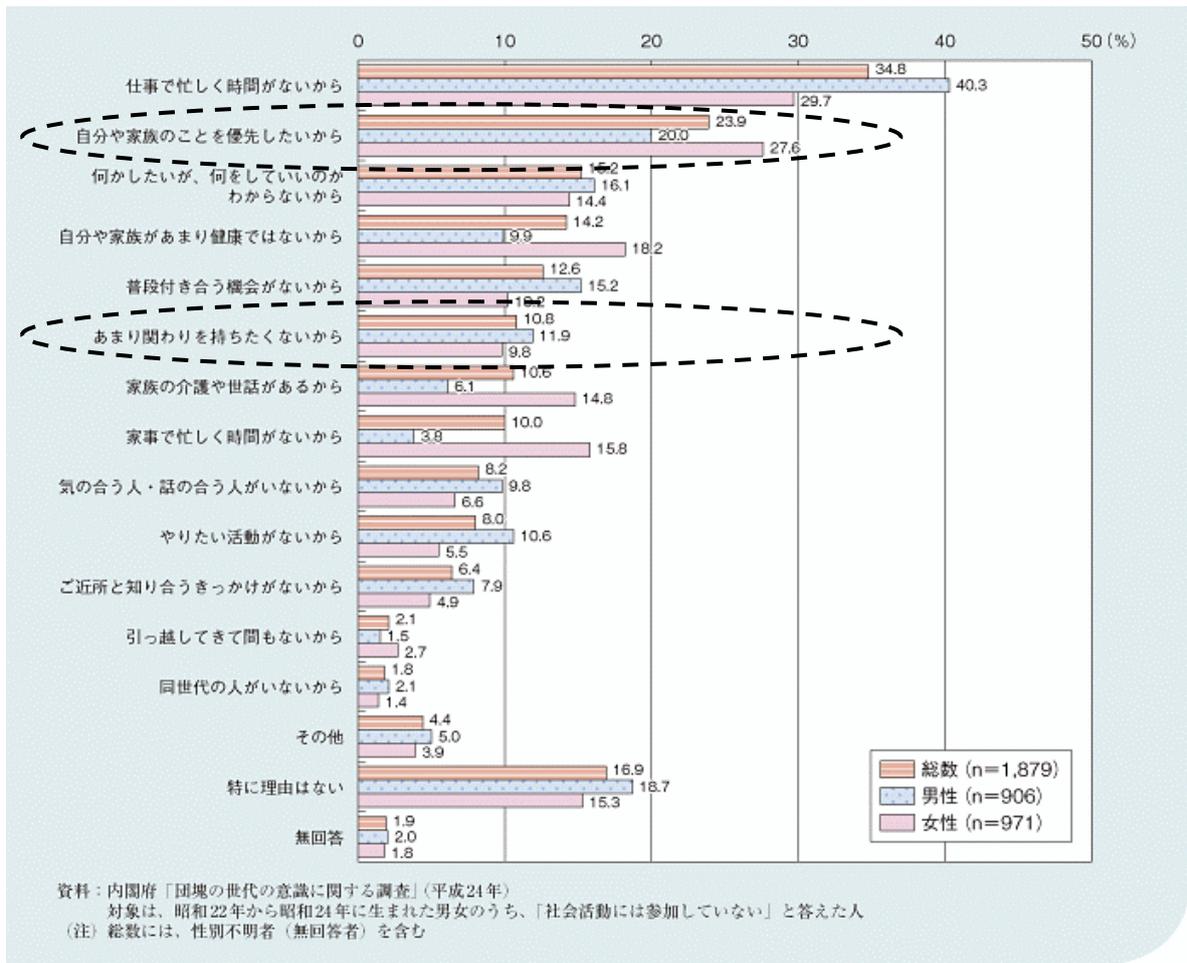
①孤高型

これは、積極的に、社会との関わりを持とうとしていない人たちである。その点で、外部への積極性は低く、地域活動への意欲も低い。

実際にどの程度、このような人たちがいるのかは不明であるが、ある種、示唆を与えるものとして、団塊の世代の社会活動への不参加理由について、内閣府の「高齢社会白書」にアンケート結果が掲載されている。

結果を見ると、「仕事で忙しく時間がないから」が高い結果となっているが、注目すべきは「自分や家族のことを優先したいから」が 23.9%、「あまり関わりを持ちたくないから」が 10.8%となっている点である。

図表 3-2 団塊の世代の社会活動の不参加理由（複数回答）

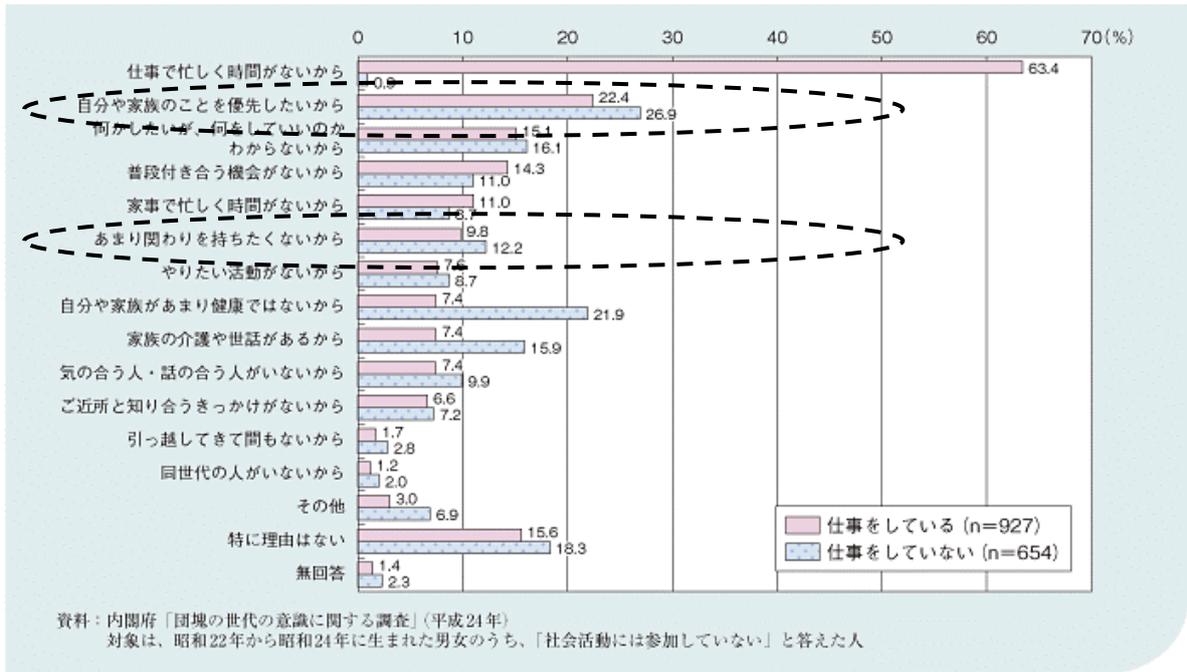


（出典）内閣府「平成 25 年版 高齢社会白書」

更に興味深いのは、この不参加理由について、就業状況別に見たのが次の図である。

仕事をしている人より、仕事をしていない人のほうが高い不参加理由については、「自分や家族があまり健康ではないから」「家族の介護や世話があるから」などといった健康面で高まる傾向があるが、同時に、上記の「自分や家族のことを優先したいから」や「あまり関わりを持ちたくないから」といった理由も、仕事をしていない人のほうが高くなっている。

図表 3-3 団塊の世代の社会活動の不参加理由（現在の就業状況別／複数回答）



(出典) 内閣府「平成 25 年版 高齢社会白書」

つまり、自分のことなどを優先するために社会活動への参加を拒否したり、社会活動そのものに関わりを持ちたくないと考えている人が、少なからず存在しているのである。

そして、いったんリタイアした後は、老後の自分の趣味などを見出したり、老後のライフスタイルが固まってくるため、自分の趣味などを優先したいという思いや、あえて自ら社会活動に関わりを持とうという意識が少なくなるのかもしれない。この点で、シニアの孤立化を防ぐためには、リタイア前後の老後のライフスタイルが固まる前に、積極的に社会活動を勧めることが重要なかもしれない。

ただいずれにせよ、シニア世代の孤立化が問題とされる中、積極的に社会との関わりを持とうとしていないような生き方を良くないものとも考えることもできるかもしれないが、各人、自由に生きている以上、このような生き方を否定することはできないだろう。

②受動型

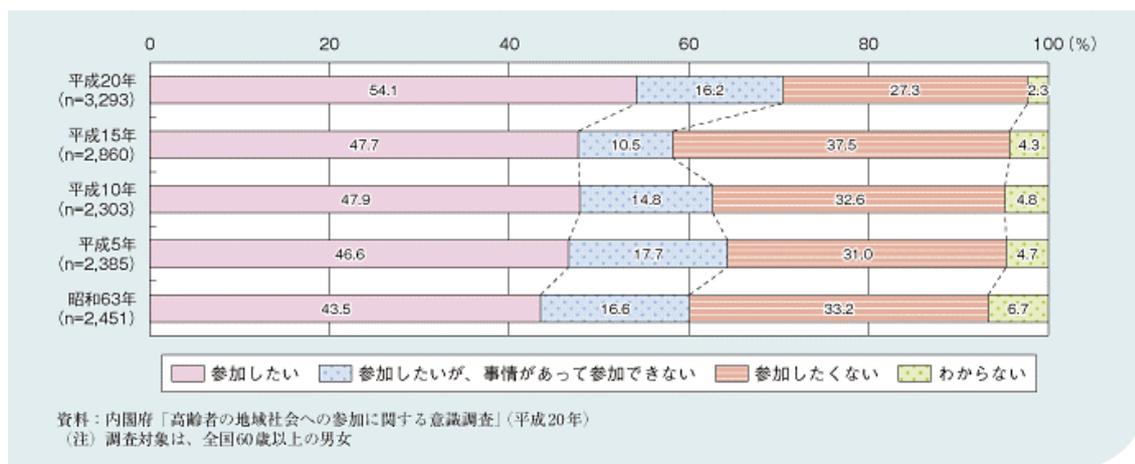
これは、積極的に社会化を拒否しているわけではないが、地域活動・講座などといった新たな人間関係が形成できるような場に積極的には参加しておらず、外部への積極性が低い人たちである。

また、地域活動に参加してはいるが、一定の固定した団体に属しているような人たちも、地域活動への参加意欲は高いが、外部への積極性が低いという点で、この区分に含めている。

③拒否型

これは、積極的に講座・セミナーなどに参加しており、外部への積極性は高いが、地域活動などに参加したくないという人たちである。内閣府の「高齢社会白書」の報告によると、高齢者全体では約3割近くが、グループ活動に参加したくないと考えている。

図表 3-4 高齢者のグループ活動への参加意向



(出典) 内閣府「平成25年版 高齢社会白書」

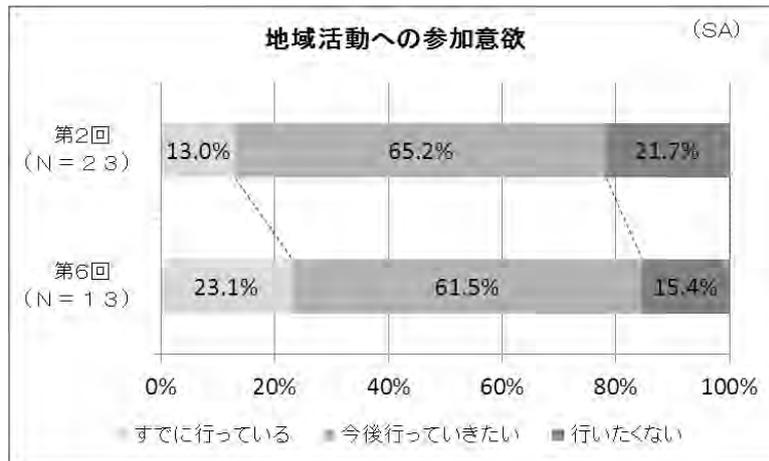
今回の連続講座での受講者の声でも、地域活動そのものに疑問を感じている人もいた。

【受講者の意見】

- ・自分以外のことにしか関心がない。
- ・社会参加することで充実した人生を送れるのか。
- ・会社みたいに結果が得られないことがモチベーションにつながらない。
- ・社会参加すると自分のペースで生活できなくなる。 など

また、今回のアンケート調査でも、第2回・第6回の講座で調査を実施したが、1～2割となっている。高齢社会白書はシニア全体であり、今回のアンケートは、講座・セミナーなどに積極的に参加している外部への積極性が高い人たちのみを対象としていることを考えると、シンメトリックな結果と言えよう。

図表 3-5 地域活動への参加意欲（第2回・第6回アンケート比較）



④今後参加型

今後参加型は、現在、講座・セミナーなどに積極的に参加しており、更に地域活動なども今後行っていきたいという人たちである。上記のアンケートで見られるように、約6割が、地域活動を今後行っていきたいと回答している。

外部への積極性は高いが、地域活動への参加には至っていないという点で、地域活動への参加意欲は「実践型」に比べ、低い人たちと言えよう。

【事例】今後参加型（Aさん、66歳、男性）

Aさんは、大手メーカーで働き、役員まで上り詰め、昨年、リタイアした。

会社での重責から解放され、ゴルフなどの趣味を行い、悠々自適の生活を送っていた。また、学生の頃の同窓会の幹事なども行っており、比較的、忙しい日々を過ごしていた。

ただ同時に、このまま個人的な趣味などで老後を行っていていいのかとも思っていた。

このような折、市の広報紙でシニア向けの社会参画セミナーの案内を見つけた。

どのようなセミナーなのか不安を抱きながら参加したのだが、同世代の人がほとんどで、話し合う内に、積極的に地域活動を行っている人たちなどもいることが分かった。同時に、その中にはAさんと同じような思いを抱いていることが分かった。

正直、Aさんはまだ何をしたいのか分かっていない。

ただ、私だけではないとも思い、そこで知り合った人と一緒に何かできたらと感じている。

※この例は、いくつかの体験談などをまとめたもので、具体的な特定の人の体験談ではありません。

⑤実践型

実践型は、もうすでに地域活動を行っている人たちである。上記のアンケートで見られるように、おおよそ1~2割の人たちがすでに地域活動を実践している。

【事例】実践型（Bさん、70歳、男性）

Bさんは、長年、町工場で職人として働き、再任用を経て、63歳でリタイアした。職業柄ということもあるのだろうが、口下手で、人と交わるのが苦手。地域活動・ボランティアなどといった言葉は聞くが、正直、そのようなこととは関わりたくはないと思っていた。

そんなある日、Bさんは、自治会長から、自治会のイベントの出店の担当をお願いされた。Bさんとしては、付き合い程度に参加している自治会で、面倒であると感じていた。とはいえ、ご近所付き合いもあり、渋々、自治会長の依頼を受けることにした。

しかし実際にイベントに参加してみると、非常に楽しんでいる自分を再発見した。地域の人たちとの触れ合いや祭りのようなイベントの雰囲気などがそのような思いに至らせたのかもしれない。

いずれにせよ、その日以来、自治会のイベントが近づくとイベントが待ち遠しく、Bさんにとって、自治会のイベントは重要なものとなった。

そして現在、あれほど、苦手だった地域活動・自治会であるが、いつのまにか、自治会長を行うに至っている。

※この例は、いくつかの体験談などをまとめたもので、具体的な特定の人の体験談ではありません。

第3節 シニアの社会参画に当たってのターゲット

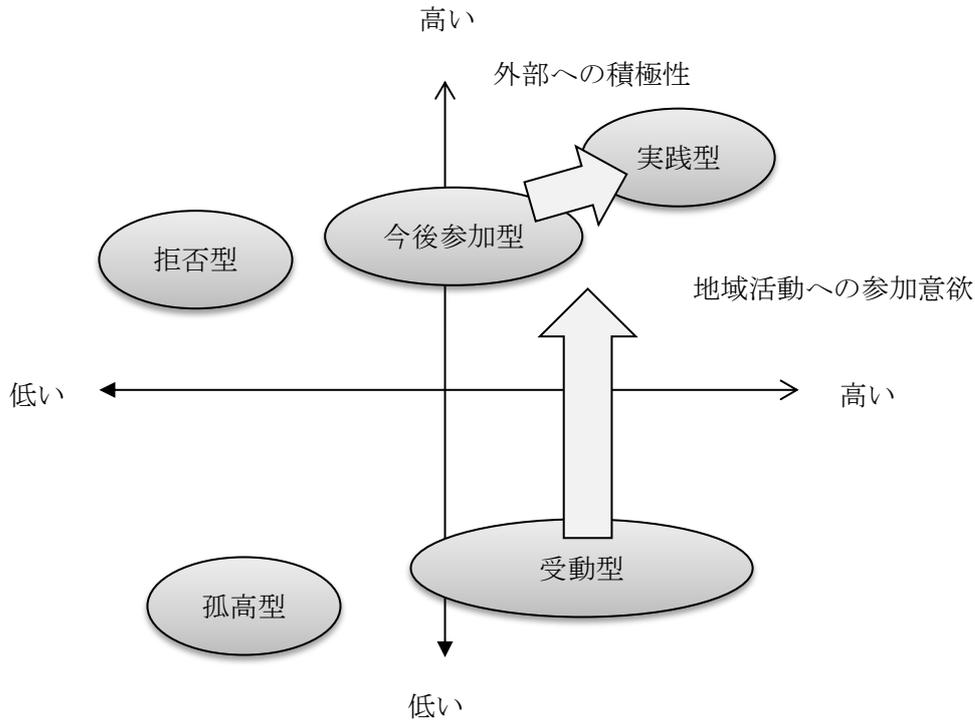
シニアがより地域活動などに積極的に参加し、社会参画を行っていくような仕組みを考えるとき、上記の区分のうち、受動型と今後参加型について、何らかの仕組みが重要であると考えられる。

なぜなら、孤高型や拒否型は、あまり他の人と接触を求めていなかったり、地域活動などへの参加をしたくない人たちだからである。確かに、孤高型や拒否型の人たちを地域活動などに参加してもらおうような取り組みも重要だが、各人の思想・心情などを考えると、無理に地域活動などへの参加を促すのは、よくないだろう。また、地域活動に対する意識・見方を変えるということも重要かもしれないが、その効果ということを考えると、難しい面が多い。

また、実践型はすでに地域活動などに参加しているため問題はないと考えられる。

以上のように考えると、シニアの社会参加において課題を有し、最も多いパターンであり、その効果が期待できる受動型と今後参加型をターゲットにして、この区分の人たちが地域活動などに積極的に参加していくような取り組みが重要であると思われる。

図表 3-6 シニア区分イメージ



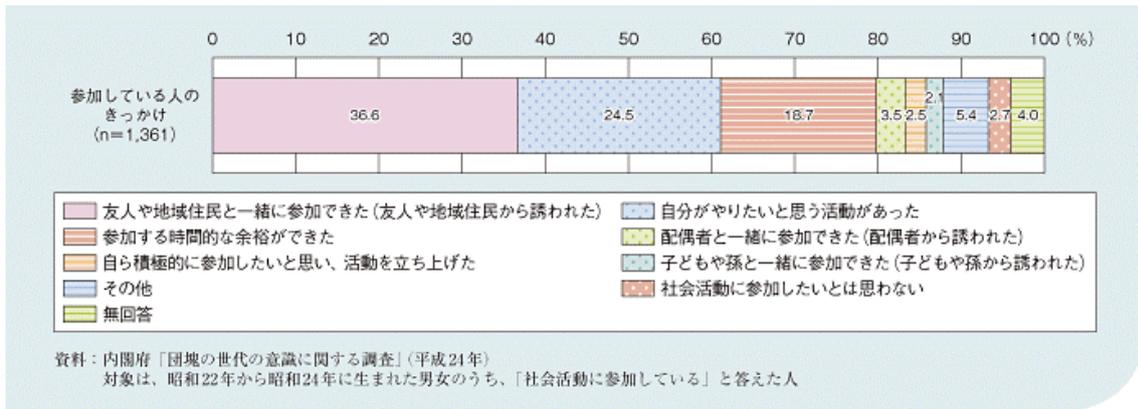
第4節 「受動型」に関する示唆

今回のアンケート調査はあくまでも外部への積極性が高い人たちを対象としているため、外部への積極性が低い受動型については、調査の対象外である。その点で、受動型の人たちがどのような課題を有し、受動型から今後参加型・実践型へ移行できるのかは、未知数な部分が多い。ただ、方向性として、次のようなことを示唆することは可能である。

1つは、受動型の人たちと言えども、多くは全く社会の人たちと接点がないわけではないだろう。家族であったり、近所の人たちであったりと接点を有していると思われる。

そこで、1つは、そのような人たちを通じて、地域活動などへの参加を促すといったことが重要であろう。例えば、下は、団塊の世代についてのものだが、社会活動参加のきっかけとして、最も高いのが「友人や地域住民と一緒に参加できた（友人や地域住民から誘われた）」となっている。

図表 3-7 団塊の世代の社会活動参加のきっかけ



(出典) 内閣府「平成 25 年版 高齢社会白書」

また、上記の実践型の例でもあるように、自治会活動に積極的ではなかった人が、たまたま自治会イベントに参加することになり、それ以来、自治会イベントが大好きになり、今では必ず参加しているという話もあった。

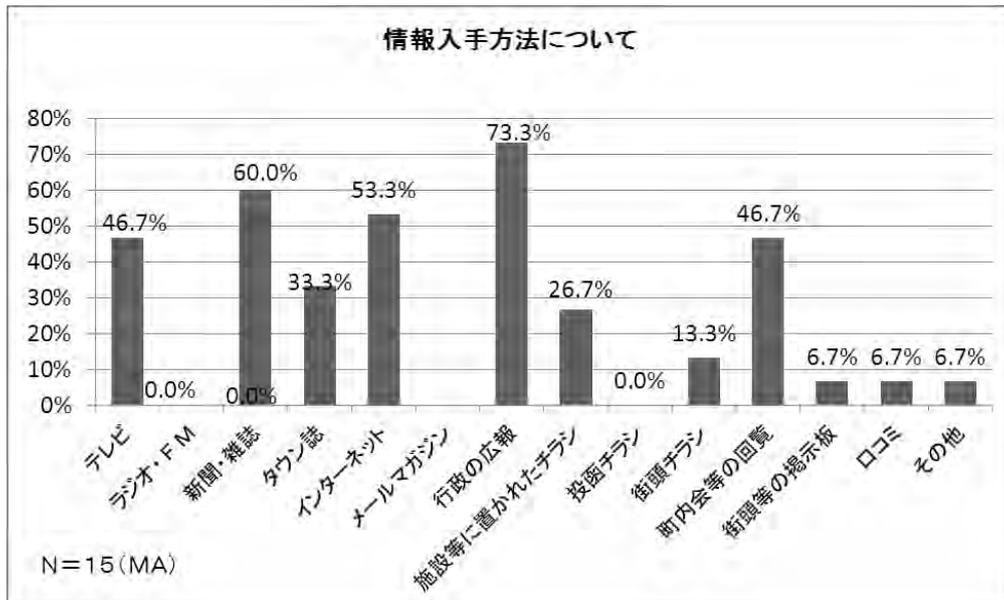
この点で、友人や地域住民などの人たちを通じて、受動型の人たちも地域活動などへの参加が行われるということが考えられる。

2つは、上記のように人を通じてではなく、一般的な地域活動などへの意識向上を図ることが重要であると思われる。そのためには、様々な形で情報提供を行い、啓発を実施していくことが必要だろう。

今回の調査は外部への積極性が高い人たちに対するものとなっているが、情報入手先としては、外部への積極性の高い人・低い人ではそう大きな違いはないと思われる。

このように仮定すると、前章でも述べたが、下記の結果の通り、最も高いのが「行政の広報」、次に「新聞・雑誌」、3番目に「インターネット」となっている。新聞・雑誌というのは、費用的に難しい面もあるが、「行政の広報」「インターネット」などは比較的、情報入手方法として使われており、このようなツールで、地道に啓発を行っていくことが重要だと思われる。

図表 3-8 情報入手方法について（再掲）



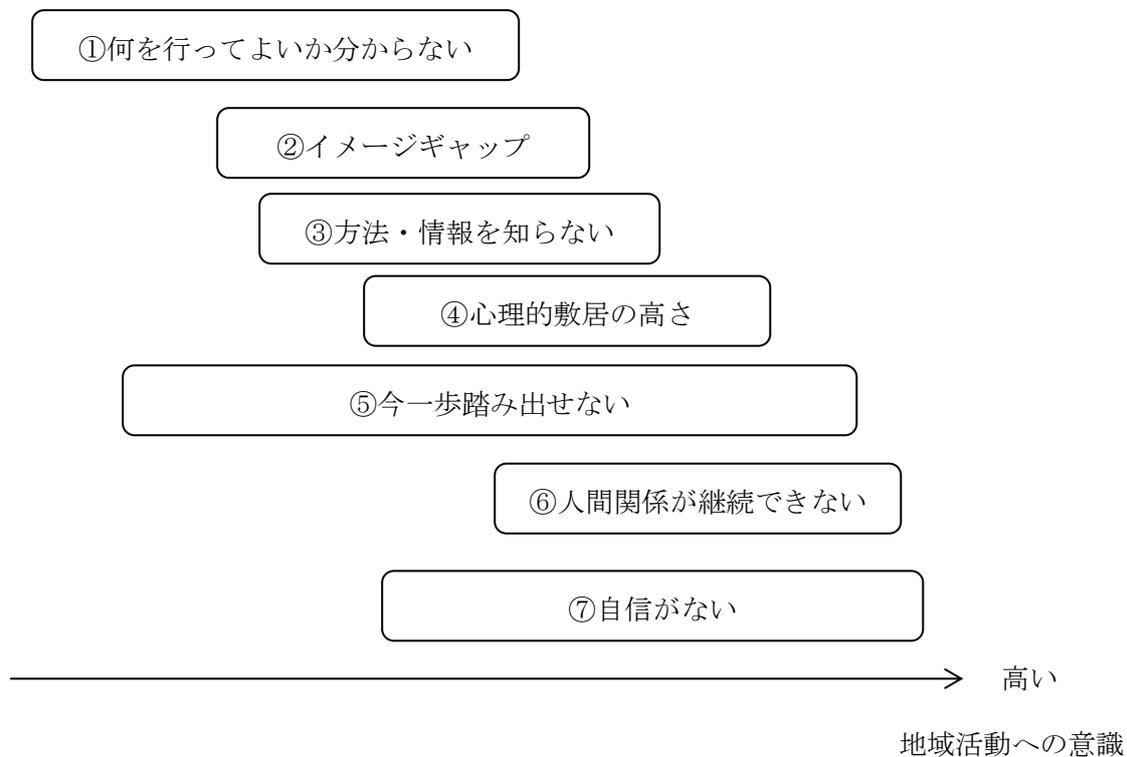
第5節 「今後参加型」に関する課題

今後参加型は、今後、地域活動などを行っていききたいという人たちである。とはいえ、行っていききたいが実践できていないという点で、いくつか課題を有している。

今回の調査を通じて、分かった課題として、現実的に地域活動に参加しようとしているか否か（地域活動への意識）を踏まえ考えると、次のようなものが挙げられよう。

なお、これらはいくまでも類型化したもので、各個人にあっては、複合化した課題を有していることもある。

図表 3-9 地域活動参加に対する課題（イメージ）



①何をやってよいか分からない。

まず、課題としては、何をやっていいか分からないというものがある。受講生の意見でも、何かやりたいが何をしたらいいか分からないという意見があった。

更には、地域活動などを行った場合どうなるのかなどといった意見もあった。ここには勿論、拒否型のように地域活動を行いたくない人も含まれているが、同時に、行いたいことが見えていないため、その結果・効果に疑問を抱いているという面もあると思われる。

【受講生の意見】

- ・何かしたいが何をしたいのか。
- ・何が自分に合うのか分からない。
- ・何をしたらいいか分からない。
- ・そこに何かがあるのか。
- ・ボランティア、社会貢献、社会参加した結果、何が変わるか。

このような課題を有している人たちに対しては、地域活動を行うことによる効果を示したり、地域活動などの事例などを見せるなどを行うことが必要だと思われる。やりたいこ

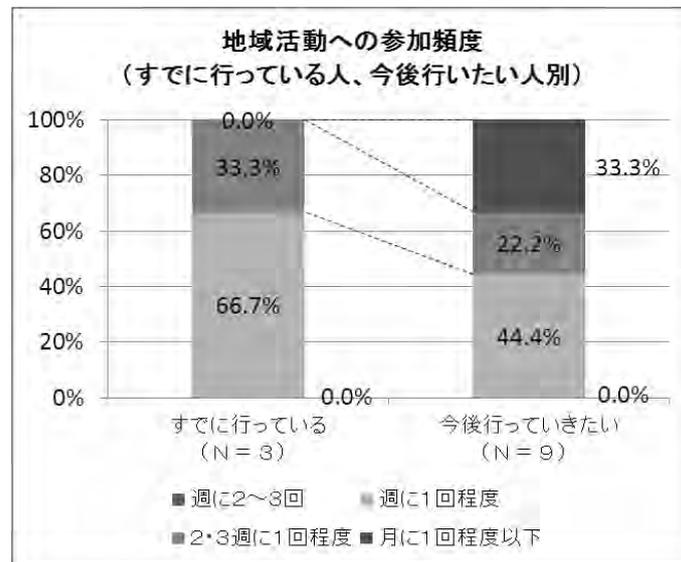
とは本人しかわからず、本人が決めなければならないことであることを考えると、このような事例紹介などを通じて、情報提供すると共に、地域活動への意識向上を図ることが重要であると思われる。

②地域活動へのイメージギャップ

地域活動というものを行っていないくとも、ある程度イメージというものを有していると思われるが、そこにはある種のギャップがあることが考えられる。

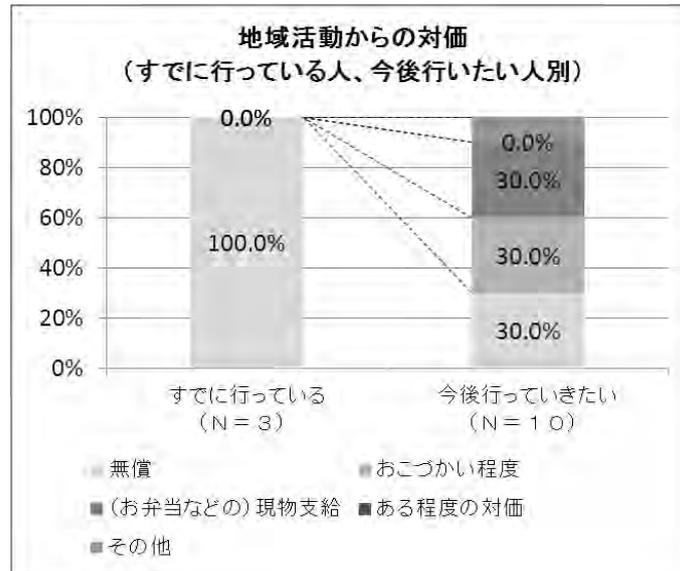
前章でも述べたが、次は、地域活動への参加頻度と地域活動からの対価について、地域活動を行っている人と今後行いたいという人を比較したものである。

図表 3-10 地域活動への参加頻度（行っている人と行いたい人の比較）（再掲）



今後行いたい人は、実際に行いたい人に比べ、比較的頻度は少なく、何らかの対価を求める傾向があることが伺える。

図表 3-1-1 地域活動からの対価（行っている人と行いたい人の比較）（再掲）



また逆に、受講生の意見として次のようなものがあり、地域活動に参加することは非常に大変な行動であるとして、心理的ハードルを上げているような声もあった。

【受講生の意見】

- ・ 地域活動に参加するには、全力で行わなければならないと思っていた。
- ・ 社会参加すると自分のペースで生活できなくなる

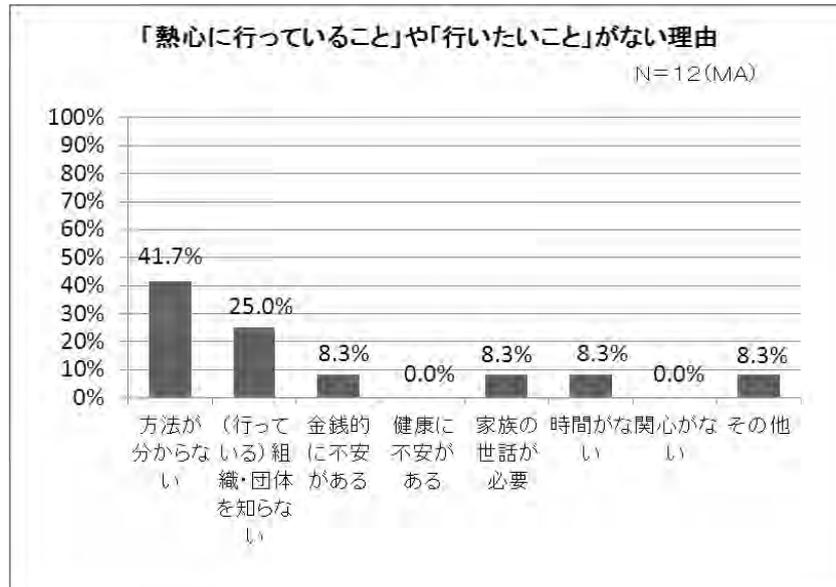
いずれにせよ、地域活動を行っている人と今後行っていきたい人との間には、何らかのギャップがあることが一つの課題と言える。

そしてこの課題解決に当たっては、実際の活動を行っている団体について、より知ってもらう工夫が重要といえる。

③方法・情報を知らない。

一つは、地域活動などを行っていこうとしても、どうしていいかわからない場合が多い。前章でも示した下記の図は、熱心に行っていることや行いたいことがない理由である。地域活動に限った質問ではないが、「方法がわからない」「組織・団体を知らない」などという回答が高かった。

図表 3-12 熱心に行っていることや行いたいことがない理由



また、川崎市において、市の外郭団体である「公益財団法人 かわさき市民活動センター」が、市民のボランティアや市民活動を支援している。そして、市民の地域活動への参加を推進するため、窓口や様々なイベントなどを開催している。

【インターネットサイト「応援ナビ かわさき」】



(URL : <http://kawasaki.genki365.net/>)

【相談窓口】 かわさき市民活動センター

相談日：毎日（但し施設休館日〔第3月曜日〕及び年末年始を除く）

時間：9:30～20:00（火・土 14:30～16:30 は相談員対応）

URL：

<http://www2.kawasaki-shiminkat.sudo.or.jp/volunt/>



【平成 25 年度 かわさきボランティア・市民活動フェア】

日時：平成 26 年 1 月 25 日（土） 10：00～16：00

場所：中原市民館、かわさき市民活動センター（武蔵小杉駅）

【ごえんフェア】

日時：平成 25 年 10 月 25 日（金） 19：00～20：30（受付・開場 18：30～）

会場：かわさき市民活動センター（武蔵小杉駅）

対象：社会貢献、社会起業、ボランティア・市民活動などに関心のある方

参加費：500円（茶菓子・ソフトドリンク代）

内容：交流、活動紹介、他。立場をこえて色々な人たちとお話してください。

持ち物：名刺、パンフレット等、ご自身や活動を PR できるもの

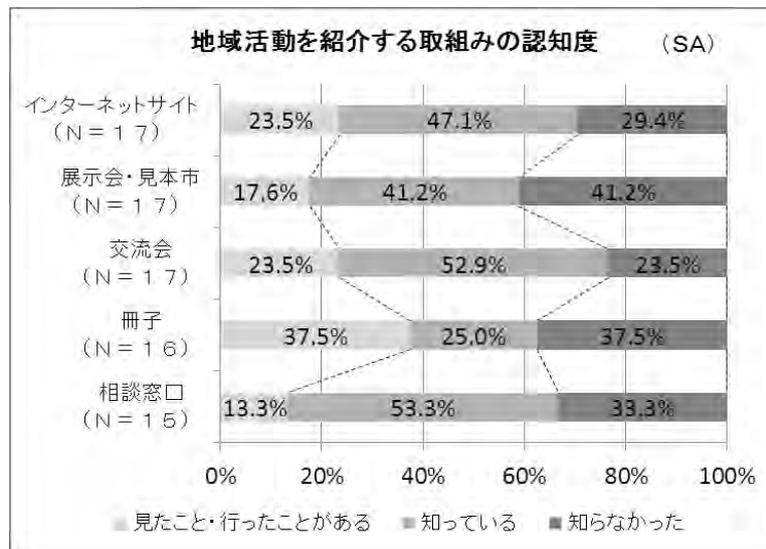
【ボラ・ナビ】

ボランティアをはじめたい、参加したい人のために、市内の社会福祉施設や活動している団体のボランティア募集情報を集めた冊子



以下、国や県などでも同じような取り組みをしている場合があるため、具体的な名称を掲げず、行政の取組みに係る認知度を質問したものである。

図表 3-13 行政による地域活動を紹介する取組みの認知度



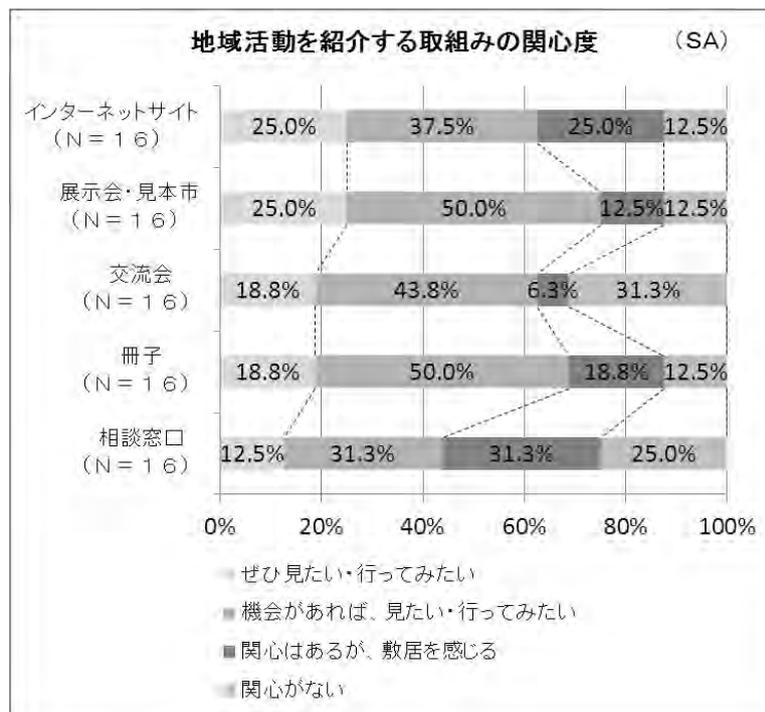
いずれのものも、約2割から4割の割合で「知らなかった」という意見があった。また、地域活動支援機関の担当の元職員の方・受講者を交えた座談会を実施した際には、ある程度知っていても、どのような相談を受けているのかなど、細かな話を知らなかったりしており、このような窓口・イベントなどの認知度向上が課題と言えよう。

④心理的敷居の高さ

上記のように、行政機関では、地域活動に関する窓口を設置したり、地域活動への参加を推進するためのイベントなどを実施している。

そこで、それらの取組みについて、その関心度を聞いたのが、下記の図である。

図表 3-14 行政による地域活動を紹介する取組みの関心度



(設問として設けたためということもあるが) 関心があるが敷居を感じている場合がある。特に、具体的な個別の相談を受けられる「窓口」が最も敷居を感じる結果となっている。

この点で、窓口などについて、より親近感をもってもらったり、地域活動を行う人と相談窓口をつなぐ仕組みづくりなどが課題と言えよう。

⑤今一步踏み出せない

直接、アンケートでは調査をしなかったが、受講生からの声として、地域活動を行っていきたいが、日々の生活に流されたりして、今一步踏み出せないというものがあった。そのためのきっかけづくりや意識向上が一つの課題と言えよう。

【受講生の声】

- ・時間があるのでつい先送りにしてしまい、重い腰が上がらない。
- ・関心があってもすぐに行動に移せない。
- ・やりたいと思っているが、つい面倒くさいと思ってしまう。

⑥人間関係が継続できない

これは、アンケートでは直接質問をしていないが、新たな人間関係や地域活動などへの参加のきっかけを作るため、様々な講座・セミナーなどに参加しているが、人間関係が継続できず、一時的な活動に留まっている場合がある。

例えば、アンケートの自由記入の設問においても、次のような声があった。

【アンケート結果（自由記入）】（抜粋）

- ・いろんな講座などに出ているが、何か1つのことを長く続けていける仲間・友人を見つけない

特に男性にあっては、仕事など目的をもって行う活動で社会生活を営んでいたため、何らかの目的がなければ、人間関係が継続しにくいという面があると思われる。

この点で、人間関係を形成できるような場づくりはもとより、それを継続できるような仕組み・工夫などが必要である。

⑦自信がない

アンケート調査では実施しなかったが、グループワーク等を通じて、あった意見として、「自信がない」というものがあった。全般的に自分自身を過小評価している場合もあれば、具体的にやりたいことも決まっているし、活動している団体なども調べたりもしているが、その団体に所属するのに、自分のような技量・レベルでいいのかと、自分を過小評価し、地域活動には参加できていない人もいた。

【受講生の声】

- ・自分は資格も特技もない。
- ・自分のレベルで参加していいのか。

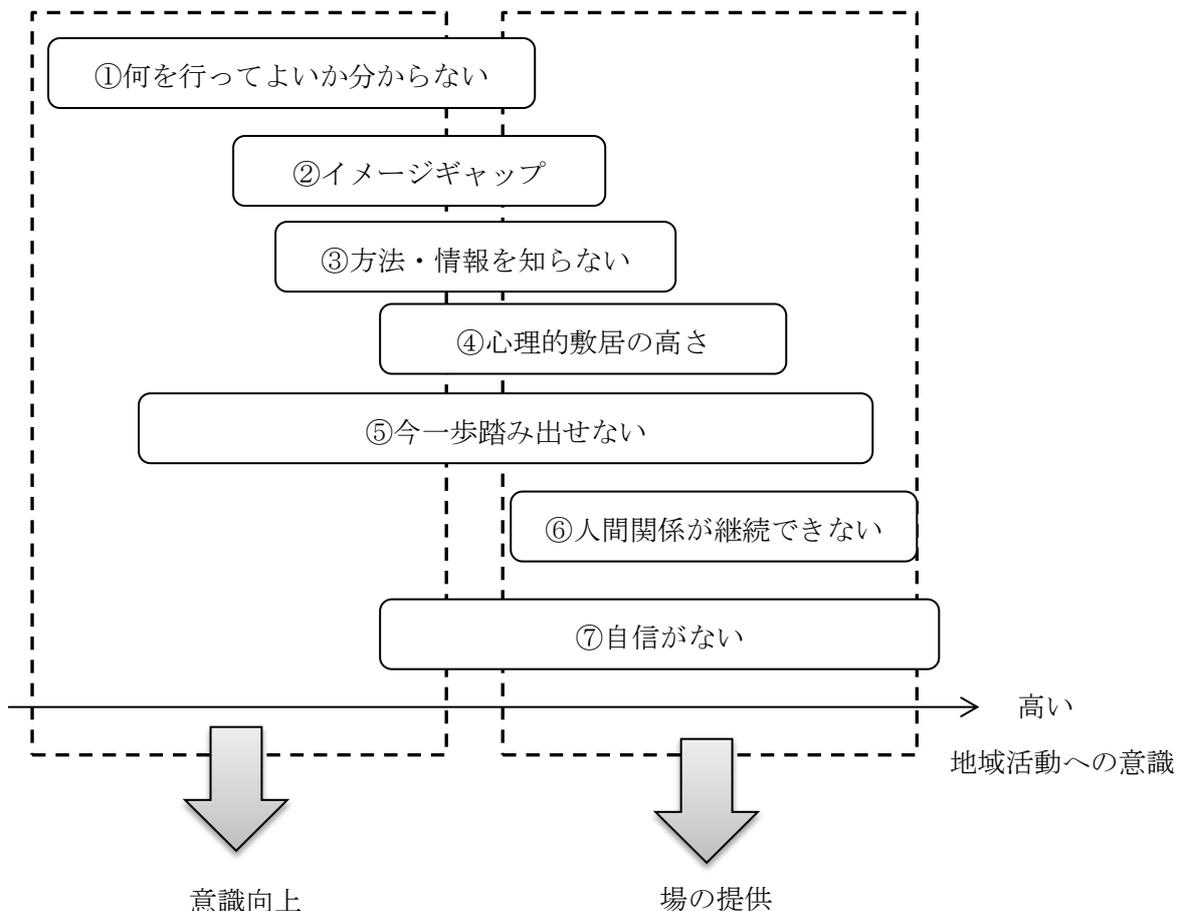
これは、上記の「方法・情報を知らない」や「地域活動へのイメージギャップ」といった課題と通じる面であるが、あくまでも外部からの目で地域活動を捉え、その活動の実態について把握していなかったり、勝手にイメージでその活動のレベルを高いものだと思い込んだりしている。

この点で、上記の「方法・情報を知らない」や「地域活動へのイメージギャップ」といった課題と同様、地域活動を実際に行っている団体の活動情報の提供や、そのギャップを埋めるような取り組みが必要であろう。

第6節 「今後参加型」に関する対策

以上のような今後参加型の課題に対して、大きく分けると、「意識向上」と「場の提供」といった2つの対策の方向性を考えることができる。

図表 3-15 地域活動参加に対する課題（イメージ）



①意識向上

1つは、「何を行ってよいか分からない」や「今一步踏み出せない」などといった課題に対して、地域活動への参加について意識の向上を図ることが必要である。

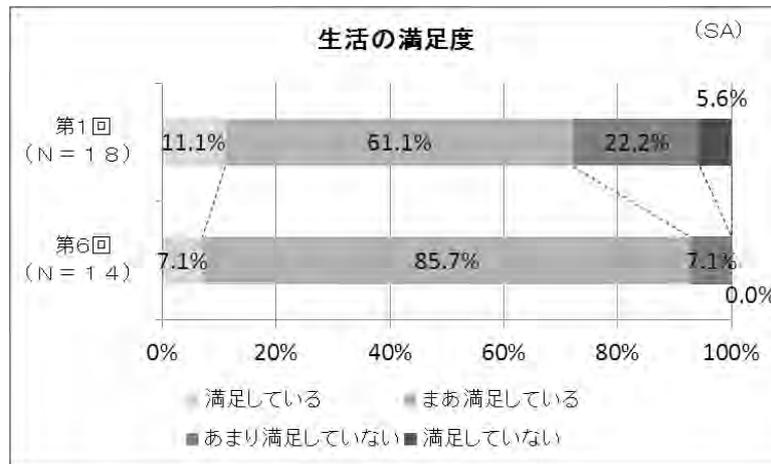
ただ今回の講座を通じて、アンケート結果から「前向きな気持ちをもてるようになった」「今後のリスタートのきっかけとなった」などの声もあった。

【アンケート結果（自由回答）】（抜粋）

- ・グループワークで話す機会が得られたことは意義があったと思います。
- ・前向きな気持ちをもてるようになりました。ありがとうございました。
- ・本講座が今後のリスタートのきっかけとなった。

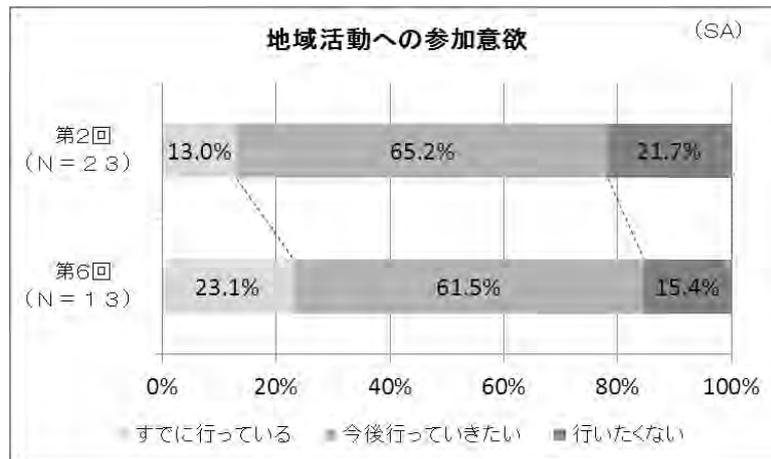
また、今回の講座がすべてではないだろうが、現在の生活の満足度について、「満足している」「まあ満足している」の合計は、7割から9割へと向上している。

図表 3-16 現在の生活の満足度（第1回・第6回アンケート比較）



更に、今回の講座の途中で、地域活動に参加するようになった人もおり、アンケート結果でも次のように「すでに行っている」という人が増加していることが分かる。

図表 3-17 地域活動への参加意欲（第2回・第6回アンケート比較）

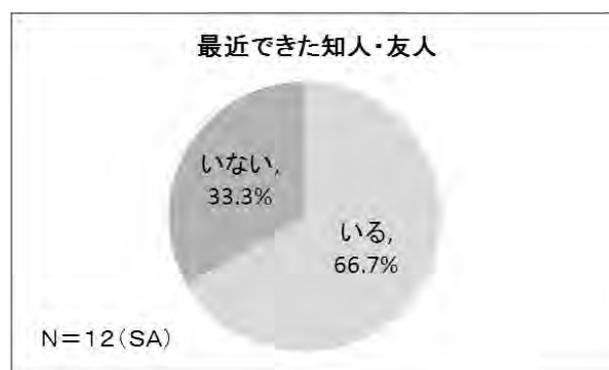


これらの原因としては、地域参画というもの中心に添えたテーマ内容はもとより、グループワーク等により、他の新たな人と接することで意識が変わっていったのだと思われる。

このようなことから、今回のような取り組みにより、意識向上を図っていくことが重要と言えるのかもしれない。

更に、「最近、知人・友人となられた方はいらっしゃいますか。」という質問について、約7割が「いる」と回答したが、その中で今回の講座を通じて、知り合いになったという人もいた。この点で、新たな人間関係を形成する上で、今回のようなグループワークなどを行うような講座は一つのきっかけになるとと思われる。

図表 3-18 講義最終日において、最近できた知人・友人

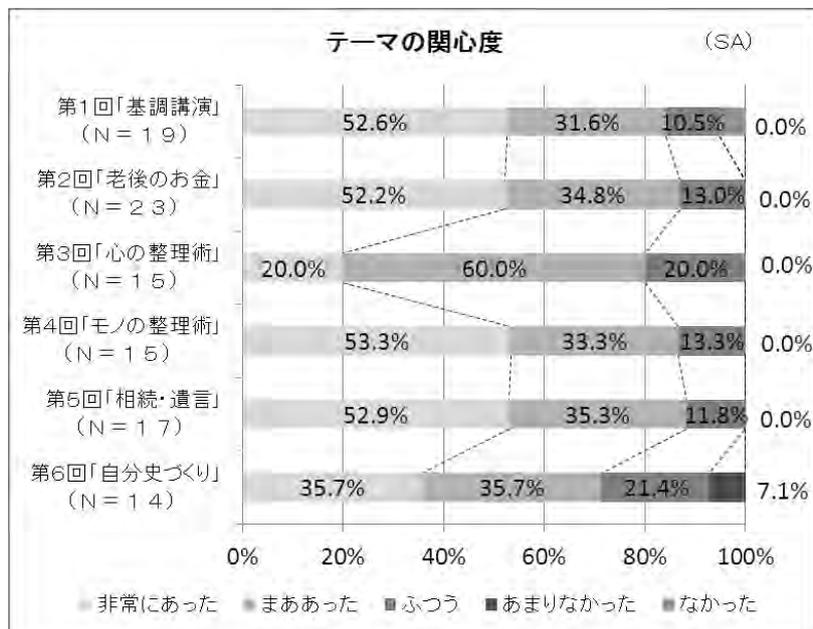


ただ、このような講座に効果があっても、まずは入り口として、参加をしてもらう必要があり、シニアに興味のあるテーマで講座を構成する必要があるだろう。

前章で見たように、比較的、心に関する事項について関心度に低い傾向があったり、お

金の問題についても、年金制度一般や病気・介護などのリスクに不安を感じている。

図表 3-19 講義テーマの関心度（全体）（再掲）



【生活資金の不安の原因】（抜粋）

- ・年金がこれからも受け取れるかどうか。
- ・長生きしたら足りるか。
- ・企業年金がなくなる予定なので不安。
- ・貯金額の目減り。
- ・貯金を取り崩して生活していること。
- ・健康や介護といった点で不安
- ・インフレが起きたとき。
- ・年金生活になるので、病気等でお金が必要になったときや貯蓄が減ることが心配
- ・資産が減る一方なので就職したい
- ・病気・介護で援助が欲しいときの経済的なことや、人的・社会保障で不安がある
- ・資金が減っていくこと（いつまでもつか、病気したらどうなる）

これらの点から、よりシニアが興味を持つようなテーマを設定し、気軽に参加できるような形が求められるだろう。

また、上記のように新たな人間関係の形成に寄与する部分もあるが、より継続性が高まるような運営方法などの検討が重要だろう。

【対策例】

- ・社会参画をテーマにした、グループワークなど実施するような講座・セミナーの実施
- ただし、よりシニアが関心のあるようなテーマ設定や運営方法に工夫が必要

②場の提供

地域活動に対して、イメージに留まっていたり、方法・情報を知らないという課題を有している。

上記のように、川崎市では、各種のイベントや冊子作りなどを実施し、情報提供を実施している。このような取り組みを引き続き実施していくと共に、より一歩踏み込んだ取り組みも重要だと思われる。

そのときに、下記のように具体的な話を聞きたいという意見もあり、より実際に地域活動などを実施している人の声を聞ける場が必要である。

【地域活動について知りたいと思ったとき必要と思われるもの】

- ・このような講座は初めてで、今後機会があれば出席したい。いろんなお話などが出ると、前がよく見える
- ・地域活動の様子を記録したものを、PR を兼ね作成し見せてほしい。または、具体的な話を聞きたい

また、地域活動を実施しようと思った場合、その内容について、人それぞれである。その点で、今回の連続講座でも若干実施したが、個別相談会をより実施することが重要である。特に、個別相談会では、具体的な話や悩みなどを聞き、各人に応じた課題に対応することが可能である。

そしてこれらのことを行うことで、より具体的な話・方法について知ることができ、個々の課題について対処することが可能となると思われる。

【対策例】

- ・講座形式による実際に活動している人などによる地域活動事例などについて紹介する場の提供
- ・個々の具体的な相談に応じるような個別相談会

參考資料

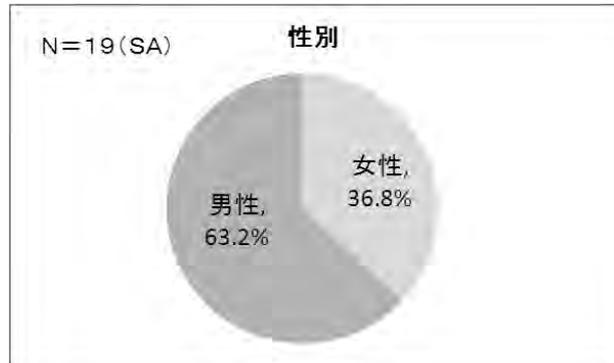
第1回アンケート結果

以下は、第1回講座（平成25年8月25日）で実施したアンケート結果である。

A あなたご自身について伺います

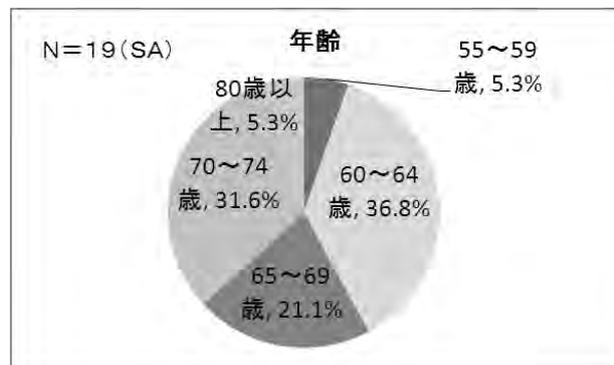
A1) 性別

性別としては、「男性」が63.2%、「女性」が36.8%だった



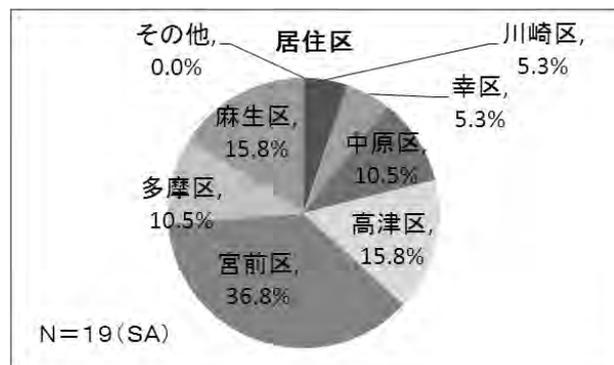
A2) 年齢

年齢として、最も多いのが「60～64歳」で36.8%、次に「70～74歳」で31.6%、そして「65～69歳」の21.1%と続いた。



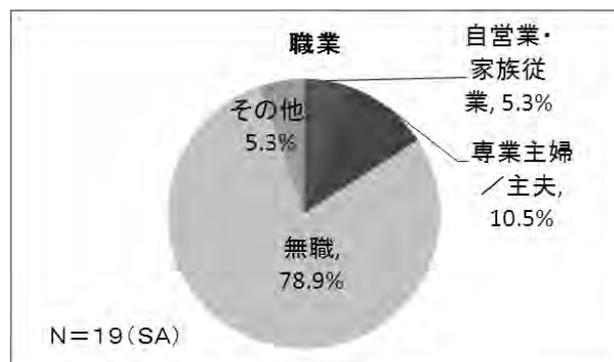
A3) 居住区

居住区としては、すべて川崎市民であり、最も多いのが宮前区で36.8%、次に麻生区と高津区の15.8%だった。



A4) 職業

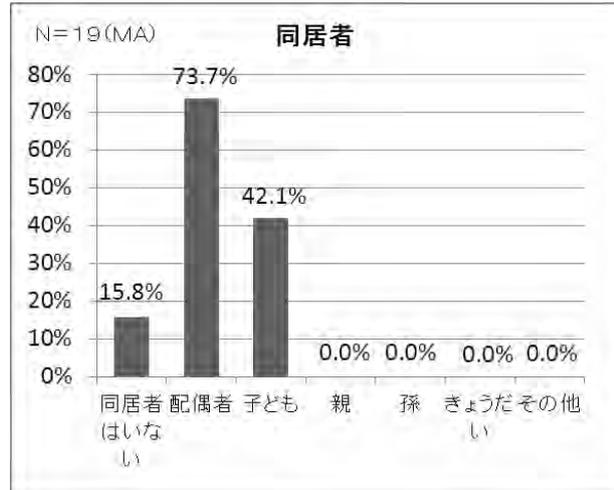
職業として、最も多いのが「無職」で78.9%であった。ただ、「専業主婦／主夫」や「自営業・家族従業」などの回答者もいた。



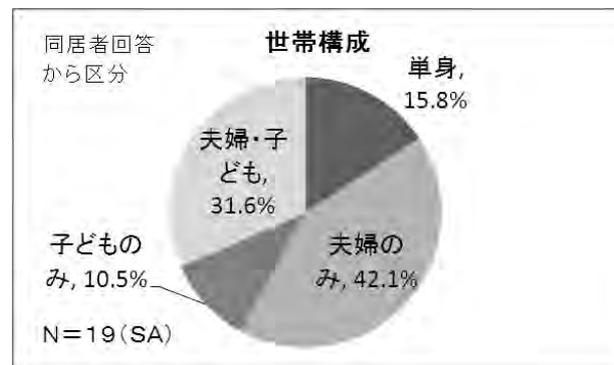
A 5) 同居者

同居者としては、配偶者が 73.7%、子供が 42.1%だった。

また、「同居者はいない」という単身者も 15.8%いた。



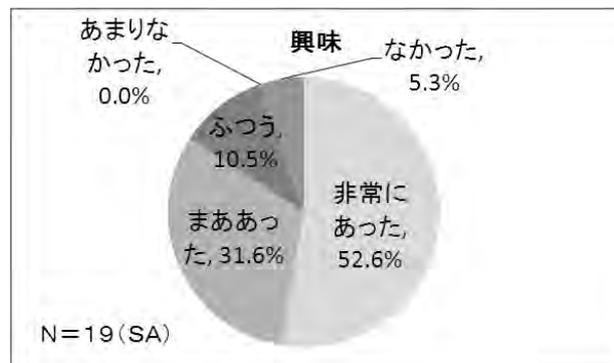
この回答者属性から、世帯構成を整理すると、最も多いのが「夫婦のみ」の 42.1%、次に「夫婦・子供」の 31.6%だった。



B 次に、本日受講された講座について伺います

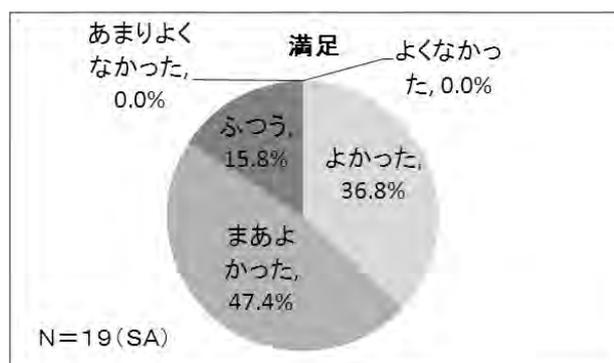
B 1) 本日の講座テーマについて、受講前に、どの程度興味がありましたか。

「基調講演」というテーマについての興味について、「非常にあった」が最も高く 52.6%、次に「まあまああった」が 31.6%だった。



B 2) 全体的にお考えになって、あなたは本日の講座にどの程度満足されましたか。

実際に講座を受けた満足としては、最も高いのが「まあよかった」の 47.4%、次に「よかった」の 36.8%となった。



B 3) 本日の講座で良かった点、改善すべき点がございましたら、それぞれ具体的にご記入ください。

【自由回答】

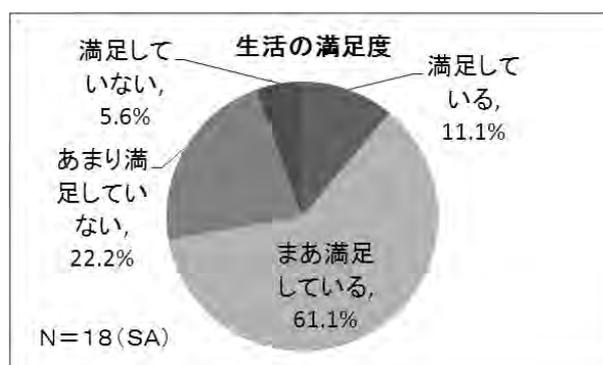
- ・グループワークで同じテーブルの人たちと話ができて、良かった。
- ・具体的で、判りやすい講義で無駄がなく、楽しく受講できました。
- ・事例は面白く、もう1つくらいあってもよいと思った。
- ・もう少し甘い考えに喝を入れてもらえるぐらいのインパクトのある講義を期待しています。
- ・抽象的なお話だけでなく、地域への入り方、いろんな資格など、具体的なお話をもっと聞きたい。
- ・「死ぬまで生きる」、「健康、勇気、金などは必要」など参考になり、元気が出ました。
- ・生きがい、新しい自分、偶然をチャンスに生かす5ヶ条が参考になった。また、身近でほんのちょっとしたことから行動することがきっかけで社会の一員となれるというのが印象的だった。社会の中で還元し、喜ばれたら幸せと思う。

※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

C 次に、あなたの生活について伺います

C 1) 現在の生活にはどの程度満足されていますか。

現在の生活について、「まあ満足している」が最も高く61.1%だった。「満足している」という回答と合わせると、約7割が満足しているという結果となった。



C 2) 上記のご回答の理由を、具体的に教えてください。

【自由回答】

【満足】

- ・自分を含め、家族全員が健康で仲良く暮らしており、厚生年金・企業年金等で収入がある。趣味もあり、仲間ができて楽しい。孫の面倒を見ることができる。
- ・将来の漠然とした不安が、満足感に影を落としている。
- ・自分の気持ちに正直生きていられる。
- ・今現在、健康である。
- ・具体的には健康である。心理的には子供や孫とともに楽しく暮らしているのと、年齢的に適したやりがいのある仕事もある。健康を維持するための先生が近くについて、年齢に適した運動の指導が受けていられる。
- ・ゴルフを中心に、英会話、アカデミー講座など、充実しています。
- ・少しだけパート・バイトの仕事をしたいが合う仕事が見つからない。
- ・妻との会話は多いほうで、温かさがあり、そして程よい刺激もある家族生活を過ごしている。最近では町内会の行事の手伝いも積極的に参加し、町内の方々との付き合い始めている。
- ・リタイア直後で、時間をどうつぶしてよいか考え中。
- ・持ち家、健康（通院、投薬受けている）、退職後1か月未満
- ・大きな病気もなく、普通に物事ができる。

【不満足】

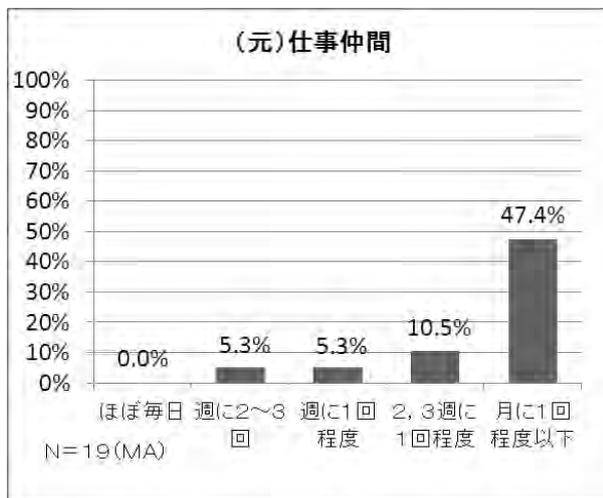
- ・夫と気持ちや目標が合わず、行動・趣味もばらついている。
- ・まだ、生活パターンが一定していない。
- ・何をやってよいか分からない。
- ・子どもと同居しているが、家事には協力してくれない。何事にも自立させることを考えさせている。

※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

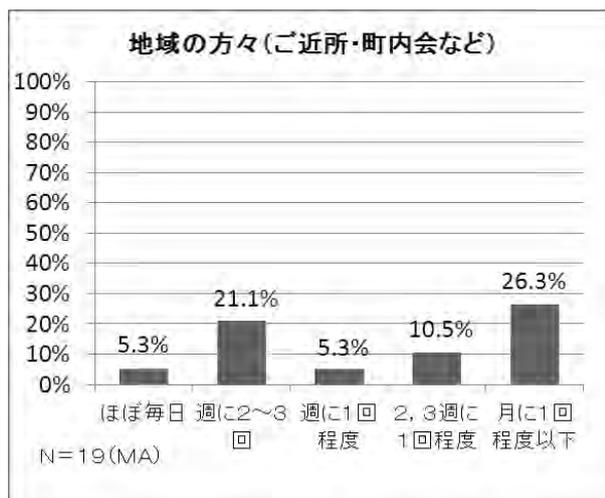
D 次に、あなたが普段お会いしている方々について伺います

D 1) ご家族以外で 普段どのような方と、どのくらいの頻度でお会いすることが多いですか。

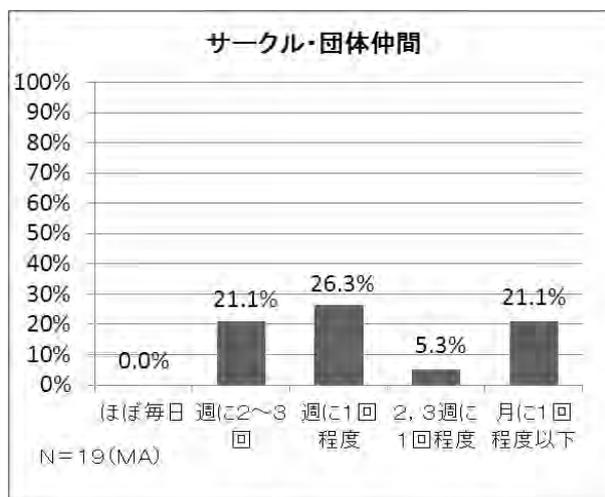
(元) 仕事仲間については、圧倒的に「月に1回程度以下」が高く、47.4%となった。



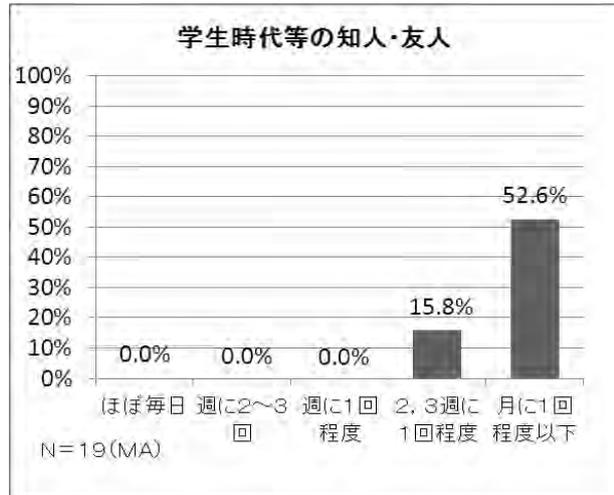
地域の方々については、「月に1回程度以下」が26.3%、「週に2~3回」が21.1%と高い結果となった。



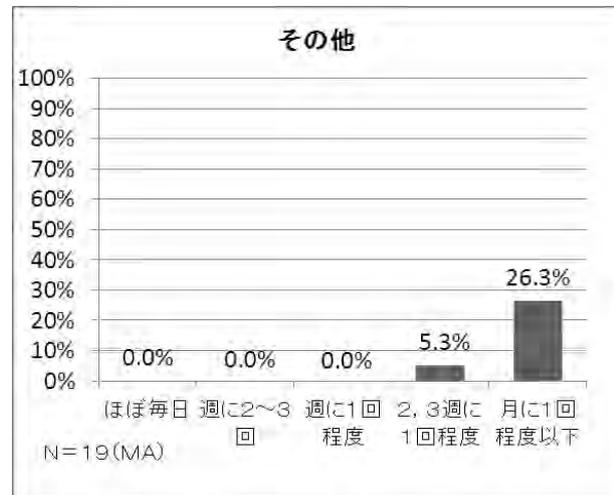
サークル・団体仲間については、「週に1回程度」が26.3%、次に「週に2~3回」及び「月に1回程度以下」がそれぞれ21.1%となった。



学生時代等の知人・友人については、最も高いのが、「月に1回程度以下」で52.6%、次に「2、3週に1回程度」の15.8%となった。



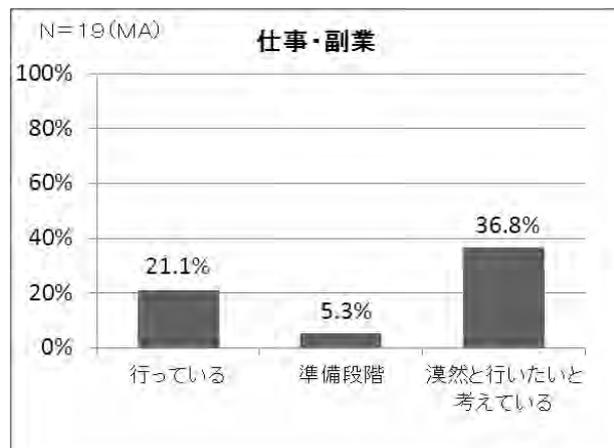
その他についても、「学生時代等の知人・友人」と同様に、「月に1回程度以下」が最も高く26.3%で、次に「2、3週に1回程度」の5.3%となった。



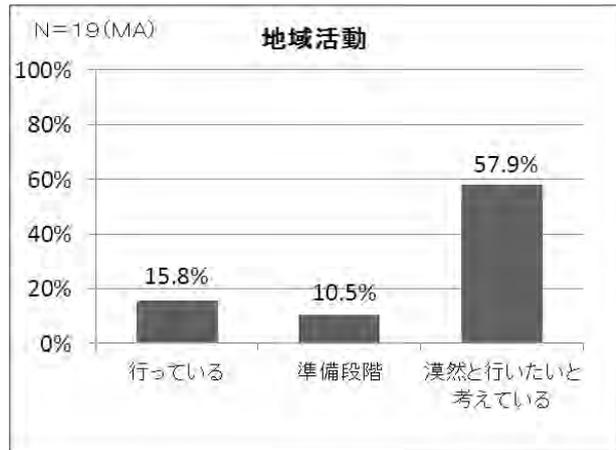
E 次に、あなたのご活動について伺います

E 1) 「熱心に行っていること」もしくは「行いたいこと」はありますか。

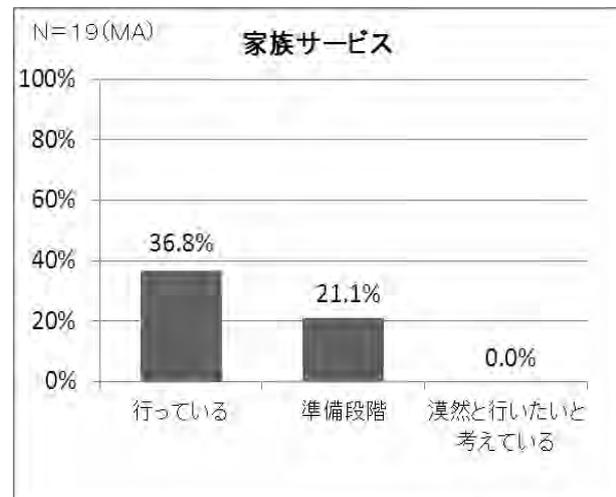
仕事・副業については、「漠然と行いたいと考えている」が最も高く36.8%となった。



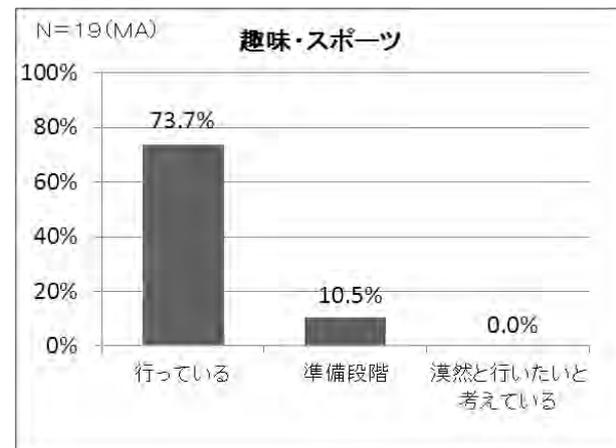
地域活動についても、「漠然と行いたいと考えている」が57.9%と最も高かった。



家族サービスについては、仕事・副業や地域活動とは異なり、「行っている」が最も高く36.8%となった。

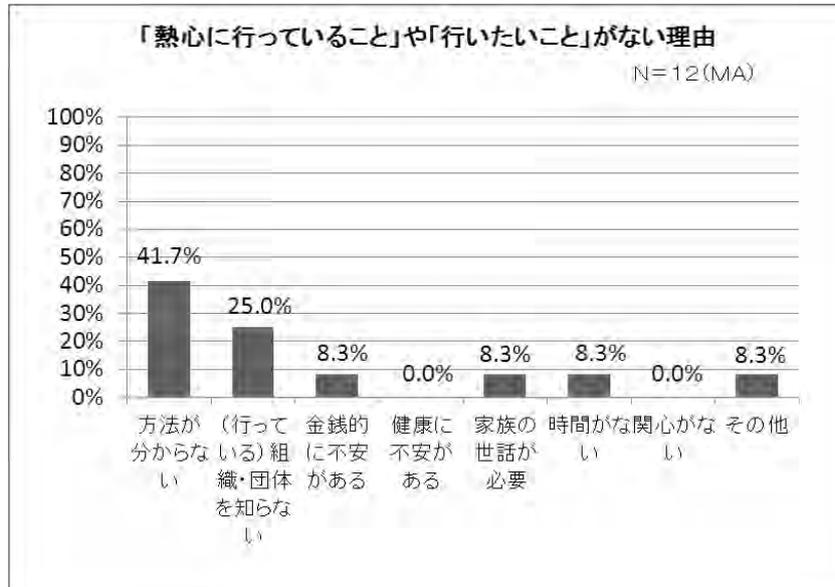


趣味・スポーツについても、家族サービスと同様に「行っている」が73.7%と最も高かった。



E 2) 「熱心に行っていること」や「行いたいこと」がない理由「活動」を行いにくくしている原因として、当てはまるものは何ですか。

最も高いのが「方法が分からない」で 41.7%、次に 25.0%で「組織・団体を知らない」が続いた。



第1回アンケート票

シニア世代の生活状況アンケートのお願い

講座名
リタイア後の人生をリフレッシュする講座 8/30

本日は、すくらむ21 および地域彩生フォーラムの協働事業講座にご参加いただき、ありがとうございます。地域におけるシニア世代の生活状況と課題を把握し、効果のある事業実施にむけた参考とさせていただくため、参加者のみなさまにアンケートをお願いしております。

このアンケートは統計的に処理して使用します。あなたご自身のお考えが第三者に知られることはありませんので、皆様の率直なご感想・ご意見をお寄せください。お手数ではございますが、ご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

すくらむ21 特定非営利活動法人
川崎市男女共同参画センター 地域彩生フォーラム

A あなたご自身について伺います

A1) 性別 (〇は1つだけ)

1. 女性 2. 男性

A2) 年齢 (〇は1つだけ)

1. 50歳未満 2. 50～54歳 3. 55～59歳 4. 60～64歳
5. 65～69歳 6. 70～74歳 7. 75～79歳 8. 80歳以上

A3) 居住区 (〇は1つだけ)

1. 川崎区 2. 幸区 3. 中原区 4. 高津区 5. 宮前区
6. 多摩区 7. 麻生区 8. その他(具体的に:)

A4) 職業 (〇は主たるもの1つだけ)

1. 自営業・家族従業 2. 勤め人(フルタイム) 3. パート/アルバイト
4. 専業主婦/主夫 5. 学生 6. 無職
7. その他(具体的に:)

A5) 同居者 (〇はいくつでも可)

1. 同居者はいない 2. 配偶者 3. 子ども 4. 親 5. 孫
6. きょうだい 7. その他(具体的に:)

B 次に、本日受講された講座について伺います

B1) 本日の講座テーマについて、受講前に、どの程度興味がありましたか。(〇は1つだけ)

1. 非常にあった 2. まああった 3. ふう 4. あまりなかった 5. なかった

B2) 全体的にお考えになって、あなたは本日の講座にどの程度満足されましたか。(〇は1つだけ)

1. よかった 2. まあよかった 3. ふう 4. あまりよくなかった 5. よくなかった

B3) 本日の講座で良かった点、改善すべき点がございましたら、それぞれ具体的に記入ください。

C 次に、あなたの生活について伺います

C1) 現在の生活にはどの程度満足されていますか。(〇は1つだけ)

1. 満足している 2. まあ満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

C2) 上記のご回答の理由を、具体的に教えてください。

C3) ご家族以外で、普段どのような方と、どのくらいの頻度でお会いすることが多いですか。

①～⑤の項目ごとに、それぞれ該当する番号に1つずつ〇をお願いします。

	ほぼ毎日	週に2～3回	週に1回程度	2,3週に1回程度	月に1回程度以下
①(元)仕事仲間	1	2	3	4	5
②地域の方々(ご近所・町内会など)	1	2	3	4	5
③サークル・団体仲間	1	2	3	4	5
④学生時代等の知人・友人	1	2	3	4	5
⑤その他(具体的に)	1	2	3	4	5

C4) ①～④について、「熱心に行っていること」もしくは「行いたいこと」はありますか。

それぞれの活動状況について、1つずつ〇をお願いします。

	行っている	準備段階	漠然と行いたいと考えている
①仕事・副業	1	2	3
②地域活動	1	2	3
③家族サービス	1	2	3
④趣味・スポーツ	1	2	3

C5) 上記に〇がない方におたずねします。「熱心に行っていること」や「行いたいこと」がない理由として、下記のうち、当てはまるものに〇をお願いします(〇はいくつでも)

1. 方法が分からない 2. (行っている)組織・団体を知らない
3. 金銭的に不安がある 4. 健康に不安がある 5. 家族の世話が必要
6. 時間がない 7. 関心がない 8. その他(具体的に:)

質問は以上です。ご協力、誠にありがとうございました。

すくらむ21
川崎市男女共同参画センター

特定非営利活動法人
地域彩生フォーラム

第2回アンケート結果

以下は、第2回講座（平成25年9月12日）で実施したアンケート結果である。

A あなたご自身について伺います

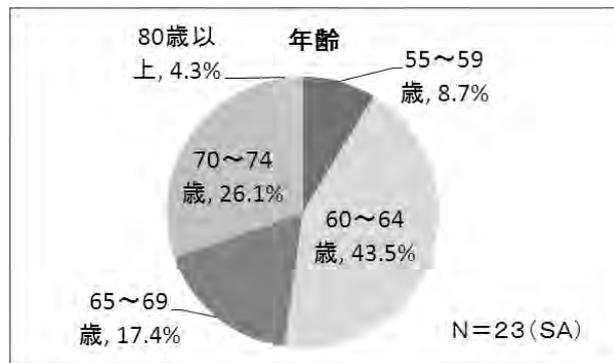
A 1) 性別

性別としては、「男性」が52.2%、「女性」が47.8%だった。



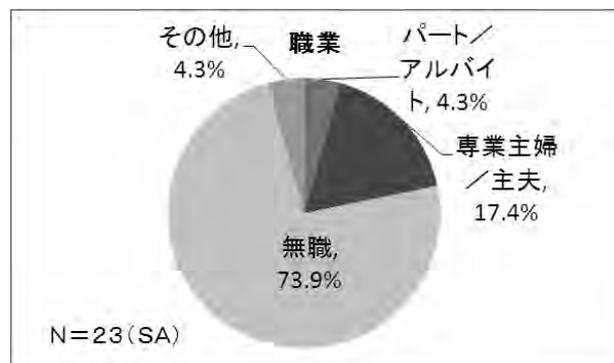
A 2) 年齢

年齢としては、「60～64歳」が最も高く43.5%、次に「70～74歳」で26.1%、そして「65～69歳」の17.4%が続いた。



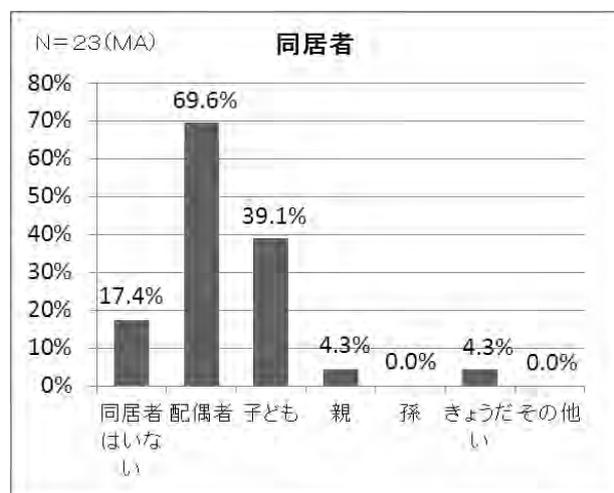
A 3) 職業

職業としては、「無職」が最も高く73.9%となった。なお、「専業主婦／主夫」や「パート／アルバイト」の回答者もいた。

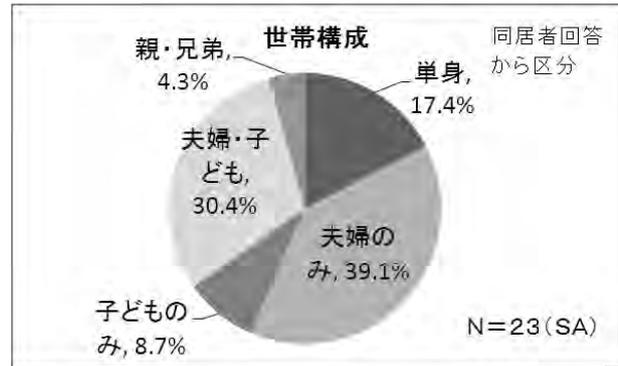


A 4) 同居者

同居者としては、「配偶者」が最も高く69.6%、次に「子供」が39.1%となった。



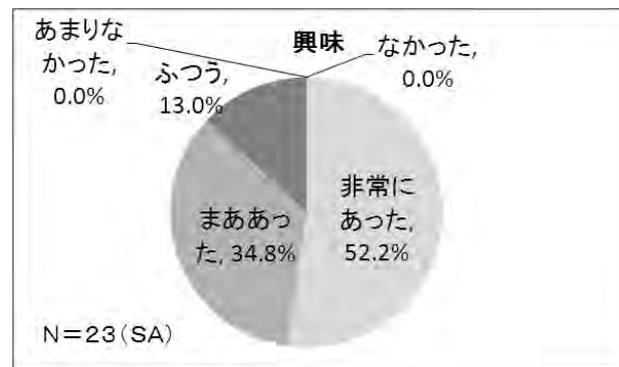
同居者から世帯構成を整理すると、「夫婦のみ」が最も高く 39.1%、次に「夫婦・子ども」が 30.4%となった。



B 次に、本日受講された講座について伺います

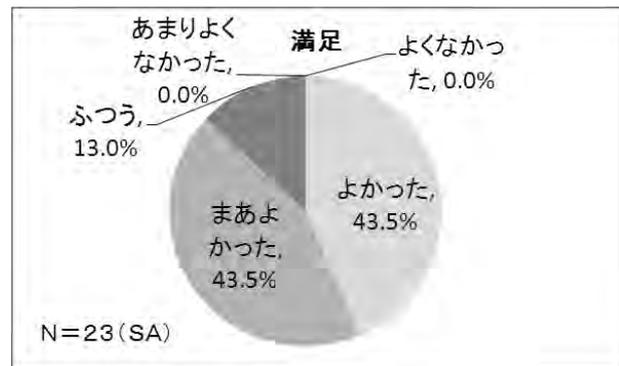
B 1) 本日の講座テーマについて、受講前に、どの程度興味がありましたか。

「ライフプラン（老後のお金）」というテーマについて、「非常にあった」が最も高く 52.6%、次に「まああった」が 34.8%となった。



B 2) 全体的にお考えになって、あなたは本日の講座にどの程度満足されましたか。

満足度としては、「よかった」「まあよかった」がともに 43.5%となった。



B 3) 本日の講座で良かった点、改善すべき点がございましたら、それぞれ具体的にご記入ください。

【自由回答】

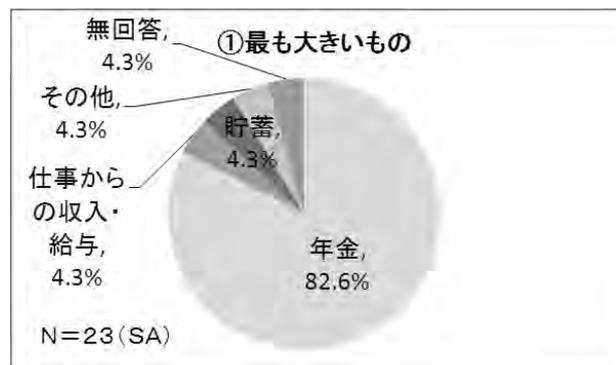
- ・グループワークに当たり、今後の楽しみなど、先のことについては、単身者と夫婦の人とは一緒に話したくない。
- ・老後のお金に関して頭が整理できました。今後はもっと掘り下げる勉強をしたいと思います。
- ・生命保険、相続について知ることができ、参考になりました。
- ・年金は個別な問題なので仕方ないのですが、ざっくりとした印象の講義でした。入門編といった感じでした。
- ・有償の講座なので、受講できる方には、パンフレット等を郵送で送って知らせてほしいです。
- ・リタイア後の3大テーマ、リタイア後のリスク
- ・大変わかりやすい講座で参加した甲斐があった。できれば講座の時間帯を午後にしてほしい
- ・保険の種類の話や資産増（投資）の話が聞けてよかった。
- ・時間の制限はあると思うが、全員の一言が聞きたかった。
- ・話の内容は全体的に現役のときに聞けたらと思いました。

※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

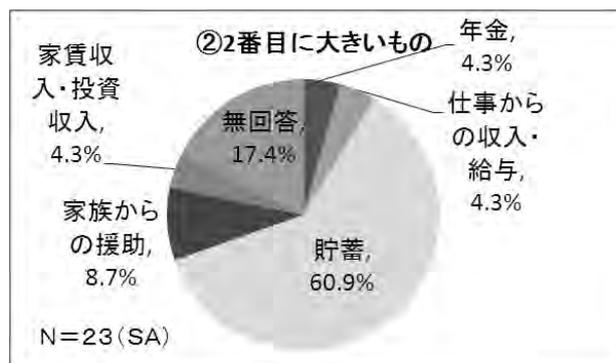
C 次に、あなたの生活資金について伺います

C 1) 現在の生活資金として、大きいものは何ですか。

現在の生活資金として、最も大きいものは、「年金」で82.6%となった。

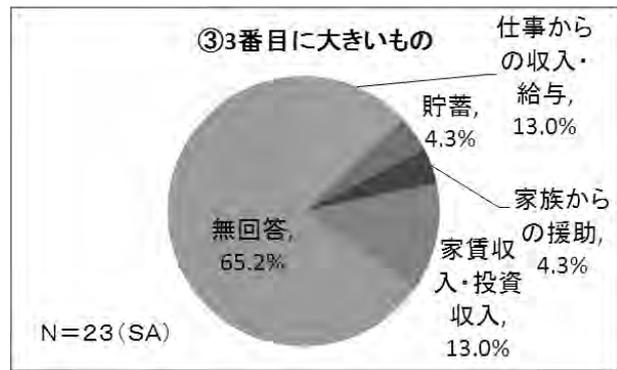


2番目に大きいものとしては、「貯蓄」が60.9%で最も高くなった。



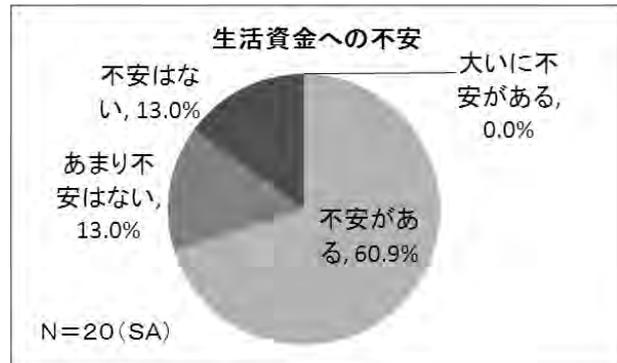
3番目に大きいものは「無回答」が65.2%が最も高く、上記の結果と合わせると、生活資金として、年金・貯蓄が中心であることが分かる。

ただ、「仕事からの収入・給与」や「家賃収入・投資」などと回答している人もそれぞれ13.0%いた。



C 2) 今後の生活資金に不安がありますか。

今後の生活資金については、「不安がある」が最も高く60.9%となった。



付問) 「1. 大いに不安がある」「2. 不安がある」と回答された方は、どのような点で不安を感じられておられるか、具体的に教えてください。

【自由回答】

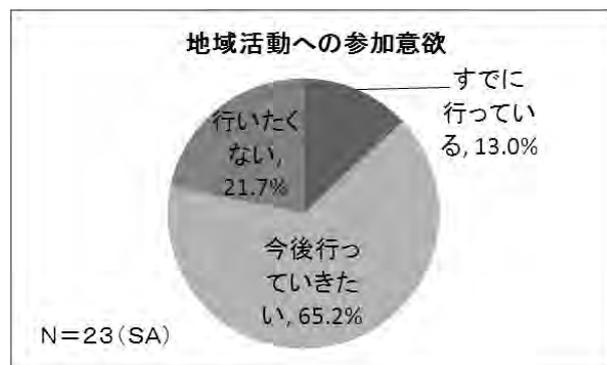
- ・年金がこれからも受け取れるかどうか。
- ・長生きしたら足りるか。
- ・企業年金がなくなる予定なので不安。
- ・貯金額の目減り。
- ・貯金を取り崩して生活していること。
- ・年金制度。
- ・平均寿命が長すぎて、お金が足りるのかの不安がある。
- ・健康や介護といった点で不安
- ・お金の面。
- ・インフレが起きたとき。
- ・年金生活になるので、病気等でお金が必要になったときや貯蓄が減ることが心配
- ・資産が減る一方なので就職したい
- ・病気・介護で援助が欲しいときの経済的なことや、人的・社会保障で不安がある
- ・資金が減っていくこと (いつまでもつか、病気したらどうなる)

※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

D 次に、今後の地域活動について伺います

D 1) 今後、地域活動を行っていききたいですか。

「今後行っていききたい」が 65.2%となった。反面、「行いたくない」という人も 21.7%いた。



D 2) 「1. すでに行っている」「2. 今後行っていききたい」と回答された方にお聞きします。

D 2-1) どのような地域活動を行っている・行っていききたいのか、教えてください。

【自由回答】

【すでに行っている人】

- ・自治会活動
- ・NPO 法人
- ・里山づくり、特養のボランティア、地元を知る活動の手伝い

【今後行っていききたい人】

- ・傾聴活動
- ・町内会で各種ボランティア活動を行っていききたい
- ・シニアとの茶話会や体操指導、子育て支援
- ・町会活動に参加、福祉のお手伝い
- ・見まわり活動
- ・地域の歴史秘話
- ・地域福祉向上のための仕事
- ・将棋や写真撮影

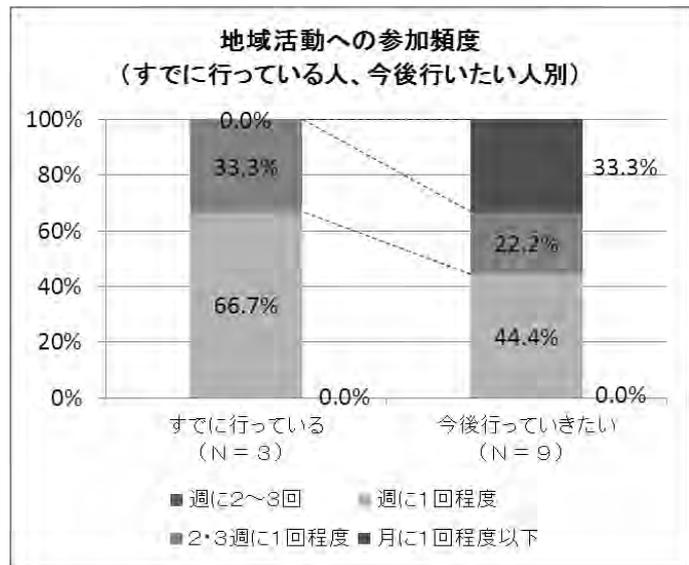
※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

D 2 - 2) その地域活動について、どの程度の頻度で参加したいですか。

地域活動への参加頻度については、「週に1回程度」が最も高く 50.0%だった。

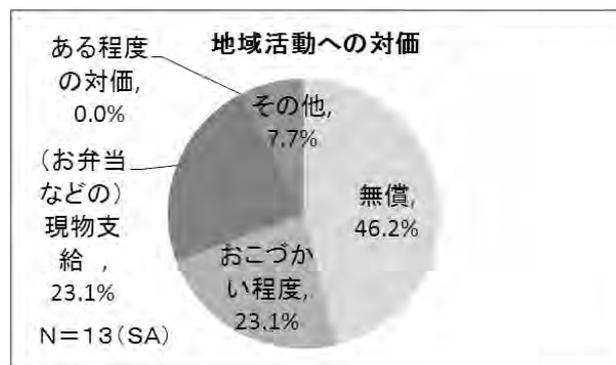


また、この質問について、すでに行っている人と今後行いたい人で比較すると、いずれも「週に1回程度」が高かったが、すでに行っている人では 66.7%、今後行っていきたい人では 44.4%だった。

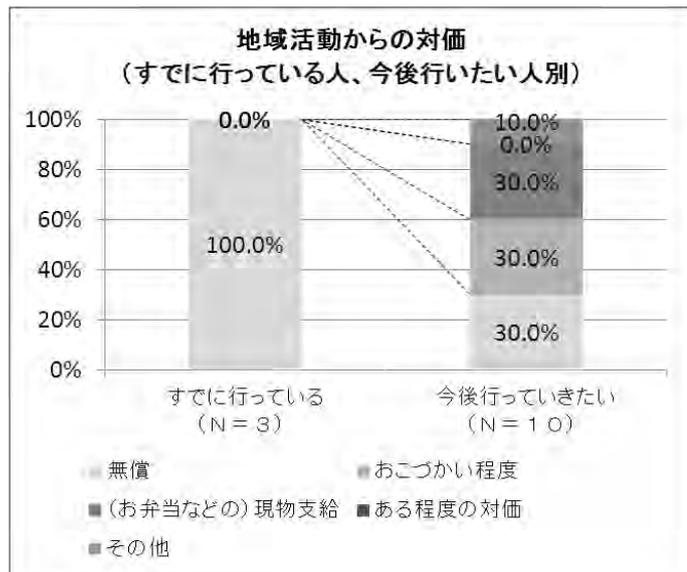


D 2 - 3) その地域活動に参加するにあたり、どの程度、対価は必要ですか。

地域活動への対価については、「無償」が最も高く 46.2%だった。次に、「現物支給」「おこづかい程度」がそれぞれ 23.1%となった。



また、すでに行っている人と今後行いたい人で比較すると、すでに行っている人ではすべて「無償」となったのに対して、今後行いたい人では、「無償」「おこづかい程度」「現物支給」がそれぞれ 30%となった。



第2回アンケート票

シニア世代の生活状況アンケートのお願い

講座名
リタイア後の人生をリフレッシュする講座 9/12

本日は、すくらむ21 および地域彩生フォーラムの協働事業講座にご参加いただき、ありがとうございました。地域におけるシニア世代の生活状況と課題を把握し、効果のある事業実施にむけた参考とさせていただきます。参加者のみなさまにアンケートをお願いしております。

このアンケートは統計的に処理して使用します。あなたご自身のお考えが第三者に知られることはございませんので、皆様の率直なご感想・ご意見をお寄せください。お手数ではございますが、ご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

すくらむ21 特定非営利活動法人
川崎市男女共同参画センター **地域彩生フォーラム**

A あなたご自身について伺います

A1) 性別 (〇は1つだけ)

1. 女性 2. 男性

A2) 年齢 (〇は1つだけ)

1. 50歳未満 2. 50~54歳 3. 55~59歳 4. 60~64歳
5. 65~69歳 6. 70~74歳 7. 75~79歳 8. 80歳以上

A3) 職業 (〇は主たるもの1つだけ)

1. 自営業・家族従業 2. 勤め人(フルタイム) 3. パート/アルバイト
4. 専業主婦/主夫 5. 学生 6. 無職
7. その他(具体的に:)

A4) 同居者 (〇はいくつでも可)

1. 同居者はいない 2. 配偶者 3. 子ども 4. 親 5. 孫
6. きょうだい 7. その他(具体的に:)

B 次に、本日受講された講座について伺います

B1) 本日の講座テーマについて、受講前に、どの程度興味がありましたか。(〇は1つだけ)

1. 非常にあった 2. まああった 3. ぶつう 4. あまりなかった 5. なかった

B2) 全体的にお考えになって、あなたは本日の講座にどの程度満足されましたか。(〇は1つだけ)

1. よかった 2. まあよかった 3. ぶつう 4. あまりよくなかった 5. よくなかった

B3) 本日の講座で良かった点、改善すべき点がございましたら、それぞれ具体的に記入ください。

C 次に、あなたの生活資金について伺います

C1) 現在の生活資金として、大きいものは何ですか。(それぞれ〇は1つだけ)

	年金	仕事からの収入・給料	貯蓄	家族からの援助	家賃収入・投資収入	その他
①最も大きいもの	1	2	3	4	5	()
②2番目に大きいもの	1	2	3	4	5	()
③3番目に大きいもの	1	2	3	4	5	()

※2番目・3番目は、なければ回答は不要です。

C2) 今後の生活資金に不安がありますか。(〇は1つだけ)

1. 大いに不安がある 2. 不安がある 3. あまり不安はない 4. 不安はない

付問)「1. 大いに不安がある」「2. 不安がある」と回答された方は、どのような点で不安を感じられておられるか、具体的に教えてください。

D 次に、今後の地域活動について伺います

D3) 今後、地域活動を行っていききたいですか。(〇は1つだけ)

1. すでに行っている 2. 今後行っていききたい 3. 行いたくない

D4) 「D3) 今後、地域活動を行っていききたいですか。」で、「1. すでに行っている」「2. 今後行っていききたい」と回答された方にお聞きします。

D4-1) どのような地域活動を行っている・行っていききたいのか、教えてください。

D4-2) その地域活動について、どの程度の頻度で参加したいですか。(〇は1つだけ)

※すでに地域活動に参加されている方は、現状をお答えください。

1. 週に2~3回 2. 週に1回程度 3. 2・3週に1回程度 4. 月に1回程度以下

D4-3) その地域活動に参加するにあたり、どの程度、対価は必要ですか。(〇は1つだけ)

※すでに地域活動に参加されている方は、現状をお答えください。

1. 無償 2. おこづかい程度 3. (お弁当などの)現物支給 4. ある程度の対価
5. その他(具体的に)

質問は以上です。ご協力、誠にありがとうございました。
次回もご来館をお待ちしております。

すくらむ21
川崎市男女共同参画センター

特定非営利活動法人
地域彩生フォーラム

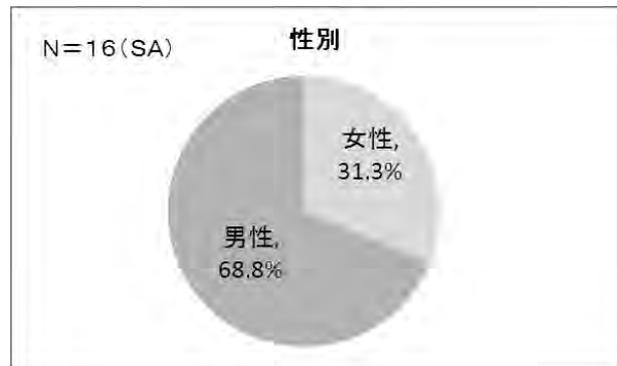
第3回アンケート結果

以下は、第3回講座（平成25年10月10日）で実施したアンケート結果である。

A あなたご自身について伺います

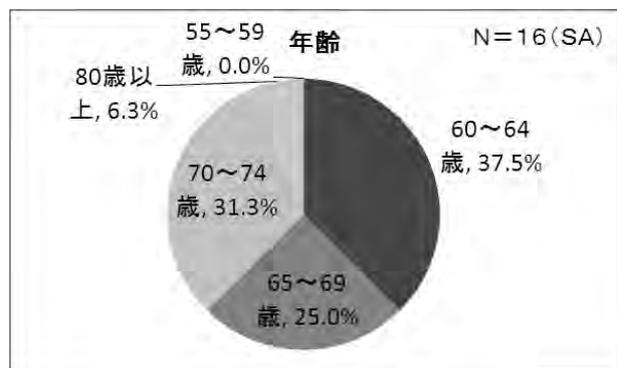
A 1) 性別

性別としては、「男性」が68.8%、「女性」が31.3%となった。



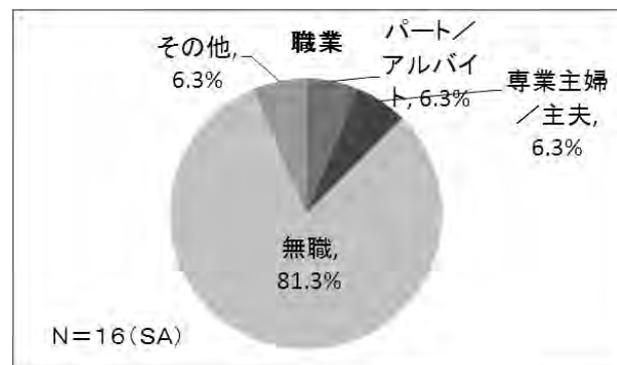
A 2) 年齢

年齢としては、最も高いのが「60～64歳」で37.5%、次に「70～74歳」で31.3%、そして「65～69歳」が25.0%で続いた。



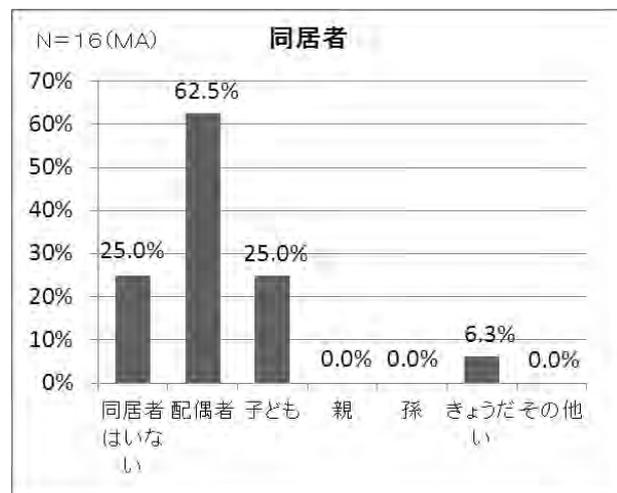
A 3) 職業

職業としては、「無職」が最も高く81.3%となった。なお、「パート/アルバイト」や「専業主婦/主夫」などもそれぞれ6.3%いた。

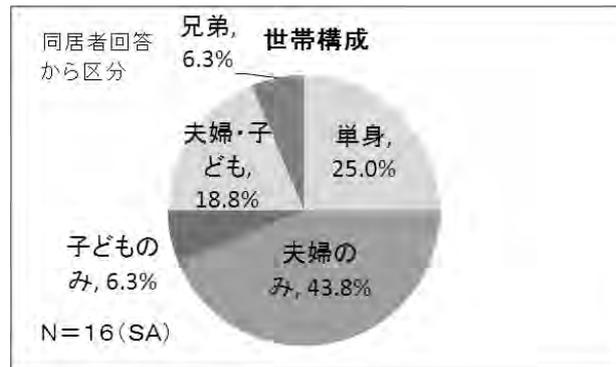


A 4) 同居者

同居者としては、配偶者が最も高く62.5%、次に、「子供」と「同居者はいない」がそれぞれ25.0%だった。



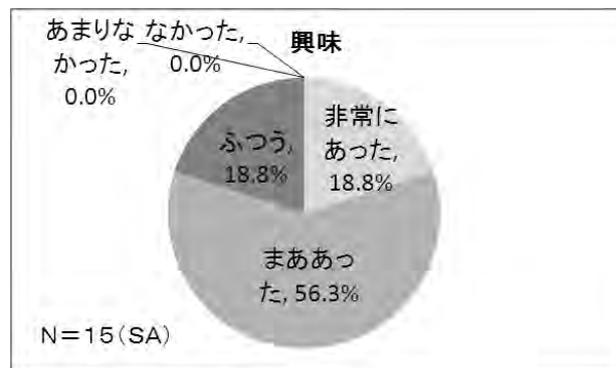
同居者から世帯構成を整理すると、「夫婦」のみが最も高く 43.8%、次に「単身」が 25.0%となった。



B 次に、本日受講された講座について伺います

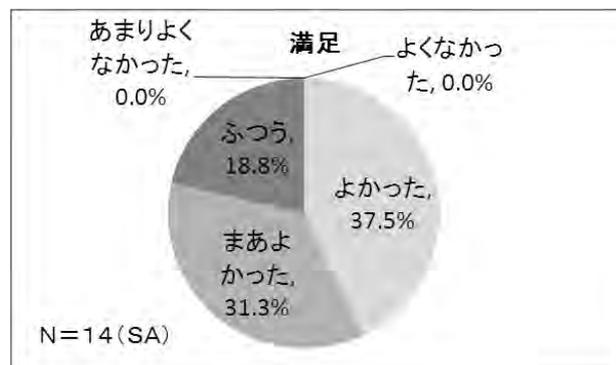
B 1) 本日の講座テーマについて、受講前に、どの程度興味がありましたか。

「心の整理術」というテーマについて、「まあまああった」が最も高く 56.3%、次に「非常にあった」「ふつう」がそれぞれ 18.8%だった。



B 2) 全体的にお考えになって、あなたは本日の講座にどの程度満足されましたか。

満足度については、「よかった」が最も高く 37.5%、次に「まあよかった」が 31.3%となった。



B 3) 本日の講座で良かった点、改善すべき点がございましたら、それぞれ具体的にご記入ください。

【自由回答】

- ・コミュニケーションについて、詳細な事項項目によることが分かった。
- ・人それぞれだと思う。
- ・今まで考えたこともない視点でおもしろかったです。

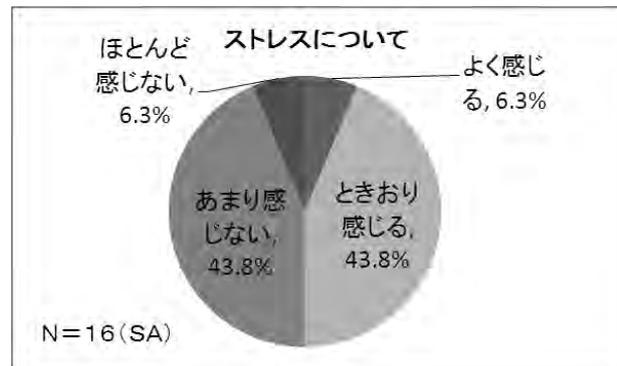
- ・自分を改めて見つめる機会となり、有意義な時間を持つことができました。少し時間が足りなかったのが残念でした。
- ・グループ内の時間がもう少し欲しかったです。
- ・グループワークで自分を見直す機会を得ました。
- ・これから生きていくときに大切な課題であったので、受講したかった。コミュニケーションの取り方が学べた。

※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

C 次に、あなたのストレスについて伺います

C1) ストレスを感じるがありますか。

ストレスについて、「ときおり感じる」と「あまり感じない」がそれぞれ43.8%だった。「よく感じる」や「ほとんど感じない」を加えても、半々に分かれる結果となった。



付問) どのようなときにストレスを感じられておられるか、具体的に教えてください。

【自由回答】

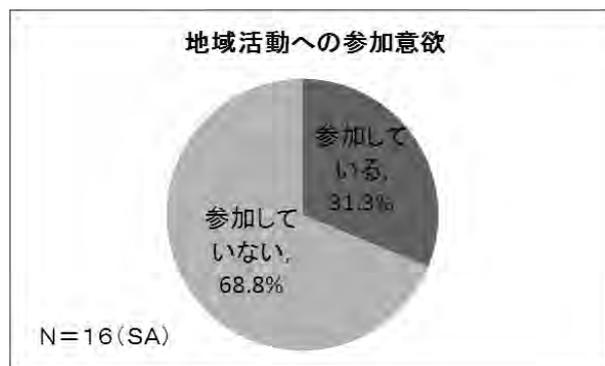
- ・先日より仕事を始めた、まだ仕事の内容になれず、ストレスだいぶ溜まってきた
- ・自分の考え方と反するとき
- ・プライバシーに入り込んで話をする近隣の人との会話
- ・妻と意見が、考えがちがったとき
- ・こんなにも生産に関わらない生活をしていてよいのかと思うとき
- ・介護している親が理解できないとき
- ・介護保険の問題や年金問題など、老後の生活に関連したニュースを見たとき

※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

D 次に、地域活動・サークル活動・団体活動への参加について伺います

D 1) 地域活動・サークル活動・団体活動などに参加されていますか。

地域活動・サークル活動・団体活動などについて、「参加していない」が 68.8%と、参加していない割合が高かった。



D 2) 「D 1) 地域活動・サークル活動・団体活動などに参加されていますか。」で、「1. 参加している」と回答された方にお聞きします。どのような活動に参加し、そのきっかけについて教えてください。

D 2-1) どのような地域活動・サークル活動・団体活動ですか。

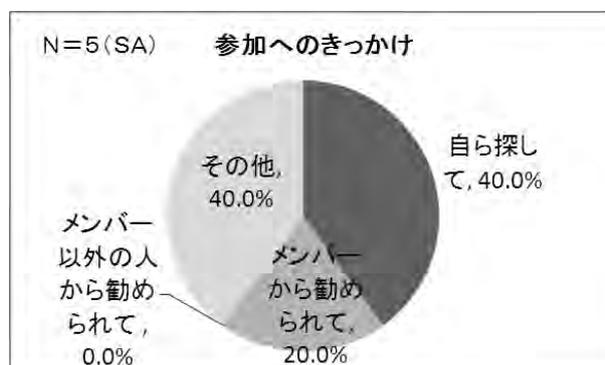
【自由回答】

- ・シニア団体
- ・写真
- ・町内活動におけるイベントの準備、運営の手伝い
- ・童謡サークル
- ・介護研修

※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

D 2-2) その活動に、どのようなきっかけで参加されましたか。

きっかけについては、「自ら探して」が 40.0%、「メンバーに勧められて」が 20.0% となった。



第3回アンケート票

シニア世代の生活状況アンケートのお願い

講座名
リタイア後の人生をリフレッシュする講座 10/10

本日は、すくらむ21 および地域彩生フォーラムの協働事業講座にご参加いただき、ありがとうございます。地域におけるシニア世代の生活状況と課題を把握し、効果のある事業実施にむけた参考とさせていただきますため、参加者のみなさまにアンケートをお願いしております。

このアンケートは統計的に処理して使用します。あなたご自身のお考えが第三者に知られることはございませんので、皆様の率直なご感想・ご意見をお寄せください。お手数ではございますが、ご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

すくらむ21 特定非営利活動法人
川崎市男女共同参画センター **地域彩生フォーラム**

A あなたご自身について伺います

A1) 性別 (〇は1つだけ)

1. 女性 2. 男性

A2) 年齢 (〇は1つだけ)

1. 50歳未満 2. 50～54歳 3. 55～59歳 4. 60～64歳
5. 65～69歳 6. 70～74歳 7. 75～79歳 8. 80歳以上

A3) 職業 (〇は主たるもの1つだけ)

1. 自営業・家族従業 2. 勤め人(フルタイム) 3. パート/アルバイト
4. 専業主婦/主夫 5. 学生 6. 無職
7. その他(具体的に:)

A4) 同居者 (〇はいくつでも可)

1. 同居者はいない 2. 配偶者 3. 子ども 4. 親 5. 孫
6. きょうだい 7. その他(具体的に:)

B 次に、本日受講された講座について伺います

B1) 本日の講座テーマについて、受講前に、どの程度興味がありましたか。(〇は1つだけ)

1. 非常にあった 2. まああった 3. ふう 4. あまりなかった 5. なかった

B2) 全体的にお考えになって、あなたは本日の講座にどの程度満足されましたか。(〇は1つだけ)

1. よかった 2. まあよかった 3. ふう 4. あまりよくなかった 5. よくなかった

B3) 本日の講座で良かった点、改善すべき点がございましたら、それぞれ具体的に記入ください。

C 次に、あなたのストレスについて伺います

C1) ストレスを感じることはありませんか。(〇は1つだけ)

1. よく感じる 2. ときおり感じる 3. あまり感じない 4. ほとんど感じない

「1. よく感じる」「2. ときおり感じる」と回答された方は、どのようなときにストレスを感じられておられるか、具体的に教えてください。

D 次に、地域活動・サークル活動・団体活動への参加について伺います

D1) 地域活動・サークル活動・団体活動などに参加されていますか。(〇は1つだけ)

1. 参加している 2. 参加していない

D2) 「D1) 地域活動・サークル活動・団体活動などに参加されていますか。」で、「1. 参加している」と回答された方にお聞きします。どのような活動に参加し、そのきっかけについて教えてください。

※以下の①・②に2つまで、お答え願います。なお、3つ以上の活動に参加されている方は、主なもの2つをお願いします。また、1つしか参加されていない場合は、②の回答は不要です。

①どのような地域活動・サークル活動・団体活動ですか。

その活動に、どのようなきっかけで参加されましたか。(〇は1つだけ)

1. 自ら探して
2. メンバーから勧められて
↳ この場合、どのようなお知り合いですか ()
3. メンバー以外の人から勧められて
↳ この場合、どなたですか ()
4. その他(具体的に)

②どのような地域活動・サークル活動・団体活動ですか。

その活動に、どのようなきっかけで参加されましたか。(〇は1つだけ)

1. 自ら探して
2. メンバーから勧められて
↳ この場合、どのようなお知り合いですか ()
3. メンバー以外の人から勧められて
↳ この場合、どなたですか ()
4. その他(具体的に)

質問は以上です。ご協力、誠にありがとうございました。
次回もご来館をお待ちしております。

すくらむ21 特定非営利活動法人
川崎市男女共同参画センター **地域彩生フォーラム**

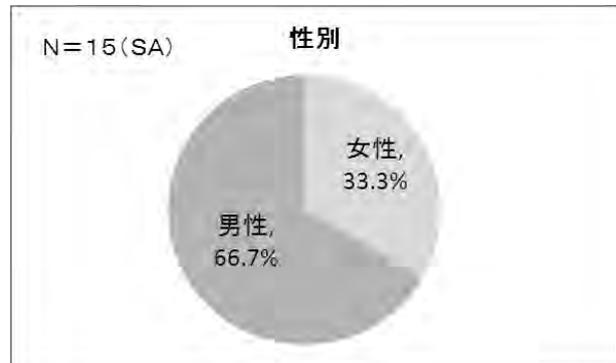
第4回アンケート結果

以下は、第4回講座（平成25年11月14日）で実施したアンケート結果である。

A あなたご自身について伺います

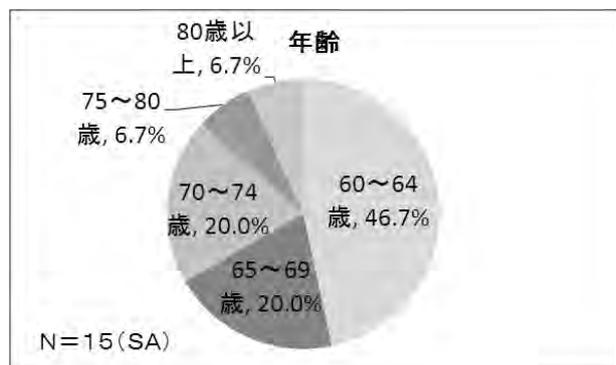
A 1) 性別

性別については、「男性」が66.7%、「女性」が33.3%だった。



A 2) 年齢

年齢については、「60～64歳」が最も高く46.7%で、次に「70～74歳」と「65～69歳」がそれぞれ20.0%だった。



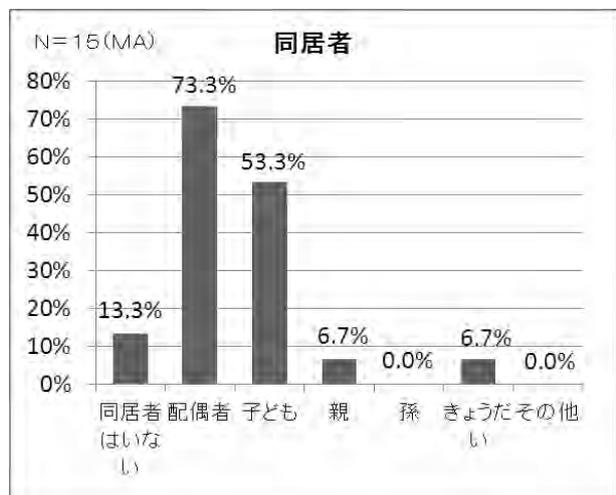
A 3) 職業

職業については、「無職」が最も高く80.0%だった。なお、「専業主婦／主夫」も13.3%いた。

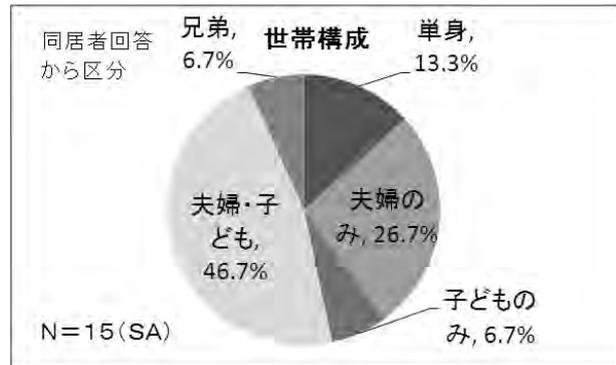


A 4) 同居者

同居者としては、「配偶者」が最も高く73.3%、次に「子供」が53.3%だった。

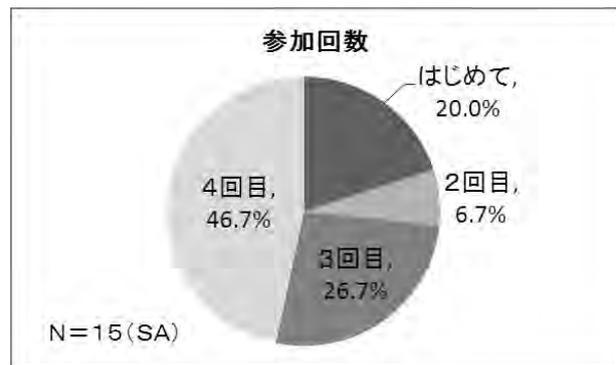


同居者から世帯構成を整理すると、「夫婦・子ども」が最も高く 46.7%、次に「夫婦のみ」が 26.7%だった。



A 5) 本講座へのご参加は、本日で何回目ですか

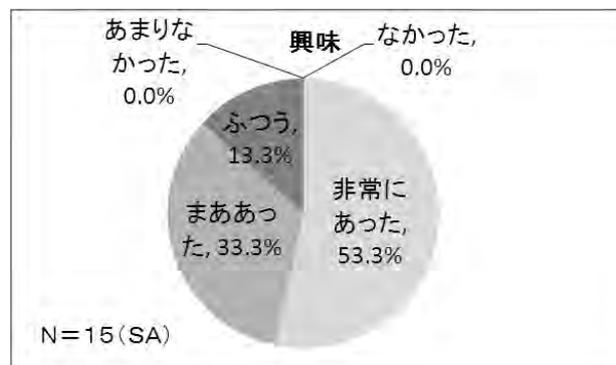
参加回数としては、「4 回目」(4 回目の講座であるため、すべて参加) が最も高く 46.7%、次に「3 回目」が 26.7%だった



B 次に、本日受講された講座について伺います

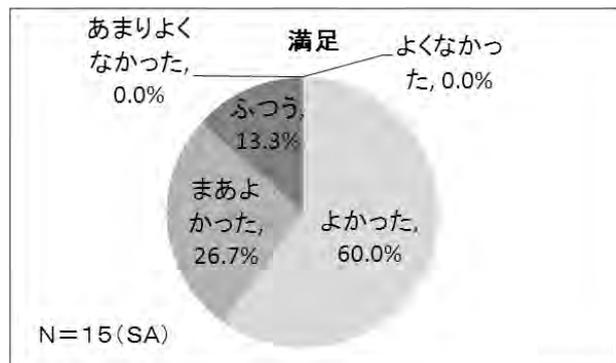
B 1) 本日の講座テーマについて、受講前に、どの程度興味がありましたか。

「モノの整理術」というテーマについて、「非常にあった」が 53.3%で最も高く、次に「まああった」が 33.3%であった。



B 2) 全体的にお考えになって、あなたは本日の講座にどの程度満足されましたか。

満足度については、「よかった」が最も高く 60.0%で、次に「まあよかった」が 26.7%となった。



B 3) 本日の講座で良かった点、改善すべき点がございましたら、それぞれ具体的にご記入ください。

【自由回答】

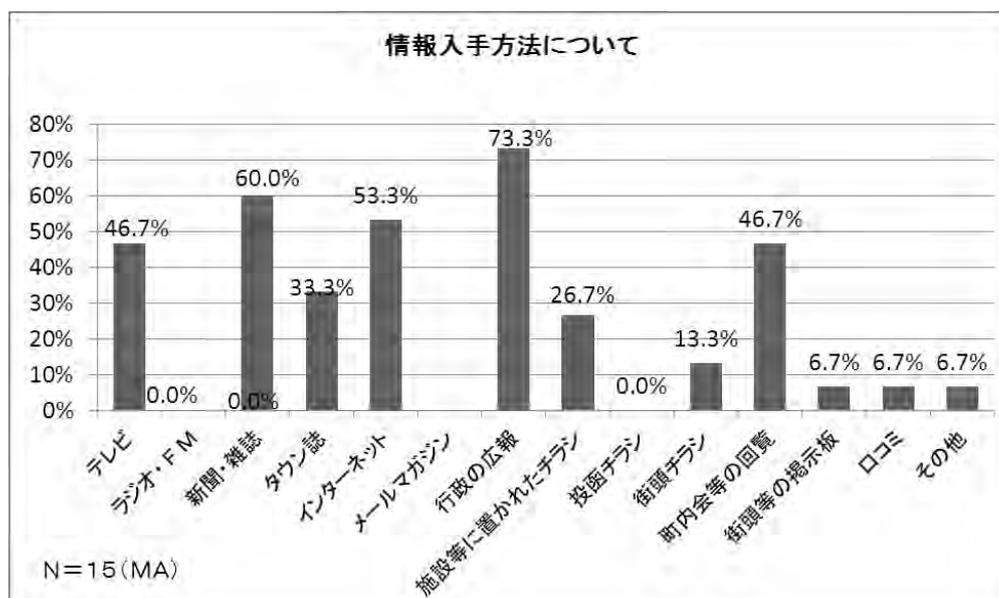
- ・モノの整理より前に頭の整理について、よく分かります。でもこれが一番大変です。
- ・整理が出来なかったが、この度の講義でやり方が分かり、大変役に立ちました。
- ・具体的に片付け方法が分かった。
- ・いきなり捨てないということに勇気づけられました
- ・整理する意欲が湧いた。
- ・例えば、人間の活動を考えると収納は2・3段が最良など、理由の説明があったことは良かった。
- ・整理の手順がよく分かりました
- ・物を大事にしながらか整理することがよく分かった。ただ、プレゼンの写真等、多く使用してよかったが、パワーポイントが見えにくかった。

※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

C 次に、あなたの情報収集方法について伺います

C 1) 地域の情報等について、どのような方法で情報を入手していますか。

地域情報についての情報収集方法として、「行政の広報」が最も高く 73.3%、次に「新聞・雑誌」が 60.0%となった。また、「インターネット」(53.3%)、「テレビ」(46.7%)、「町内会等の回覧」(46.7%)も比較的高い結果となった。

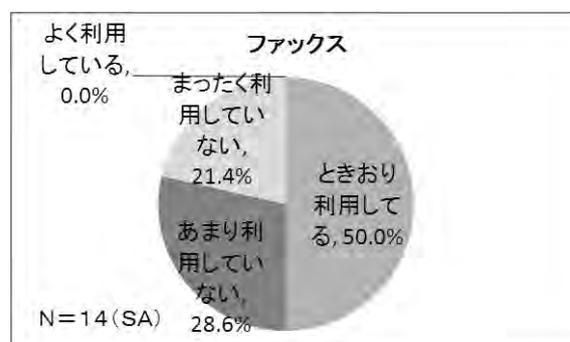


D 次に、あなたの通信手段について伺います

D1) それぞれの通信手段等について、どの程度、ご利用されていますか。

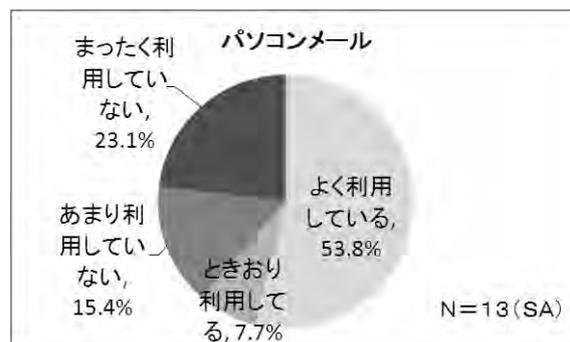
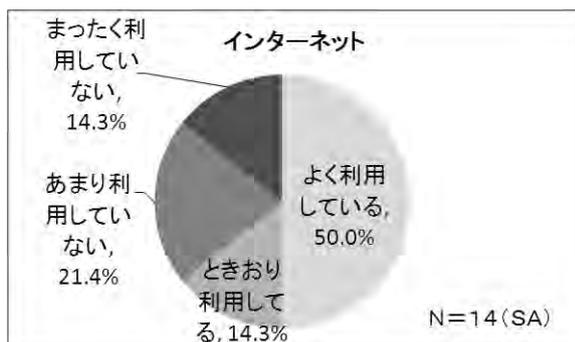
電話については、最も高いのが「ときおり利用している」の 57.1%だった。

ファックスについては、最も高いのが「ときおり利用している」の 50.0%だった。



インターネットについては、最も高いのが「よく利用している」の 50.0%だった。

パソコンメールについては、最も高いのが「よく利用している」の 53.8%だった。



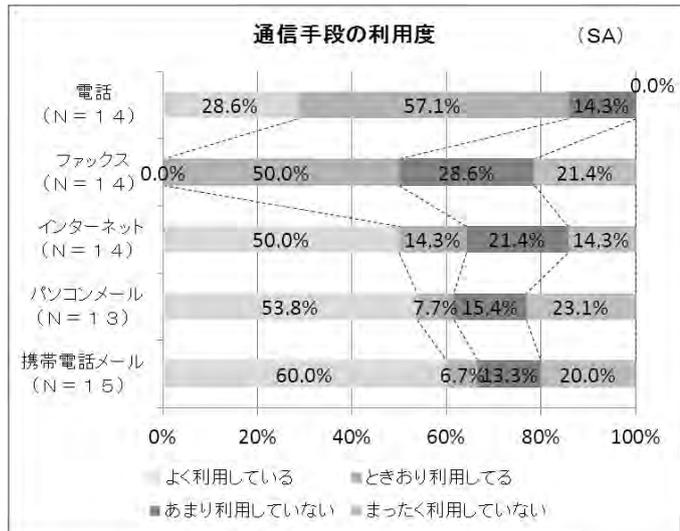
携帯電話メールについては、最も高いのが「よく利用している」の 60.0%だった。



そしてそれぞれの通信手段等について比較したのが、次のグラフである。

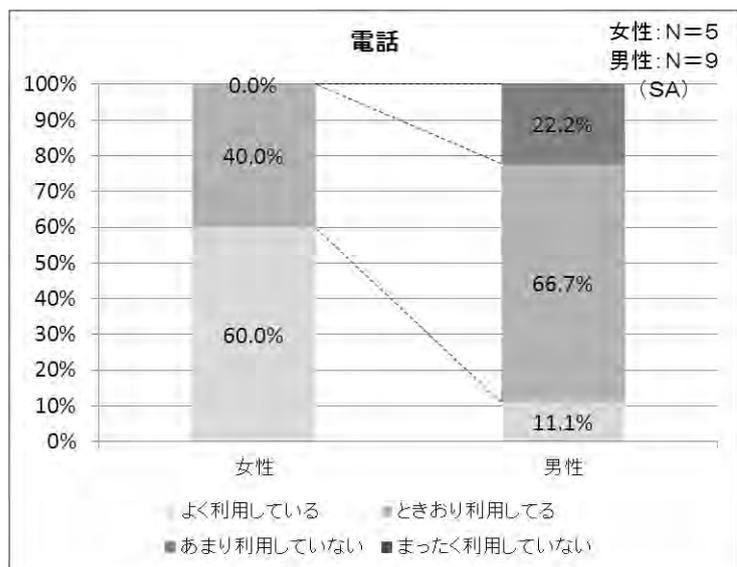
「よく利用している」「ときおり利用している」を合わせると、電話が8割を超えるのに対して、その他の通信手段等では5~6割にとどまっている。

特に、ファックス、パソコンメール、携帯電話メールでは、約2割が「まったく利用していない」と回答していた。

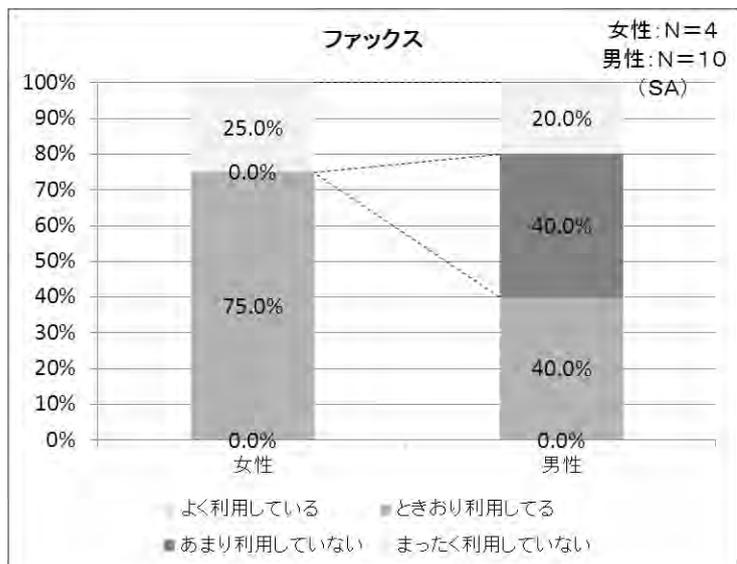


更に、それぞれの通信手段等について、男女別の違いを見てみた。

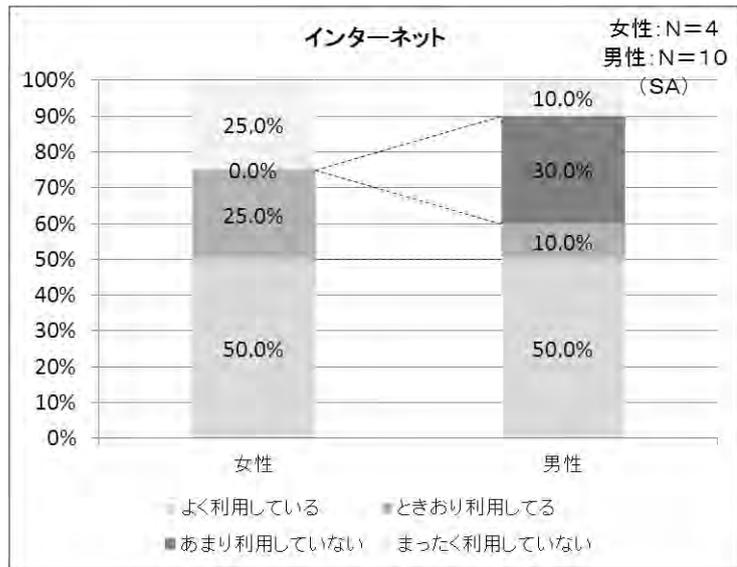
電話については、女性が「よく利用している」と60.0%が回答、残りも「ときおり利用している」となったが、男性は「ときおり利用している」が最も高く66.7%となった。そして、男性の場合には、22.2%が「あまり利用していない」となった。



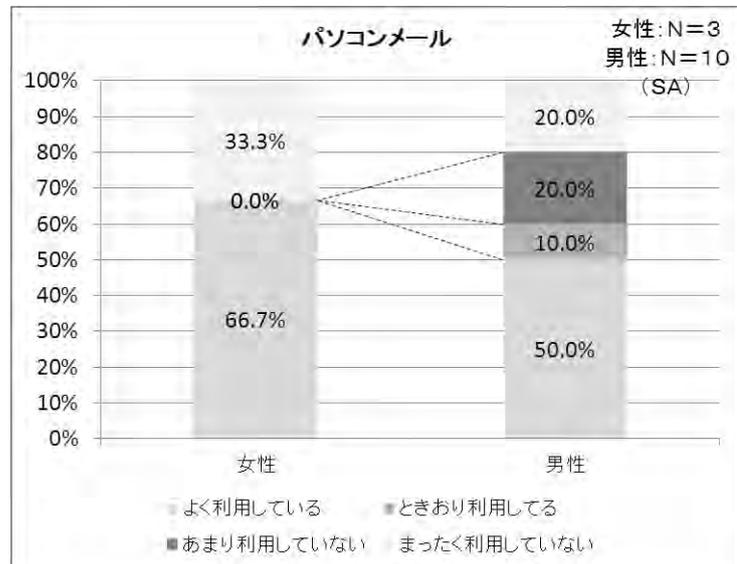
ファックスは、女性では75.0%と「ときおり利用している」が高く、男性では「ときおり利用している」「あまり利用していない」がそれぞれ40.0%となった。



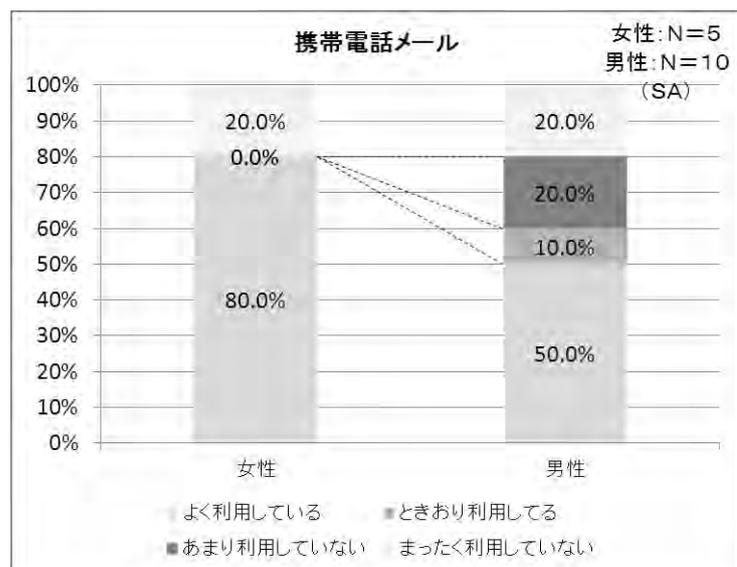
インターネットでは、男女ともに「より利用している」が50.0%と最も高かった。



パソコンメールでは、女性の66.7%が「よく利用している」と回答し、男性では50.0%が「よく利用している」と回答した。



携帯電話メールでは、女性の80.0%が「よく利用している」と回答しているのに比べ、男性では「よく利用している」は50.0%であった。



第4回アンケート票

シニア世代の生活状況アンケートのお願い

講座名
リタイア後の人生をリフレッシュする講座 11/14

本日は、すくらむ21 および地域彩生フォーラムの協働事業講座にご参加いただき、ありがとうございました。地域におけるシニア世代の生活状況と課題を把握し、効果のある事業実施にむけた参考とさせていただきますため、参加者のみなさまにアンケートをお願いしております。

このアンケートは統計的に処理して使用します。あなたご自身のお考えが第三者に知られることはございませんので、皆様の率直なご感想・ご意見をお寄せください。お手数ではございますが、ご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

すくらむ21 特定非営利活動法人
川崎市男女共同参画センター 地域彩生フォーラム

A あなたご自身について伺います

A1) 性別 (〇は1つだけ)

1. 女性 2. 男性

A2) 年齢 (〇は1つだけ)

1. 50歳未満 2. 50～54歳 3. 55～59歳 4. 60～64歳
5. 65～69歳 6. 70～74歳 7. 75～79歳 8. 80歳以上

A3) 職業 (〇は主たるもの1つだけ)

1. 自営業・家族従業 2. 勤め人(フルタイム) 3. パート/アルバイト
4. 専業主婦/主夫 5. 学生 6. 無職
7. その他(具体的に: _____)

A4) 同居者 (〇はいくつでも可)

1. 同居者はいない 2. 配偶者 3. 子ども 4. 親 5. 孫
6. きょうだい 7. その他(具体的に: _____)

A5) 本講座へのご参加は、本日で何回目ですか (〇は1つだけ)

1. はじめて 2. 2回目 3. 3回目 4. 4回目

B 次に、本日受講された講座について伺います

B1) 本日の講座テーマについて、受講前に、どの程度興味がありましたか。(〇は1つだけ)

1. 非常にあった 2. まああった 3. ふう 4. あまりなかった 5. なかった

B2) 全体的にお考えになって、あなたは本日の講座にどの程度満足されましたか。(〇は1つだけ)

1. よかった 2. まあよかった 3. ふう 4. あまりよくなかった 5. よくなかった

B3) 本日の講座で良かった点、改善すべき点がございましたら、それぞれ具体的に記入ください。

C1) 地域の情報等について、どのような方法で情報を入手していますか。(〇はいくつでも可)

【マスメディア】

1. テレビ 2. ラジオ・FM 3. 新聞・雑誌 4. タウン誌

【インターネット】

5. インターネット 6. メールマガジン

【チラシなど】

7. 行政の広報 8. 施設等に置かれたチラシ 9. 投函チラシ
10. 街頭チラシ

【その他】

11. 町内会等の回覧 12. 街頭等の掲示板 13. 口コミ
14. その他(具体的に: _____)

D 次に、あなたの通信手段について伺います

D1) 次のそれぞれの通信手段等について、どの程度、ご利用されていますか。(それぞれ〇は1つまで)

	よく利用している	ときおり利用している	あまり利用してない	まったく利用していない(※)
①電話	1	2	3	4
②ファックス	1	2	3	4
③インターネット	1	2	3	4
④パソコンメール	1	2	3	4
⑤携帯電話メール	1	2	3	4

(※) 利用方法が分からない、もっていない場合には、「4. まったく利用していない」と回答してください。

質問は以上です。ご協力、誠にありがとうございました。
次回もご来館をお待ちしております。

すくらむ21
川崎市男女共同参画センター

特定非営利活動法人
地域彩生フォーラム

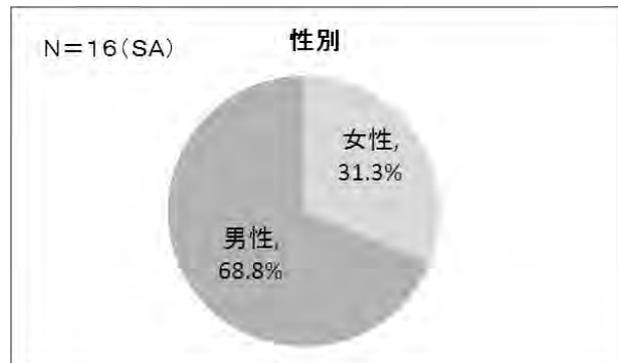
第5回アンケート結果

以下は、第5回講座（平成25年12月12日）で実施したアンケート結果である。

A あなたご自身について伺います

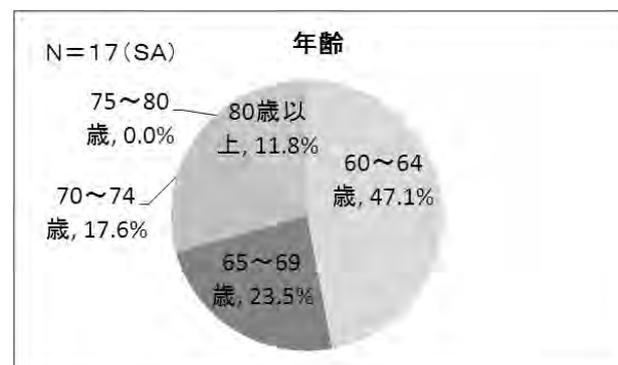
A 1) 性別

性別については、「男性」が68.8%、「女性」が31.3%だった。



A 2) 年齢

年齢については、「60～64歳」が最も高く47.1%、次に「65～69歳」が23.5%だった。



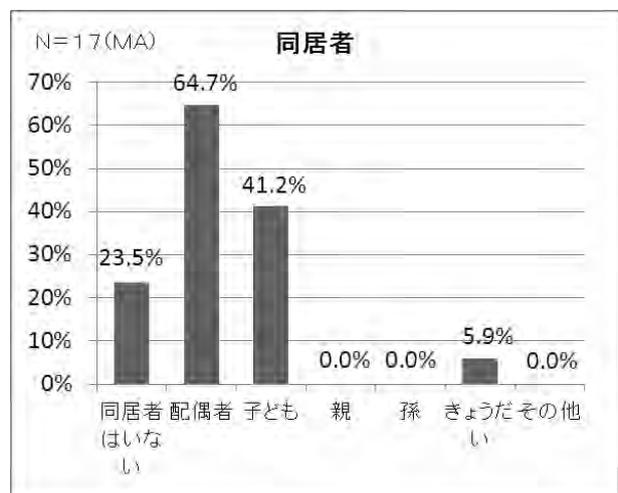
A 3) 職業

職業については、「無職」が最も高く82.4%だった。なお、「パート/アルバイト」や「専業主婦/主夫」もそれぞれ5.9%いた。

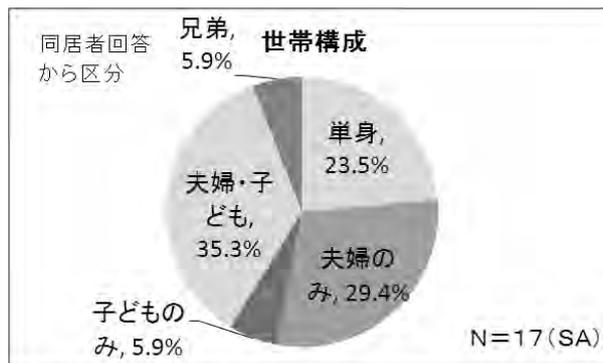


A 4) 同居者

同居者については、「配偶者」が最も高く64.7%で、次に「子供」で41.2%だった。

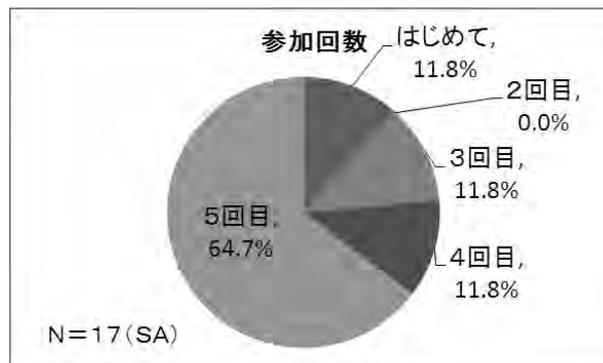


同居者から世帯構成を整理すると、「夫婦・子ども」が最も高く 35.3%、次に「夫婦のみ」が 29.4%となった。



A 5) 本講座へのご参加は、本日で何回目ですか

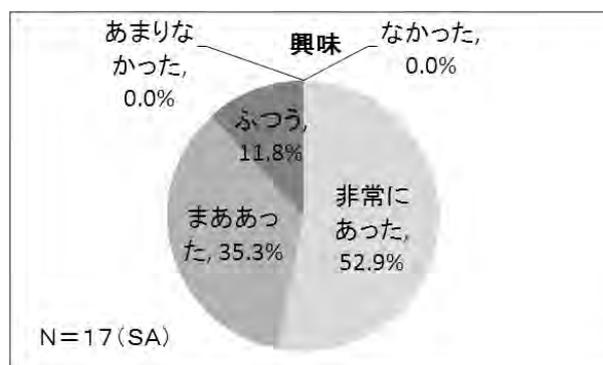
参加回数は 5 回目 (5 回目の講座であるため、すべて参加) が 64.7%、4 回目が 11.8% だった



B 次に、本日受講された講座について伺います

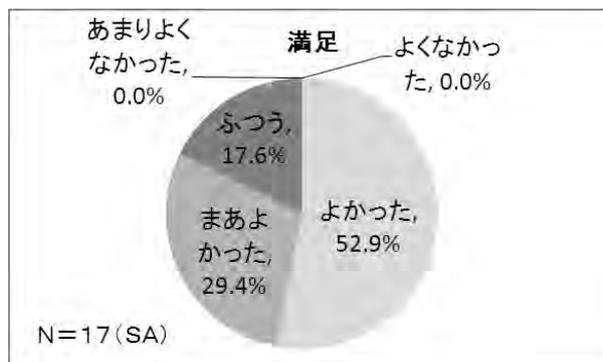
B 1) 本日の講座テーマについて、受講前に、どの程度興味がありましたか。

「相続・遺言 (法律知識)」というテーマについて、「非常にあった」が最も高く 52.9%、次に「まああった」が 35.3% だった。



B 2) 全体的にお考えになって、あなたは本日の講座にどの程度満足されましたか。

満足度については、「よかった」がもっと高く 52.9%、次に「まあよかった」が 29.4% だった。



B3) 本日の講座で良かった点、改善すべき点がございましたら、それぞれ具体的にご記入ください。

【自由回答】

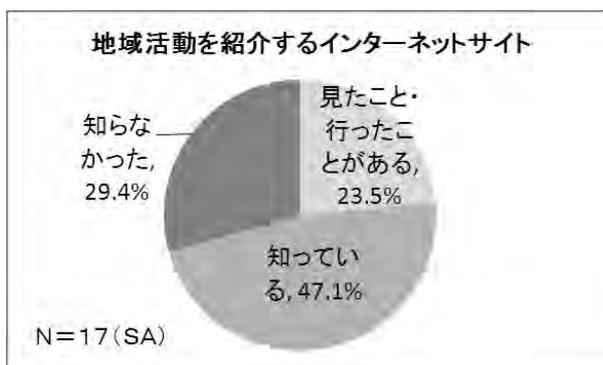
- ・相続遺言について詳しく知ることが出来ました。なお、月1回の連続講座ですが2月に1回くらいの方が興味を持ち続けられると思う。
- ・具体的なことなどについて質問したかったが、内容について説明がしにくかった
- ・判り易く実行に移してみようと思いました。
- ・自分の想いを伝える。
- ・今回は自分にはあまり関係ない話であった。
- ・相続の仕組みがよく分かった。

※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

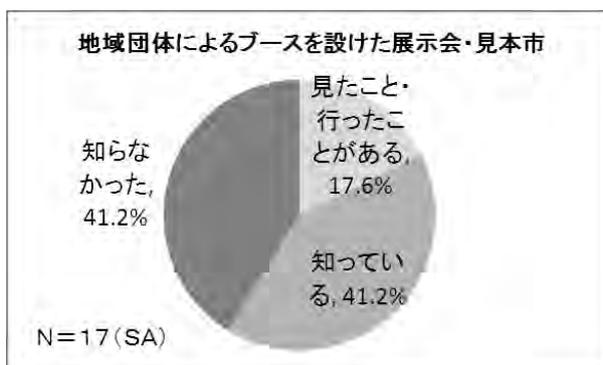
C 次に、地域活動を紹介する取組みについて伺います

C1) 行政機関などでは、地域活動を紹介する取組みを行っています。それぞれの取組みについて、どの程度、ご存知ですか

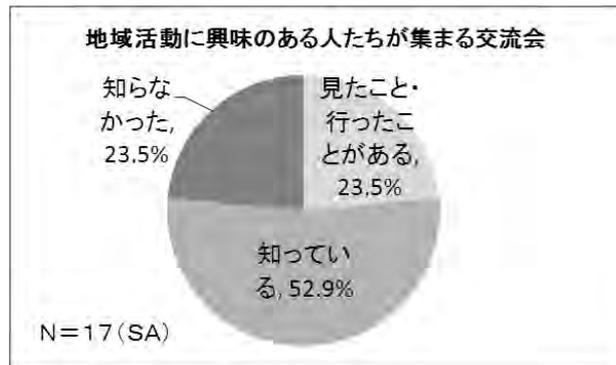
地域活動を紹介するインターネットについて、最も高いのが「知っている」で47.1%、次に「知らなかった」が29.4%だった。



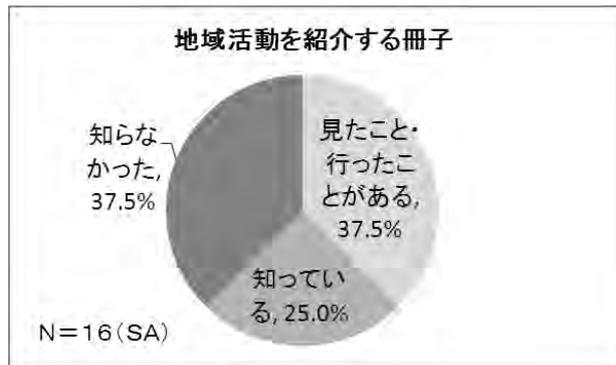
地域団体によるブースを設けた展示会・見本市については、「知っている」「知らなかった」が最も高く、それぞれ41.2%だった。



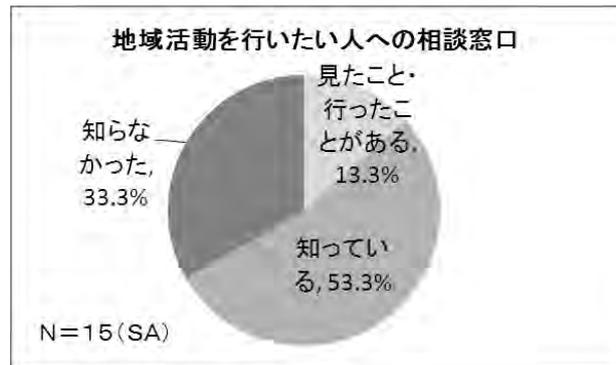
地域活動に興味のある人たちが集まる交流会について、最も高いのが「知っている」で52.9%だった。



地域活動を紹介する冊子については、「見たことがある」「知らなかった」が高く、それぞれ37.5%だった。

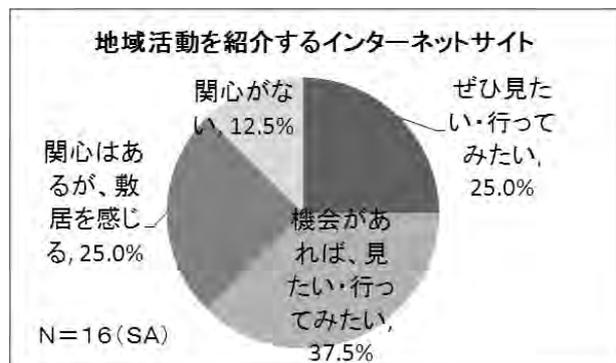


地域活動を行いたい人への相談窓口については、「知っている」が最も高く53.3%で、次に「知らなかった」が33.3%だった。

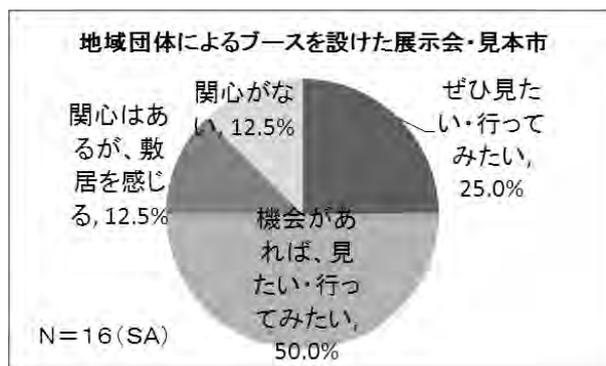


C 2) 地域活動を紹介する取組みについて、どれだけ関心がありますか

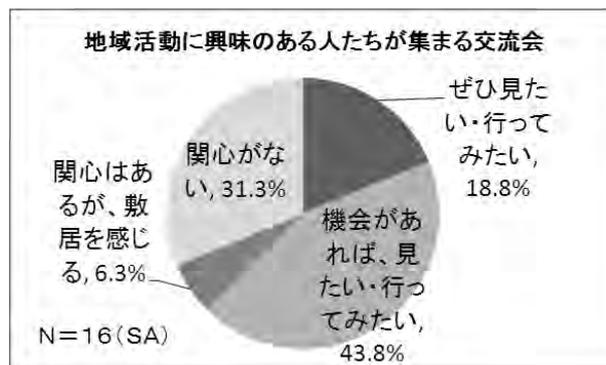
地域活動を紹介するインターネットサイトについては、最も高いのが「機会があれば見たい・行ってみたい」の37.5%で、次に「ぜひ見たい・行ってみたい」「関心はあるが、敷居を感じる」がそれぞれ25.0%となった。



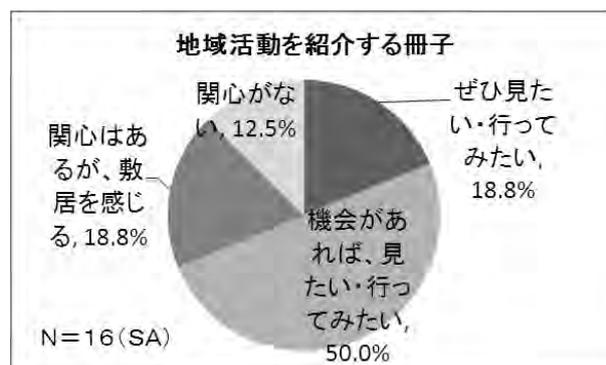
地域団体によるブースを設けた展示会・見本市については、最も高いのが「機会があれば見たい・行ってみたい」で50.0%だった。



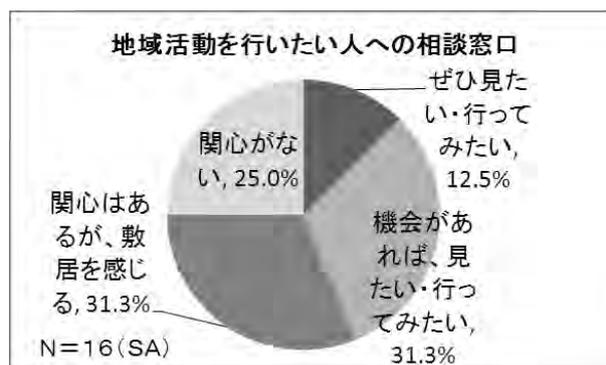
地域活動に興味のある人たちが集まる交流会については、「機会があれば見たい・行ってみたい」が最も高く43.8%だった。



地域活動を紹介する冊子については、「機会があれば見たい・行ってみたい」が最も高く50.0%だった。



地域活動を行いたい人への相談窓口については、「機会があれば見たい・行ってみたい」「興味はあるが、敷居を感じる」が高く、それぞれ31.3%だった。



C3) この他、地域活動について知りたいと思ったとき、必要だと思われるものがございましたら、具体的にご記入ください。

【自由回答】

- ・このような講座は初めてで、今後機会があれば出席したい。いろんなお話などが出ると、前がよく見える
- ・地域活動の様子を記録したものを、PR を兼ね作成し見せてほしい。または、具体的な話を聞きたい

※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

第5回アンケート票

シニア世代の生活状況アンケートのお願い

講座名
リタイア後の人生をリフレッシュする講座 12/12

本日は、すくらむ21 および地域彩生フォーラムの協働事業講座にご参加いただき、ありがとうございました。地域におけるシニア世代の生活状況と課題を把握し、効果のある事業実施にむけた参考とさせていただきますため、参加者のみなさまにアンケートをお願いしております。

このアンケートは統計的に処理して使用します。あなたご自身のお考えが第三者に知られることはございませんので、皆様の率直なご感想・ご意見をお寄せください。お手数ではございますが、ご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

すくらむ21 特定非営利活動法人
川崎市男女共同参画センター **地域彩生フォーラム**

A あなたご自身について伺います

A1) 性別 (〇は1つだけ)

1. 女性 2. 男性

A2) 年齢 (〇は1つだけ)

1. 50歳未満 2. 50~54歳 3. 55~59歳 4. 60~64歳
5. 65~69歳 6. 70~74歳 7. 75~79歳 8. 80歳以上

A3) 職業 (〇は主たるもの1つだけ)

1. 自営業・家族従業 2. 勤め人(フルタイム) 3. パート/アルバイト
4. 専業主婦/主夫 5. 学生 6. 無職
7. その他(具体的に:)

A4) 同居者 (〇はいくつでも可)

1. 同居者はいない 2. 配偶者 3. 子ども 4. 親 5. 孫
6. ぎょうだい 7. その他(具体的に:)

A5) 本講座へのご参加は、本日で何回目ですか (〇は1つだけ)

1. はじめて 2. 2回目 3. 3回目 4. 4回目 5. 5回目

B 次に、本日受講された講座について伺います

B1) 本日の講座テーマについて、受講前に、どの程度興味がありましたか。(〇は1つだけ)

1. 非常にあった 2. まああった 3. ふつう 4. あまりなかった 5. なかった

B2) 全体的にお考えになって、あなたは本日の講座にどの程度満足されましたか。(〇は1つだけ)

1. よかった 2. まあよかった 3. ふつう 4. あまりよくなかった 5. よくなかった

B3) 本日の講座で良かった点、改善すべき点がございましたら、それぞれ具体的に記入ください。

C 次に、地域活動を紹介する取組みについて伺います

C1) 行政機関などでは、地域活動を紹介する取組みを行っています。

それぞれの取組みについて、どの程度、ご存知ですか(それぞれ〇は1つだけ)

	見たこと・行ったことがある	(見たこと・行ったことはないが)知っている	知らなかった
①地域活動を紹介するインターネットサイト	1	2	3
②地域団体によるブースを設けた展示会・見本市	1	2	3
③地域活動に興味のある人たちが集まる交流会	1	2	3
④地域活動を紹介する冊子	1	2	3
⑤地域活動を行いたい人への相談窓口	1	2	3

C2) 地域活動を紹介する取組みについて、どれだけ関心がありますか(それぞれ〇は1つだけ)

	ぜひ見たい・行ってみたい	機会があれば、見たい・行ってみたい	関心はあるが、敷居を感じる	関心がない
①地域活動を紹介するインターネットサイト	1	2	3	4
②地域団体によるブースを設けた展示会・見本市	1	2	3	4
③地域活動に興味のある人たちが集まる交流会	1	2	3	4
④地域活動を紹介する冊子	1	2	3	4
⑤地域活動を行いたい人への相談窓口	1	2	3	4

C3) この他、地域活動について知りたいと思ったとき、必要だとと思われるものがございましたら、具体的に記入ください。

質問は以上です。ご協力、誠にありがとうございました。
次回もご来館をお待ちしております。

すくらむ21
川崎市男女共同参画センター

特定非営利活動法人
地域彩生フォーラム

第6回アンケート結果

以下は、第6回講座（平成26年1月9日）で実施したアンケート結果である。

A あなたご自身について伺います

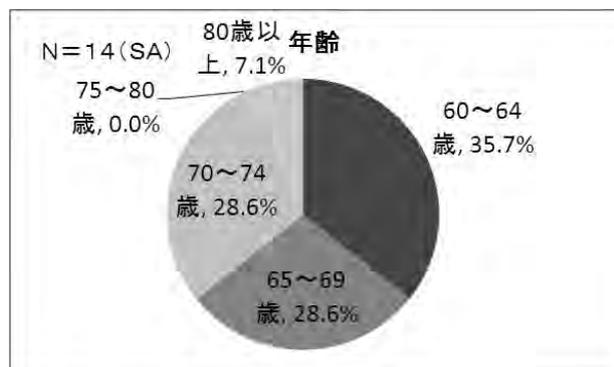
A 1) 性別

性別については、「男性」が61.5%、「女性」が38.5%だった。



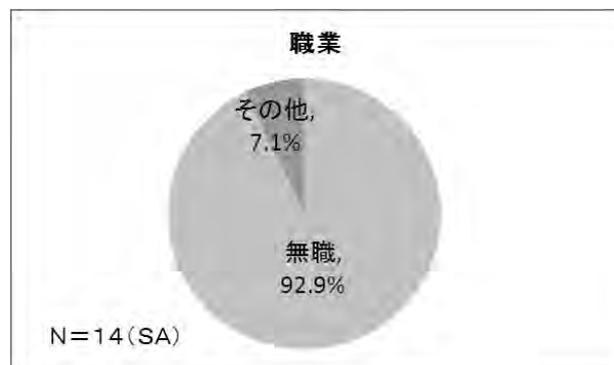
A 2) 年齢

年齢については、「60～64歳」が最も高く35.7%、次に「65～69歳」「70～74歳」がそれぞれ28.6%だった



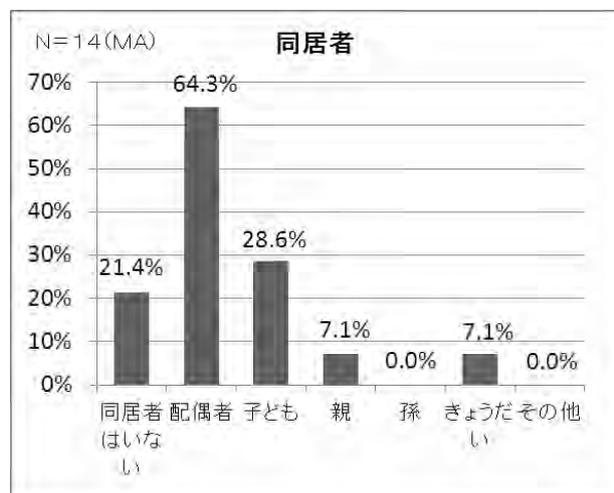
A 3) 職業

職業については、「無職」が92.9%であった。

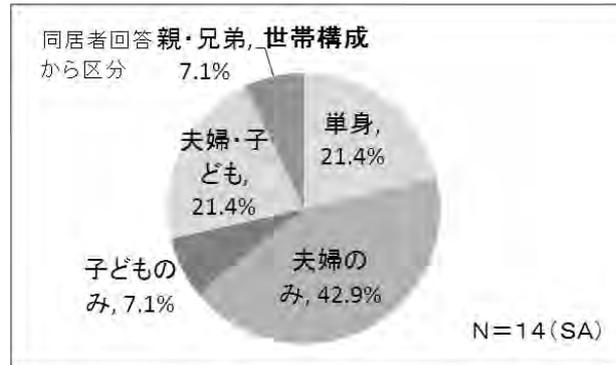


A 4) 同居者

同居者については、「配偶者」が最も高く64.3%、次に「子ども」で28.6%だった。

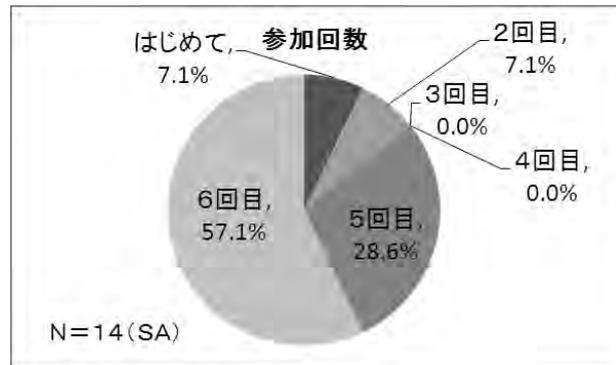


同居者から世帯構成を整理すると、「夫婦のみ」が最も高く 42.9%、次に「夫婦・子ども」「単身」がそれぞれ 21.4%だった



A 5) 本講座へのご参加は、本日で何回目ですか

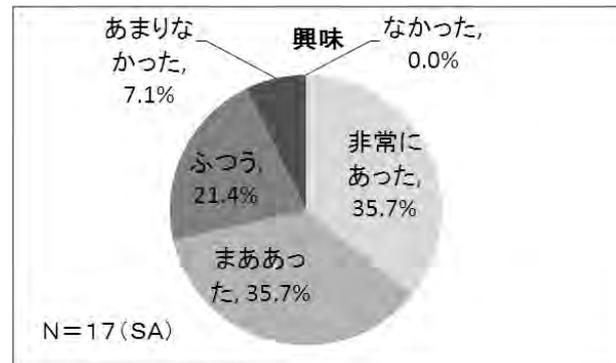
参加回数については、「6 回目」(すべての講座に参加) が最も高く 57.1%、次に「5 回目」で 28.6%だった。



B 次に、本日受講された講座について伺います

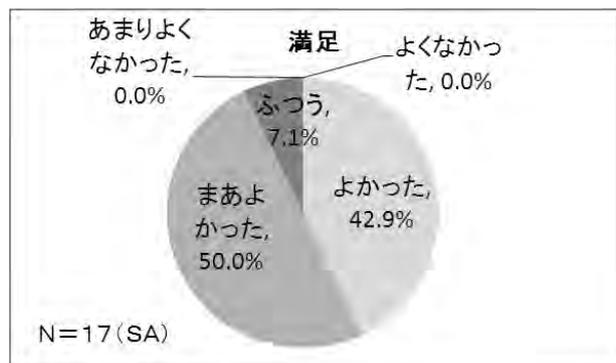
B 1) 本日の講座テーマについて、受講前に、どの程度興味がありましたか。

「自分史づくり」というテーマについて、最も高かったのが「非常にあった」「まああった」でそれぞれ 35.7%だった。



B 2) 全体的にお考えになって、あなたは本日の講座にどの程度満足されましたか。

満足度については、最も高かったのが「まあよかった」で 50.0%、次に「よかった」が 42.9%となった。



B 3) 本日の講座で良かった点、改善すべき点がございましたら、それぞれ具体的にご記入ください。

【自由回答】

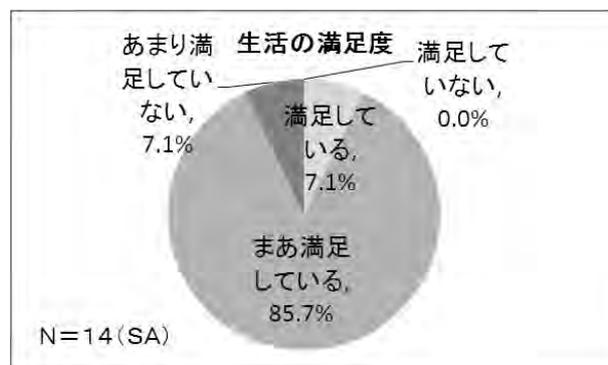
- ・自分を見つめ直す機会が得られて良かった。
- ・新しい自分を見つけることができました。
- ・気持ちにスポットをあてた自分史。
- ・改めて過去を振り返れた。また今後、どう動くまで指導を受けたので良かった。
- ・自分の思っていたのとは異なる自分史の意義を知ることができた。

※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

C 次に、あなたの生活について伺います

C 1) 現在の生活にはどの程度満足されていますか。

現在の生活について、最も高いのが「まあ満足している」で 85.7%だった。「満足している」と合わせると、9割を超えた人が満足しているという結果になった。



C 2) 上記のご回答の理由を、具体的に教えてください。

【自由回答】

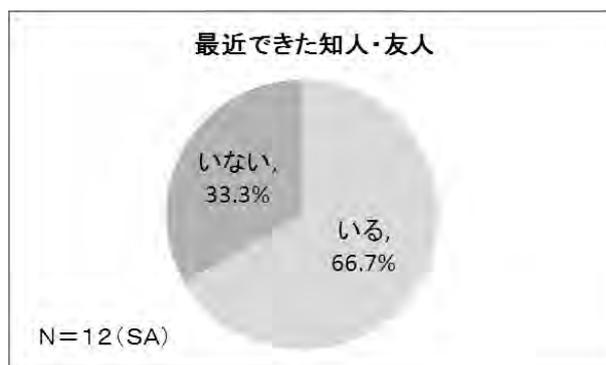
【満足】

- ・現在は満額の年金受給ではないが、働かずとも収入があるのは楽。日にち、時間の調整も会社にいるときよりもしやすいので良い。
- ・普通に生活ができているが、心配は体の事が心配です。
- ・会社勤めとは違う新しい多忙が刺激となっている。
- ・いろんな講座を探して外に出るようにしているが、継続性・一貫性がない。何か1つの事を長く続けていけて仲間・友人を作れるようなことを見つけない。
- ・住まいの点、交友の点、経済的な点、長い間、同じ場所で暮らしていたので、周囲との交流が良い など
- ・孫ができた

※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

C 3) 最近、知人・友人となられた方はいらっしゃいますか。

最近、できた知人・友人については、「いる」という回答が 66.7%だった。



付問)「1. いる」と回答された方は、どのような方か、具体的に教えてください。

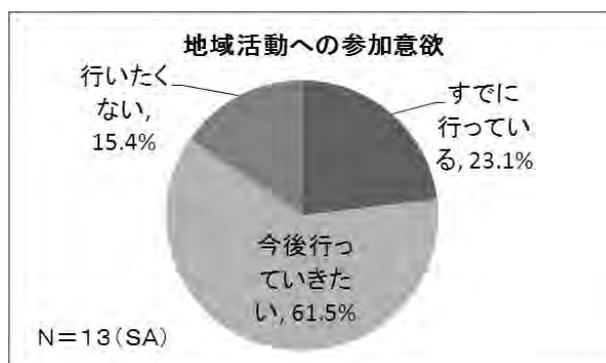
【自由回答】

- ・当講座の受講者
- ・将棋に興味を持っている人
- ・前の職場
- ・飲み仲間
- ・囲碁クラブ
- ・スポーツセンターで一緒になった人
- ・ときおり同じ仕事についていた人
- ・旧友と連絡が取れたこと

※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

C 4) 今後、地域活動を行っていきたいですか。

地域活動への参加意欲について、最も高いのが「今後行っていきたい」で 61.5%、次に「すでに行っている」が 23.1%だった。



D 次に、本連続講座全般について伺います

D1) 8月から実施してきました今回で、この連続講座は、今回で最後ですが、これまでの講座で取り上げた内容のなかで、実践されているものがございましたら、具体的にご記入ください。全般を通じて、実施されていることがございましたら、具体的にご記入ください。

【自由回答】

- ・物の整理をするようになった。
- ・6つの視点からのセミナーで、それぞれ一歩前に出る気力ができました
- ・自分史
- ・遺言状を今年作成したいと思います。
- ・「老後のお金の話」、老後の生活費、生きがい、高まるリスク
- ・整理の点が参考になり、早速やり始めた。

※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

D2) 全般を通じて、印象に残った点やご感想・ご意見などがございましたら、具体的にご記入ください。

【自由回答】

- ・グループワークで話す機会が得られたことは意義があったと思います。
- ・前向きな気持ちをもてるようになりました。ありがとうございました。
- ・もう少し時間が欲しい
- ・他にないテーマでよかった。
- ・老後に必要なテーマだったので、各々とても参考になり、よい企画でありました。感謝です。
- ・本講座が今後のリスタートのきっかけとなった。

※なお、文章表現や個人が特定されるような事項などについては、調整を加えている。

第6回アンケート票

シニア世代の生活状況アンケートのお願い

講座名
リタイア後の人生をリフレッシュする講座 1/9

本日は、すくらむ21 および地域彩生フォーラムの協働事業講座にご参加いただき、ありがとうございました。地域におけるシニア世代の生活状況と課題を把握し、効果のある事業実施にむけた参考とさせていただきます。参加者のみなさまにアンケートをお願いしております。

このアンケートは統計的に処理して使用します。あなたご自身のお考えが第三者に知られることはございませんので、皆様の率直なご感想・ご意見をお寄せください。お手数ではございますが、ご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

すくらむ21 特定非営利活動法人
川崎市男女共同参画センター 地域彩生フォーラム

A あなたご自身について伺います

A1) 性別 (〇は1つだけ)

1. 女性 2. 男性

A2) 年齢 (〇は1つだけ)

1. 50歳未満 2. 50~54歳 3. 55~59歳 4. 60~64歳
5. 65~69歳 6. 70~74歳 7. 75~79歳 8. 80歳以上

A3) 職業 (〇は主たるもの1つだけ)

1. 自営業・家族従業 2. 勤め人(フルタイム) 3. パート/アルバイト
4. 専業主婦/主夫 5. 学生 6. 無職
7. その他(具体的に:)

A4) 同居者 (〇はいくつでも可)

1. 同居者はいない 2. 配偶者 3. 子ども 4. 親 5. 孫
6. きょうだい 7. その他(具体的に:)

A5) 本講座へのご参加は、本日で何回目ですか (〇は1つだけ)

1. はじめて 2. 2回目 3. 3回目 4. 4回目 5. 5回目 6. 6回目

B 次に、本日受講された講座について伺います

B1) 本日の講座テーマについて、受講前に、どの程度興味がありましたか。(〇は1つだけ)

1. 非常にあった 2. まああった 3. ふつう 4. あまりなかった 5. なかった

B2) 全体的にお考えになって、あなたは本日の講座にどの程度満足されましたか。(〇は1つだけ)

1. よかった 2. まあよかった 3. ふつう 4. あまりよくなかった 5. よくなかった

B3) 本日の講座で良かった点、改善すべき点がございましたら、それぞれ具体的に記入ください。

C 次に、あなたの生活について伺います

C1) 現在の生活にはどの程度満足されていますか。(〇は1つだけ)

1. 満足している 2. まあ満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

C2) 上記のご回答の理由を、具体的に教えてください。

C3) 最近、知人・友人となられた方はいらっしゃいますか。(〇は1つだけ)

1. いる 2. いない



付問)「1. いる」と回答された方は、どのような方が、具体的に教えてください。

C4) 今後、地域活動を行っていきたいですか。(〇は1つだけ)

1. すでに行っている 2. 今後行っていきたい 3. 行いたくない

D 次に、本連続講座全般について伺います

D1) 8月から実施してきましたこの連続講座は、今回で最後ですが、これまでの講座で取り上げた内容のなかで、実践されているものがございましたら、具体的に記入ください。

D2) 全般を通じて、印象に残った点やご感想・ご意見などがございましたら、具体的に記入ください。

質問は以上です。ご協力、誠にありがとうございました。
次回もご来館をお待ちしております。

すくらむ21
川崎市男女共同参画センター

特定非営利活動法人
地域彩生フォーラム

【著作・編集】

特定非営利活動法人 地域彩生フォーラム
川崎市男女共同参画センター

平成 26 年 2 月